

平成 14・15(2002・2003)年度 科学研究費補助金(基盤研究((C)(1))
課題番号 14510321

タイ・マレーシア・シンガポールにおける 就学前教育の実態に関する実証的比較研究

－民族性・国民性の育成と国際化への対応を中心として－

Comparative Study on Early-Childhood Education in Southeast Asian Countries

- Thailand, Malaysia, Singapore -

中間報告書(資料分析集)

Mid Term Report

平成 15 年(2003 年)3月

研究代表者 池田 充裕

(山梨県立女子短期大学)

はしがき

1. 本研究の意義と特色

日本で暮らす外国人や国際結婚が増え、保育園や幼稚園に入ってくる子どもたちの国籍や言葉はますます多様化している。平成 11 年改訂の『保育所保育指針』は、「子どもの人権に十分に配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるようにすること」を保育目標に掲げており、平成 10 年の『幼稚園教育要領』では、改訂の方針の第一として、「豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること」が挙げられた。

しかし、我が国の保育所・幼稚園の現場では、各国の就学前教育の状況や保育文化、家庭教育に関する情報が不足しており、とりわけ東南アジア諸国やイスラーム教徒の子どもに関しては、その文化的背景に対する基本的な認識の欠如から、いじめや差別など、その受け入れのあり方をめぐって様々な問題が生じている。その一方で、このような環境の変化にあって、幼少時からの“国際性の育成”や“日本人としての自覚の醸成”をどのように行うべきなのかということも緊要の課題となっている。

また、『指針』や『要領』は、以前にもまして、母親支援サークルといった子育て支援のためのネットワーク作りを重視しており、そのための行政側の積極的な対応を要請している。その背景には、“学級崩壊”や“荒れ”といった教育問題が噴出する中、幼少時からの子どもの“心の教育”に対して、家庭・地域・行政が連携して取り組んでいかなければならないという問題認識があるといえる。

このような観点を踏まえながら、本科研費調査研究では、タイ、マレーシア、シンガポールという東南アジアの3カ国を対象に、①就学前教育の現状、②国際化への対応と民族性・国民性の保持・育成、③子どもの“心の教育”に対する家庭・地域・行政の関わり方という3点を問題軸に設定して、実証的な解明・分析を行うことを予定している。

これらの国々では、就学前教育については、仏教寺院やモスクといった宗教組織や地縁的な教育組織が今もなお有力であり、家庭や地域との強い結びつきを維持している。また、多民族国家であるマレーシアやシンガポールは、就学前の段階から二言語教育を実施しており、異文化や国際社会への心構えを早期より育てている。このようなことから、これら3カ国の就学前教育の現状を分析することは、単に外国情報を現場に提供することにとどまらず、我が国の保育・幼児教育全体を逆照射する上でも有益であると思われる。

2. 本研究の目的

本研究は、該当3カ国の就学前教育について、以下の4点を実証的に解明・分析することを目的としている。

- (1) 該当国における就学前教育（保育・幼児教育）の制度的な位置づけや法的基準、小学校との接続・連携、就学前教育機関や家庭に対する行政支援について、資料等からその枠組みを把握する。
- (2) 該当国の就学前教育機関の運営組織（国公立機関、宗教組織、地縁組織）、施設・設備の現状、教員の養成・研修、財政基盤、家庭・地域との連携等について、現地調査からその現状を明らかにする。
- (3) カリキュラムの内容や教科書・教材、教育方法を分析する。具体的には、①母語教育、②民族の伝統文化や生活慣習、国民意識の育成などに関わる価値教育、③国際化に向けた教育的な取り組み（異文化理解教育や外国語教育など）という3点について、その実態や課題を考察する。
- (4) 該当3カ国はいずれも、仏教、キリスト教、イスラームの各宗教組織が運営する就学前教育機関を有している。各国の組織間での異同や協力関係はどのようなものなのか、総合的な比較分析を試みる。

3. 調査活動と来年度の予定

初年度（2002年度）はシンガポールとタイにおいて、国公立の幼稚園・保育園や関連行政機関を中心にインタビュー調査を行った（「研究の概要」（2002年度）参照）。また、図書館や書店でも関係資料の収集にあたった。

来年度（2003年度）は、タイ、マレーシア、シンガポールにおいて、宗教団体や地縁組織などによって運営されている、各地のノンフォーマル就学前教育機関を訪問し、以下の調査項目に関して情報を収集し、その分析を行う予定である。

- (1) 各機関の歴史、運営組織、教育目標・方針、施設・設備の現状、教育の養成・研修、財政状況、家庭や地域との連携について。
- (2) ノンフォーマル機関の保育・教育カリキュラムの内容、利用されている教科書・教材について。昨年と同じく、①母語教育、②価値教育、③国際化に向けた教育的な取り組みの3点を取り上げて、国公立の就学前教育機関との異同を検証する。
- (3) これら機関の母胎組織との関係、国公立の就学前教育機関との連携・協力、公立小学校との接続、行政からの支援や規制について。

本中間報告書（資料分析集）は、来年度研究活動を進める上で、本研究メンバーが共有すべき各国の就学前教育に関する基本情報を整理するために刊行した。また、東南アジアの就学前教育に関心のある方にも利用・参照していただければ幸いである。

来年度は、この報告書で紹介している資料や調査結果を総括的に分析した研究成果報告書を刊行する予定である。

2003年3月

研究代表者 池田充裕

目 次

	(頁)
はしがき	(1)
目次	(3)
研究の概要	(4)
第1章 タイの就学前教育の概要および関連資料	鈴木 康郎 (5)
第2章 マレーシアの就学前教育の概要および関連資料	手嶋 將博 (41)
第3章 シンガポールの就学前教育の概要および関連資料	池田 充裕 (73)

研究の概要

(2002年度)

(1) 研究課題名：

「タイ・マレーシア・シンガポールにおける就学前教育の実態に関する実証的比較研究
ー民族性・国民性の育成と国際化への対応を中心としてー」

(2) 課題番号：14510321

(3) 研究組織 (2003年3月31日現在。五十音順)：

研究代表者：池田充裕 (山梨県立女子短期大学・幼児教育科・助教授)
研究分担者：太田光洋 (旭川大学女子短期大学部・幼児教育科・教授)
鈴木康郎 (筑波大学・教育学系・助手)
研究協力者：手嶋将博 (専修大学・文学部・非常勤講師)

(4) 研究経費： 2002年度 160万円
2003年度 120万円

(5) 国内会合：

- ・第1回会合「研究の主旨説明と今後の進め方について」
日付 平成14(2002)年7月27日(土)
場所 筑波大学 大学研究センター (東京都文京区)

(6) 海外調査：

- ・池田充裕 調査国：シンガポール共和国 (シンガポール)
調査期間：平成14(2002)年8月24日～8月31日(8日間)
訪問機関：ニーアン・ポリテクニク幼児教育学部、人民行動党本部(PCF本部)、
PCF 幼稚園、人民協会チャイルド・ケアセンター、NTUC チャイルド・ケアセンター、RTRC Asia、AECES、Advent Links-SAUC
- ・鈴木康郎 調査国：タイ王国 (バンコク)
調査期間：平成14(2002)年12月15日～12月22日(8日間)
訪問機関：タイ文部省、タイ厚生省保健衛生局、タイ内務省コミュニティ開発局、バンコク都教育局、他

(7) 学会・講演会等発表：

- ・池田充裕「異文化の中の学校づくり・コミュニティづくりー日本とシンガポールの事例からー」
県民コミュニティカレッジ「地域で日本語を教えるとき Part IIーこどもと日本語」
場所：山梨県立女子短期大学 日時：平成14(2002)年10月5日 10:00～12:15

(8) 雑誌・論文等：

- ・池田充裕「世界トップの学力を支える基盤ーシンガポールの幼児教育を見るー」教科教育研究
所編『CS研レポート』第47巻、啓林館、2002年、12-19頁

タイの就学前教育の概要と関連資料

鈴木 康郎

(筑波大学教育学系)

korosuz@human.tsukuba.ac.jp

はじめに

近年、タイの就学前教育は急速な発展を遂げている。こうした状況の背景には、他の発展途上国と同様、初等教育の拡充を第一目標に掲げてきたため、就学前教育への対応が遅れがちであったという事情がある。

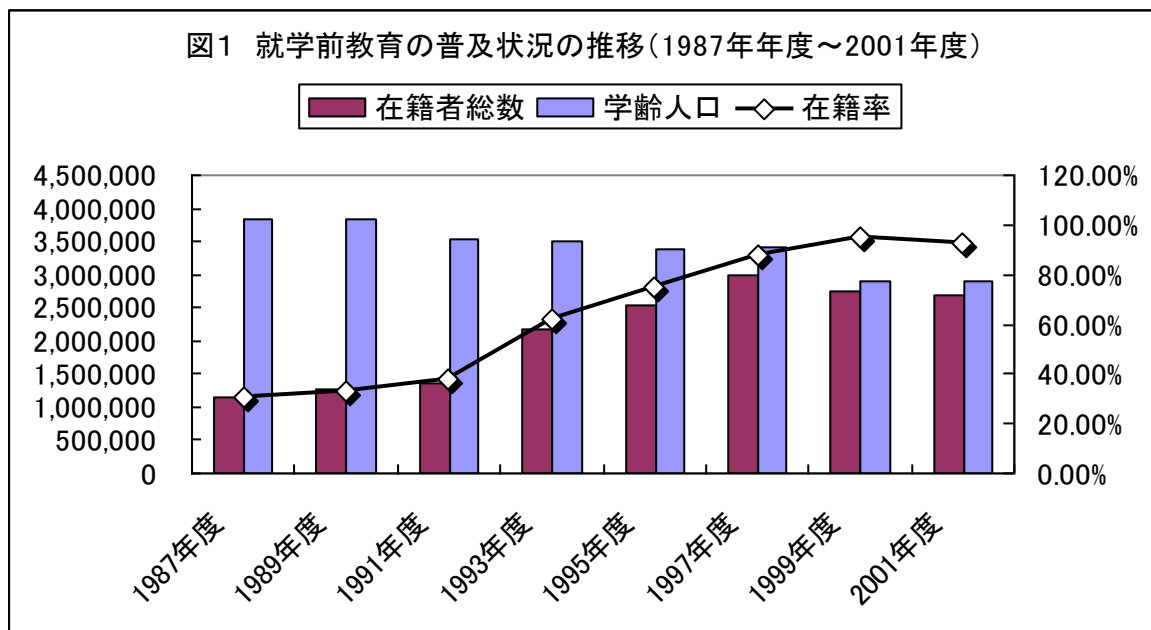
タイでは1940年に最初の幼稚園が設立されて以来、就学前教育施設は漸増したものの、その伸び率は低く、1970年代の段階でも就学前教育施設在籍率は同年齢人口の1割に満たなかった。政府が積極的な拡充策を打ち出すのは1980年代以降のことである。

タイにおける就学前教育は、政府が統一的な指針を持たなかったこともあり、行政機構やその施設の形態が多岐にわたっていることが特徴となっている。行政機構については、後に詳述することとする。就学前教育施設については、①幼児発達センター (Soonpatana Deklek, Child Development Center)、②幼稚園 (Rongrian Anubaan, Kindergarten)、③幼児学級 (Chan Deklek, Pre-School Class) に大別される。なお、②の幼稚園は、一般に国公立幼稚園は2年課程、私立幼稚園は3年課程となっている。③の幼児学級は、一般に小学校に附設され、1年課程となっている。

1. 量的拡充から質の向上へ

1980年代までのタイ就学前教育の課題は何よりもまず量的拡充をはかることにあった。図1に示すように、1987年度で30.31%にすぎなかった就学前教育在籍率は、1990年代以降に大幅な伸びを示し、2001年度には92.75%にまで達している。ただし、学齢人口は漸減傾向にあり、就学前教育施設在籍者の総数も漸減している。

こうした量的拡充を果たした現在、次第に1990年代より就学前教育の質の問題に目が向けられるようになってきている。ただしその質の内実は様々であり、進学重視の私立幼稚園においては、早期教育の一環として英語教育やタイ語の読み書きを積極的に行うようになってきている一方で、国公立の幼稚園においては、生活経験が重視されるようになってきているなど、各教育施設の特徴が色濃く反映されている。



(出典) Ministry of Education, Thailand, *Educational Statistics in Brief*, 各年度版のデータより筆者が作成した。

表1 各省庁の所管する就学前教育施設

省 庁	就学前教育施設の種類		
	幼児発達センター	幼児学級	幼稚園
1. 文部省			
1.1 国家初等教育委員会事務局		○	○
1.2 私立教育委員会事務局		○	○
1.3 ラチャパット事務局		○	○
1.4 普通教育局		○	○
1.5 宗教局	○		
1.6 ノンフォーマル教育局	○		
2. 大学庁			
附属学校		○	○
3. 内務省			
3.1 コミュニティ開発局	○		
3.2 地方行政局		○	○
3.3 国境警備警察本部	○	○	
3.4 バンコク都教育局		○	○
保健局	○		
コミュニティ開発局	○		
4. 厚生省			
4.1 保健局	○		
4.2 精神衛生局	○		
4.3 伝染病管理局	○		
4.4 医療サービス局	○		
5. 労働社会福祉省			
5.1 社会福祉局	○	○	○
5.2 労働保護福祉局	○		

※ ○は各省庁が所管していることを示す。なお、ラチャパットは教員養成カレッジを前身とする地域総合大学である。

(出典) Office of the National Education Commission, *Education in Thailand 1999*, 1999, p.60.

2. 複雑な行政機構

各省庁別の就学前教育在籍者数については、表2に示す通りであり、在籍者の比率は文部省が圧倒的に多い。なお、私立教育委員会事務局では、私立の就学前教育施設に加え、インターナショナルスクールも所管している。

表2 省庁別就学前教育開設クラス数と在籍者数

省庁	開設クラス数	在籍者数
文部省－国家初等教育委員会事務局	67,200	1,392,050
文部省－私立教育委員会事務局	17,875	547,411
文部省－普通教育局	225	2,702
文部省－ラチャパット事務局	167	5,140
文部省 計	85,467	1,947,303
内務省	2,547	84,344
バンコク都	2,314	68,307
総理府	195	6,851
大学庁	32	1,359
労働社会福祉省	2	11
計	90,557	2,108,175

(出典) Ministry of Education, Thailand, 2001 *Educational Statistics in Brief*, 2002, pp.49-50.

3. 統一カリキュラムの実施へ

上述のように、各省庁が所管する就学前教育施設においては、従来その教育内容もまちまちであり、教育の質的水準を確保するためにも実施上のガイドラインの必要性が認識されるようになった。

これを受けて、文部省国家初等教育委員会事務局が独自に作成したガイドラインが「仏暦2534（1991）年就学前教育段階における経験実施計画」であり、事実上のカリキュラムとして国家初等教育委員会事務局所管の就学前教育施設を中心に広く用いられるようになった。

しかしながら、同計画は本来国家初等教育委員会事務局所管の就学前教育施設を対象にしたものであり、あくまでもガイドラインとして位置づけられ、その拘束力も弱かった。

これに対し、すべての就学前教育施設を対象とし、就学前教育初の「カリキュラム」として1997年8月7日に文部省令によって公布されたのが、「仏暦2540（1997）年就学前教育カリキュラム」である。同カリキュラムはすべての省庁所管の各幼稚園・幼児発達センターにおいて、地域の状況および子どもに応じ内容を調整した上で、1998年度より施行するものとされ、現在多くの就学前教育施設で適用されている。また、同カリキュラムは、①誕生～1歳児のカリキュラム、②1歳～3歳児のカリキュラム、③3歳～6歳児のカリキュラムの3部構成となっており、初等教育段階に入るまでの全年齢の幼児を対象としている点も特徴である。

以下、タイの就学前教育に関わる基本関連資料を提示し、若干の解説を行っていくこととしたい。

【資料 1】

タイ総理府国家教育委員会事務局『幼児のための教育政策および計画（0歳～5歳）仏暦 2545（2002）年-2549（2006）年』, 2001 年。

Office of the National Education Commission, *Nayobai Lae Phaenkarnsuksaa Samrab Dekprathomwai (0-5 Pii) Pho Sor 2545-2549*, 2001

< 【資料 1】 本文－抜粋 >

13) ขาดการวิจัย/ความรู้เชิงสังเคราะห์ที่จะเอื้อต่อการเรียนรู้ของเด็ก

มีการศึกษาวิจัยองค์ความรู้ใหม่ ๆ องค์ความรู้เรื่องพัฒนาการของเด็ก การอบรมเลี้ยงดูที่เหมาะสม และทฤษฎีการเรียนรู้ดูแลเด็กปฐมวัย ในต่างประเทศมากมาย องค์ความรู้เหล่านี้น่าจะได้นำมาศึกษาและนำมาปรับใช้ในบริบทของประเทศไทย โดยการวิจัยและพัฒนา การเผยแพร่ รวมทั้งการส่งเสริมให้มีความเชี่ยวชาญแก่ผู้ที่สอนและวิจัยระดับอุดมศึกษา เพื่อนำมาใช้ฝึกอบรมให้ได้ประโยชน์แก่เด็กปฐมวัยในระยะยาว

14) ขาดการมีส่วนร่วมของชุมชน ประชาชน

ประชาชนและชุมชนต้องมีส่วนร่วมและใส่ใจในการพัฒนาเด็กปฐมวัยให้มากขึ้น เพื่อให้พลังชุมชนและท้องถิ่นเป็นขุมกำลังที่ช่วยดูแลเด็กได้อย่างต่อเนื่องและมีคุณภาพ

15) ขาดการทอนแผนไปสู่การปฏิบัติ

ประเทศไทยมีนโยบายและแผนการพัฒนาเด็กมาเป็นเวลากว่า 20 ปี แต่ไม่มีการกำหนดผู้รับผิดชอบโดยตรงในการนำแผนไปสู่การปฏิบัติ และไม่มีการติดตามประเมินผลให้มีการดำเนินการให้เป็นตามนโยบายและแผนต่าง ๆ

5. วิสัยทัศน์

เด็กปฐมวัยทุกคนได้รับการพัฒนาที่เหมาะสมเพื่อให้เติบโตอย่างมีคุณภาพ เรียนรู้อย่างมีความสุข และพัฒนาอย่างรอบด้าน สมดุล เต็มศักยภาพ ในปลายปี 2549

6. วัตถุประสงค์ของนโยบายและแผน

- 1) เพื่อให้มีแนวคิดและแนวทางร่วมกันทั้งชาติ ในการพัฒนาเด็กปฐมวัย
- 2) เพื่อให้สามารถนำไปทอนเป็นแผนปฏิบัติการและกำหนดผู้รับผิดชอบในการดำเนินงานอย่างเป็นรูปธรรม
- 3) เพื่อเป็นแนวทางในการเก็บข้อมูล ข้อเสนอแนะ ติดตามงาน และประเมินผลได้
- 4) ให้การพัฒนาเด็กปฐมวัยเป็นส่วนหนึ่งของการปฏิรูปการศึกษา

7. นโยบาย

จัดการศึกษาและพัฒนาเด็กปฐมวัยช่วงอายุ 0-5 ปี เพื่อให้เด็กทุกคนได้พัฒนาอย่างเต็มศักยภาพและมีคุณภาพ โดยให้ทุกส่วนของสังคมมีส่วนร่วมในการจัดบริการให้สอดคล้องกับสภาพของท้องถิ่นและผู้รับบริการ

8. เป้าหมาย

- 1) เด็กอายุ 0-5 ปีทุกคน
- 2) พ่อแม่ สมาชิกในครอบครัว ผู้เตรียมตัวเป็นพ่อแม่
- 3) ผู้ที่เกี่ยวข้องกับเด็กโดยตรง ได้แก่ ครู ผู้ดูแลเด็ก พี่เลี้ยงเด็ก ผู้เลี้ยงดูเด็ก ผู้สูงอายุที่ดูแลเด็ก เจ้าหน้าที่สาธารณสุข นักสังคมสงเคราะห์ ฯลฯ
- 4) ชุมชน ได้แก่ องค์กรปกครองส่วนท้องถิ่น องค์กรชุมชน ต่าง ๆ ผู้นำทางศาสนา อาสาสมัครในรูปแบบต่างๆ กลุ่มอาชีพ นักเรียน/เยาวชน ฯลฯ

5) สังคม ได้แก่ สถาบันทางสังคม สื่อมวลชน นักวิชาชีพ และองค์กรวิชาชีพต่าง ๆ องค์กรของรัฐ องค์กรเอกชน ฯลฯ

9. ยุทธศาสตร์

1) การพัฒนาเด็กอายุต่ำกว่า 3 ปี ใช้หลักการ บ้านเป็นฐานในการเลี้ยงดู (home based approach) ซึ่งบุคคลสำคัญคือ พ่อแม่ ผู้ปกครอง และสมาชิกในครอบครัว

2) เด็กอายุ 3-5 ปี ใช้สถานพัฒนาเด็กหรือรูปแบบอื่นที่เป็นทั้งในระบบ นอกระบบ และตามอัธยาศัย โดยให้ผู้ดูแลเด็ก ฯลฯ มีลักษณะเป็น “มืออาชีพ” และร่วมมือกับพ่อแม่ ผู้ปกครองและครอบครัว

3) การพัฒนาเด็กอายุ 0-5 ปี ที่ดีและมีคุณภาพต้องมีระบบการส่งต่อ เพื่อเชื่อมโยงจากบ้านไปศูนย์พัฒนาเด็กปฐมวัย และโรงเรียน

4) การพัฒนาความรู้และทักษะแก่ผู้ที่เกี่ยวข้องกับเด็กอายุ 0-5 ปี

5) สร้างความพร้อมให้ชุมชนและท้องถิ่นสามารถดำเนินการจัดการศึกษาและพัฒนาเด็กได้อย่างมีประสิทธิภาพ

6) สังคมร่วมรับผิดชอบในการพัฒนาเด็กปฐมวัยอย่างครบวงจร ตั้งแต่วางแผนปฏิบัติการ ใฝ่ระวัง ตรวจสอบ และประเมินผล

7) เมื่อชุมชนและท้องถิ่นมีความเข้มแข็งพอ ทั้งด้านเศรษฐกิจ และความรู้ ความสามารถ ให้รัฐกระจายความรับผิดชอบไปยังชุมชนท้องถิ่น (ครอบครัว ชุมชน อบต. เทศบาล เอกชน องค์กรเอกชน และอื่น ๆ) ดำเนินการเต็มทีในทุกด้าน รัฐจำกัดบทบาทของตนเอง ให้เป็น

ผู้กำหนดนโยบาย รูปแบบ การตรวจสอบมาตรฐาน การประเมินผล และการช่วยเหลือผู้ด้อยโอกาสกลุ่มต่าง ๆ

10. ข้อเสนอสู่ความสำเร็จ

1) รัฐประกาศนโยบายให้ชัดเจนที่จะสนับสนุนส่งเสริมให้มีการดำเนินการด้วยการจัดสรรงบประมาณในการพัฒนาเด็กปฐมวัยโดยถือเป็นการลงทุนที่สำคัญ

2) ทุกส่วนของสังคมตั้งแต่ครอบครัว ชุมชน หน่วยงานของรัฐ เอกชน ธุรกิจเอกชน สื่อมวลชน และสถาบันสังคมต่าง ๆ ต้องตระหนักถึงความสำคัญในการพัฒนาเด็กอายุ 0-5 ปี และเห็นความจำเป็นในการวางรากฐานที่มั่นคงต่อชีวิต

3) ต้องมีความร่วมมือกันระหว่างทุกส่วนในสังคมในการพัฒนา และการให้บริการสำหรับเด็กปฐมวัยอย่างเป็นระบบ มีความหลากหลาย และ ต่อเนื่อง เพื่อให้เกิดกระบวนการการเรียนรู้ที่มีคุณภาพ

4) ต้องมีการประสานงานกันชัดเจนระหว่างหน่วยงานหลักที่ดูแลเด็กปฐมวัย ทั้งหน่วยนโยบาย หน่วยปฏิบัติ และหน่วยงานวิชาการ

5) กำหนดมาตรฐานของการพัฒนาเด็กปฐมวัย และต้องมีการประเมินผล

6) ต้องดำเนินการจัดทำแผนปฏิบัติการเป็นรายละเอียด พร้อมทั้งกำหนดตัวบ่งชี้และติดตามผลทุกระดับ

7) ต้องมีทรัพยากรบุคคล เงิน และอุปกรณ์เครื่องใช้ให้เพียงพอในการพัฒนาเด็กปฐมวัย และมีทรัพยากรเพียงพอในการติดตามประเมินผล

<【資料1】要旨>

幼児のための教育政策および計画（0歳～5歳） 仏暦 2545 年-2549 年

総理府国家教育委員会事務局

5. 展望

2006 年末までに、すべての幼児は適切な開発を受け、質のある成長を遂げ、幸福に学習し、バランスよく潜在能力を最大限に全面的発達できるようにする。

6. 政策および計画の目標

- 1) 国家全体が幼児開発において、共通の概念およびガイドラインを持つこと。
- 2) 実践計画に移し、具体的に実施責任者を決めること。
- 3) データ、統計、追跡および評価のガイドラインとなること。
- 4) 幼児開発を教育改革の一部とする。

7. 政策

0歳～5歳の幼児のための開発および教育実施である。すべての子どもが潜在能力を最大限に、質のある開発を受けられるようにする。社会のすべての部門が教育に参加し、地域および提供を受ける者の状況に対応する。

8. 目標

- 1) すべての0歳～5歳の幼児
- 2) 親、家族のメンバー、親になるもの
- 3) 直接子どもの関係者。それは、教師、子どもを世話する人、子どもを世話する高齢者、厚生職員、社会福祉職員など。
- 4) コミュニティ。それは、地方自治体、さまざまなコミュニティ組織、宗教指導者、さまざまなかたちのボランティア、職業グループ、学生、青少年など。
- 5) 社会。それは、社会組織、マスコミ、職業人およびさまざまな職業組織、政府の組織、民間の組織など。

9. 戦略

- 1) 3歳以下の子どもの開発は家庭ベースアプローチ（home based approach）の原理に基づく。重要な人物は親、保護者および家族のメンバー。
- 2) 3歳～5歳の子どもは子ども開発センターまたは他の形態のもの-フォーマル、ノンフォーマルおよびインフォーマルのもの-を含めて、利用し、子どもを世話する人などは

「プロフェッショナル」としての資質を持ち、親、保護者および家族と協力する。

- 3) 質のある良い0歳～5歳の子どもの開発はシステムのであり、家庭と幼児発達センターと学校との継続性を持つ。
- 4) 0歳～5歳の子どもの関係者の知識とスキルを開発する。
- 5) コミュニティおよび地域が効率的に子どもを教育および開発できるよう促進する。
- 6) 社会は幼児の開発に次のフルサークルについて責任を持っている。それは、計画、観察、チェックおよび評価。
- 7) コミュニティおよび地域が経済、知識、能力の面で強化されたら、政府はコミュニティや地域に（家庭、コミュニティ、オーボートー（郡自治体）、民間、民間組織など）責任を移譲する。政府は自分の役割を制限し、政策策定、形式規定、基準のチェック、評価および恵まれない人のさまざまなグループへの援助に限る。

10. 成功の条件

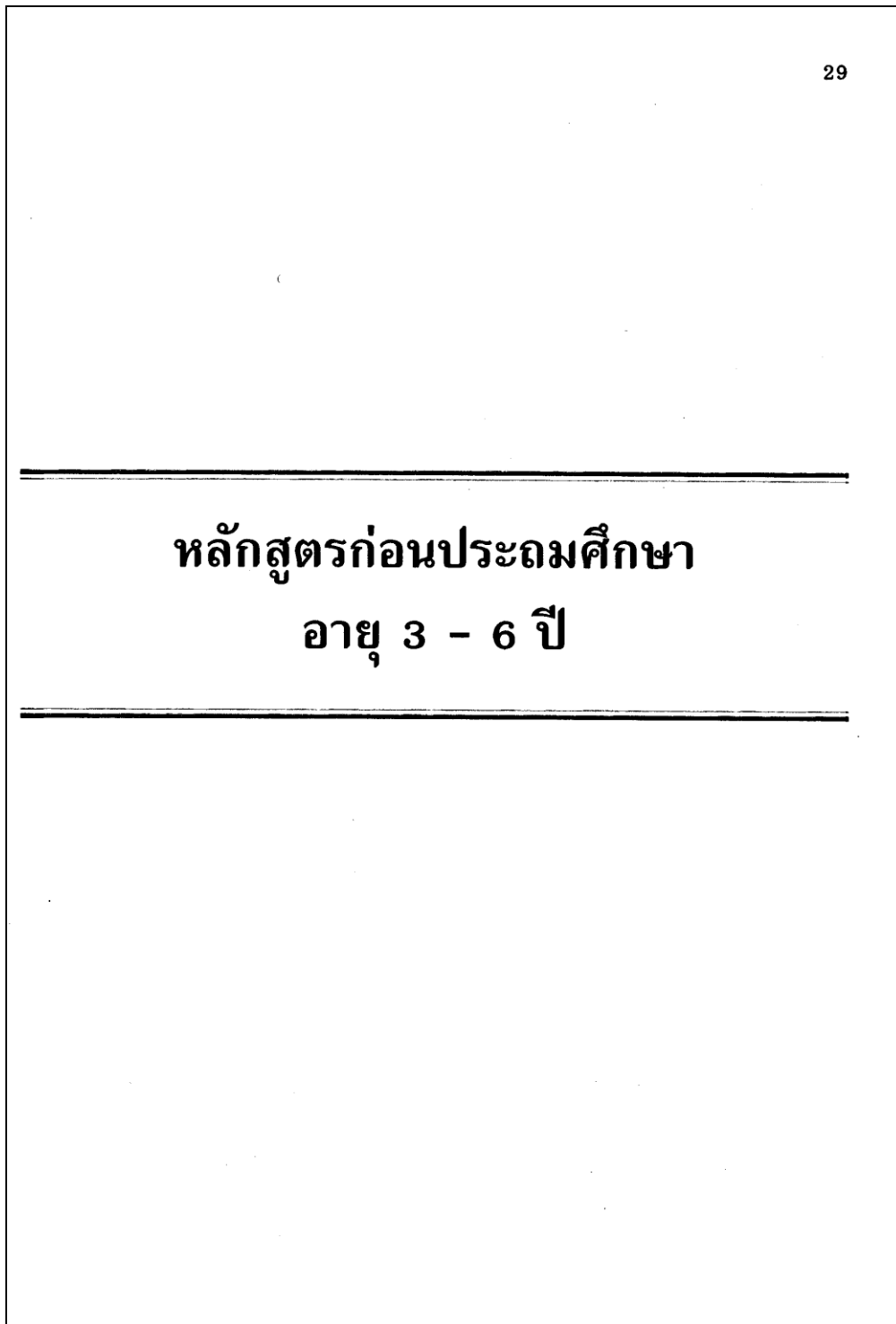
- 1) 政府は重要な投資として、幼児開発に対する予算を配分すると明確な政策を表明する。
- 2) 社会のさまざまな部分、家庭、コミュニティ、政府機関、民間、民間企業、マスコミおよびさまざまな社会組織は、0歳～5歳の子どもの重要性を認識し、生活の安定としている基盤づくりの重要性を認識する。
- 3) 社会のすべての部分が質のある学習課程をもたらすために、幼児に対する開発、サービス提供を系統的に多様に継続的に行うことに協力し合う。
- 4) 幼児を担当する主な組織、政策、実践、および学術組織が協力体制を持つ。
- 5) 幼児開発の基準を定め、評価を用いる。
- 6) 実施計画を詳細に作成し、各レベルでの指標を規定し、評価を行う。
- 7) 幼児開発のために人材、資金、設備を十分にもち、追跡評価に十分な資源を持つ。

【資料 2】

タイ文部省学術局, 『仏暦 2540 (1997) 年就学前教育カリキュラム』, 1999 年

Department of Curriculum and Instruction, Ministry of Education, *Laksut Kornprathomsuksaa Phutasakarat 2540*, 1999

< 【資料 2】 本文－3 歳から 6 歳児カリキュラム部分の抜粋 >



หลักสูตรก่อนประถมศึกษา อายุ 3-6 ปี

การจัดการศึกษาสำหรับเด็กอายุ 3 - 6 ปี เป็นการจัดในลักษณะของการอบรม เลี้ยงดูและการให้การศึกษาแก่เด็กทุกด้าน ทั้งด้านร่างกาย อารมณ์ จิตใจ สังคม และสติปัญญาตามวัยและความสามารถของแต่ละบุคคล เพื่อเป็นพื้นฐานในการดำรงชีวิตและอยู่ในสังคมได้อย่างมีความสุข

หลักการ

1. เป็นการจัดการศึกษาให้ครอบคลุมเด็กทุกประเภท ที่มีอายุระหว่าง 3 - 6 ปี
2. เป็นการพัฒนาเด็กโดยยึดหลักการอบรมเลี้ยงดูและให้การศึกษา
3. เป็นการพัฒนาเด็กโดยองค์รวม ทั้งด้านร่างกาย อารมณ์ จิตใจ สังคม และสติปัญญา ผ่านกิจกรรมการเล่นที่เหมาะสมกับวัย วุฒิภาวะ และความแตกต่างระหว่างบุคคล
4. เป็นการจัดประสบการณ์ที่让孩子สามารถดำรงชีวิตประจำวันได้อย่างมีคุณภาพและมีความสุข
5. เป็นการพัฒนาเด็กโดยบุคลากรที่มีความรู้ความสามารถในการจัดการศึกษาระดับก่อนประถมศึกษา
6. เป็นการพัฒนาเด็กโดยให้ครอบครัว และชุมชนมีส่วนร่วม

จุดมุ่งหมาย

เพื่อให้เด็กอายุ 3 - 6 ปี มีคุณลักษณะที่พึงประสงค์และคุณลักษณะตามวัยดังต่อไปนี้

คุณลักษณะที่พึงประสงค์

1. มีสุขภาพดี เจริญเติบโตตามวัยและมีพฤติกรรมอนามัยที่เหมาะสม
2. ใช้กล้ามเนื้อใหญ่กล้ามเนื้อเล็กได้อย่างคล่องแคล่วและประสานสัมพันธ์กัน
3. ร่าเริง แจ่มใส มีความสุข และความรู้สึกที่ดีต่อตนเองและผู้อื่น
4. มีคุณธรรมและจริยธรรม มีวินัยในตนเอง และมีความรับผิดชอบ

32

5. ช่วยเหลือตนเองได้เหมาะสมกับสภาพและวัย
6. อยู่ร่วมกับผู้อื่นได้อย่างมีความสุขและเป็นสมาชิกที่ดีของสังคมในระบอบประชาธิปไตย อันมีพระมหากษัตริย์เป็นประมุข
7. รักธรรมชาติ สิ่งแวดล้อม วัฒนธรรมในท้องถิ่น และความเป็นไทย
8. ใช้ภาษาเพื่อการสื่อสารได้เหมาะสมกับวัย
9. มีความสามารถในการคิด การแก้ปัญหาได้เหมาะสมกับวัยและมีเจตคติที่ดีต่อการเรียนรู้สิ่งต่างๆ
10. มีจินตนาการและความคิดริเริ่มสร้างสรรค์

คุณลักษณะตามวัย

เด็กอายุ 3 - 4 ปี

พัฒนาการด้านร่างกาย :

- เดินขึ้นบันไดสลับเท้าได้
- วิ่งแล้วหยุดได้โดยไม่ล้ม
- ใช้กรรไกรมือเดียวได้
- วาดและระบายสีอิสระได้

พัฒนาการด้านอารมณ์ จิตใจ และสังคม:

- พอใจคนที่ตามใจ
- ชอบที่จะทำให้ผู้ใหญ่พอใจและได้คำชม
- ช่วยตนเองได้
- ชอบเล่นแบบคู่ขนาน (เล่นของเล่นชนิดเดียวกันแต่ต่างคนต่างเล่น)

พัฒนาการด้านสติปัญญา :

- สนใจนิทานและเรื่องราวต่างๆ
- ออยากรู้อยากเห็นทุกอย่างรอบตัว
- ชอบถาม “ทำไม” ตลอดเวลา
- ร้องเพลงง่ายๆ แสดงท่าทางเลียนแบบ
- พูดประโยคยาวขึ้น

เด็กอายุ 4 - 5 ปี

พัฒนาการด้านร่างกาย :

- เดิน วิ่ง กระโดด ได้ดี เพราะกล้ามเนื้อเริ่มประสานสัมพันธ์กัน
- กระฉับกระเฉงไม่ชอบอยู่เฉย
- ตัดกระดาษเป็นเส้นตรงได้

พัฒนาการด้านอารมณ์ จิตใจ และสังคม :

- มีความมั่นใจตนเองสูงขึ้นมาก
- ชอบท้าทายผู้ใหญ่
- ต้องการให้มีคนฟัง คนสนใจ
- สนใจผู้อื่น
- ชอบเล่นบทบาทสมมติ
- ชอบเล่นเป็นกลุ่ม

พัฒนาการด้านสติปัญญา :

- เปรียบเทียบได้
- เรียงลำดับเหตุการณ์ได้
- เริ่มเข้าใจสิ่งที่เป็นนามธรรม
- ชอบถาม “ทำไม” เนื่องจากเริ่มเรียนรู้ได้แล้ว
- เข้าใจความเป็นเหตุเป็นผลได้
- พุดเป็นประโยคได้

เด็กอายุ 5 - 6 ปี

พัฒนาการด้านร่างกาย :

- เดินขึ้นลงบันไดสลับเท้าได้อย่างคล่องแคล่ว
- กระฉับกระเฉงไม่อยู่เฉย
- ใช้กล้ามเนื้อเล็กได้ดี เช่น ตัดกระดาษ ผูกเชือกทรงเท้าได้ ฯลฯ
- ยึดตัว คล่องแคล่ว

พัฒนาการด้านอารมณ์ จิตใจ สังคม :

- ยึดตัวเองเป็นศูนย์กลางน้อยลง
- ชอบเล่นกับเด็กอื่น
- ช่วยตัวเองได้
- ชอบสร้างความพอใจให้ผู้อื่น
- ชอบแสดงออกและทำสิ่งที่ถูกต้องเพื่อให้ผู้ใหญ่ชมเชย

พัฒนาการด้านสติปัญญา :

- พูดประโยคได้ยาวขึ้น
- รู้คำศัพท์มากขึ้น
- ร้องเพลง ท่องคำคล้องจองได้
- บอกชื่อ นามสกุล ของตนเองได้
- นับ 1-20 ได้
- บอกความแตกต่างของกลิ่น สี เสียง รส รูปร่าง จำแนก และ จัดหมวดหมู่สิ่งของได้

อายุของผู้เรียน

เด็กอายุระหว่าง 3 - 6 ปี

ระยะเวลาเรียน

ใช้เวลาในการจัดประสบการณ์ให้กับเด็ก 1 - 3 ปีการศึกษา โดยประมาณ ทั้งนี้ขึ้นอยู่กับอายุของเด็กที่เริ่มเข้ารับการอบรมเลี้ยงดูและให้การศึกษา

แนวทางการจัดประสบการณ์

เพื่อให้การจัดประสบการณ์และกิจกรรมบรรลุผลตามจุดมุ่งหมายจึงกำหนดแนวทางการจัดประสบการณ์ ดังนี้

1. ส่งเสริมพัฒนาการทุกด้านของเด็กโดยองค์รวมอย่างต่อเนื่อง
2. จัดให้สอดคล้องกับจิตวิทยาพัฒนาการและการเรียนรู้ของเด็ก

3. ยึดเด็กเป็นศูนย์กลาง สนองความต้องการ ความสนใจ ความแตกต่างระหว่างบุคคล และเปิดโอกาสให้เด็กริเริ่มกิจกรรมของตนเองโดยครูเป็นผู้สนับสนุนอำนวยความสะดวก และเรียนรู้ร่วมกับเด็ก
4. จัดสภาพแวดล้อมที่เอื้อต่อการเรียนรู้และมีบรรยากาศที่อบอุ่น เพื่อให้เด็กมีความสุข
5. จัดกิจกรรมในรูปแบบบูรณาการ โดยคำนึงถึงพัฒนาการทุกด้าน
6. จัดประสบการณ์ตรง ให้เด็กเรียนรู้จากประสาทสัมผัสทั้ง 5 มีโอกาสสังเกต สำรวจ เล่น ค้นคว้า ทดลอง แก้ปัญหาด้วยตนเอง
7. จัดให้เด็กมีปฏิสัมพันธ์กับวัตถุสิ่งของ กับเด็ก และกับผู้ใหญ่
8. จัดให้มีความสมดุล มีทั้งกิจกรรมที่เด็กริเริ่มและครูริเริ่ม กิจกรรมในห้องเรียนและนอกห้องเรียน กิจกรรมที่ต้องเคลื่อนไหวและสงบ
9. จัดให้เด็กได้เรียนรู้ผ่านการเล่นที่หลากหลายทั้งรายบุคคล กลุ่มย่อยและกลุ่มใหญ่
10. จัดให้เด็กได้รับการพัฒนาโดยให้ความสำคัญกับกระบวนการมากกว่าผลผลิต
11. จัดให้สอดคล้องกับสภาพแวดล้อม วัฒนธรรมท้องถิ่น และเอื้อต่อการนำไปใช้ในชีวิตประจำวัน
12. จัดกิจกรรมให้เด็กมีจิตสำนึกในการรับผิดชอบต่อตนเอง ต่อส่วนรวม รักธรรมชาติและรักท้องถิ่น
13. จัดให้เด็กมีส่วนร่วมในการวางแผน ลงมือปฏิบัติ และบอกผลการปฏิบัติกิจกรรมของตนเองและผู้อื่นได้
14. จัดการประเมินพัฒนาการให้เป็นกระบวนการอย่างต่อเนื่องและเป็นส่วนหนึ่งของการจัดประสบการณ์
15. เปิดโอกาสให้ผู้ปกครองและชุมชนมีส่วนร่วมในการพัฒนาเด็ก

เนื้อหา

เนื้อหาที่จะนำไปใช้จัดกิจกรรมสำหรับเด็กอายุ 3-6 ปี กำหนดไว้ 2 ลักษณะ ดังนี้

- (1) ประสบการณ์สำคัญ เป็นประสบการณ์ที่ครูควรนำไปใช้จัดกิจกรรมส่งเสริมพัฒนาการเด็กให้ครอบคลุมทั้ง 9 ข้อดังนี้

1. การสื่อความคิดที่เป็นการกระทำ ได้แก่

- การรู้จักสิ่งต่าง ๆ ด้วยการมอง ฟัง สัมผัส ชิมรส และดมกลิ่น
- การเลียนแบบการกระทำและเสียงต่าง ๆ
- การเชื่อมโยงภาพ ภาพถ่าย และรูปแบบต่าง ๆ กับสิ่งของหรือสถานที่จริง
- การเล่นบทบาทสมมติ
- การสร้างแบบจำลองต่าง ๆ ด้วยดินเหนียว ดินน้ำมัน แป้งไม้ ฯลฯ
- การเขียนภาพและระบายสีอิสระ

2. การใช้ภาษา ได้แก่

- การแสดงความรู้สึกด้วยคำพูด
- การพูดกับผู้อื่นเกี่ยวกับประสบการณ์ของตนเอง หรือเล่าเรื่องราวเกี่ยวกับตนเอง
- การอธิบายเกี่ยวกับสิ่งของ เหตุการณ์และความสัมพันธ์ของสิ่งต่าง ๆ
- การสนุกกับการฟังเรื่องราวนิทาน คำคล้องจอง คำกลอน
- การสนุกกับการเขียนในหลายรูปแบบผ่านประสบการณ์ที่สื่อความหมายต่อเด็กตามธรรมชาติ เขียนภาพ เขียนขีดเขียน เขียนคล้ายตัวอักษร เขียนเหมือนสัญลักษณ์
- การสนุกกับการอ่านในหลายรูปแบบผ่านประสบการณ์ที่สื่อความหมายตามธรรมชาติ อ่านภาพนิทานหรือสัญลักษณ์

3. การเรียนรู้ทางสังคม ได้แก่

- การวางแผน ตัดสินใจเลือก ลงมือปฏิบัติ
- การแก้ปัญหาในการเล่น
- การร่วมปฏิบัติกิจวัตรประจำวันของกลุ่ม
- การรับรู้ที่ไวต่อความรู้สึก ความสนใจ และความต้องการของผู้อื่น
- การสร้างความสัมพันธ์กับเด็กและผู้ใหญ่
- การมีประสบการณ์ทางการเล่นสร้างสรรค์ร่วมกับเด็กอื่น

4. การเคลื่อนไหว ได้แก่

- การเคลื่อนไหวจากที่หนึ่งไปที่หนึ่ง
- การเคลื่อนไหวพร้อมวัสดุอุปกรณ์

- การแสดงความคิดสร้างสรรค์ผ่านการเคลื่อนไหว
- การรับรู้และแสดงความรู้สึกด้วยการเคลื่อนไหวกับจังหวะ

5. ดนตรี ได้แก่

- การแสดงปฏิกิริยาโต้ตอบเสียงดนตรี
- การเล่นเครื่องเล่นดนตรีง่ายๆ เช่น เครื่องดนตรีประเภทเคาะ ประเภทตี ฯลฯ
- การร้องเพลง

6. การจำแนกและการเปรียบเทียบ ได้แก่

- การสำรวจและอธิบายความเหมือน ความต่างของสิ่งต่างๆ
- การจับคู่ การจำแนก และการจัดกลุ่ม
- การใช้หรืออธิบายสิ่งต่างๆ ด้วยวิธีการที่หลากหลาย
- การเปรียบเทียบ เช่น ยาว/สั้น ขรุขระ/เรียบ ฯลฯ
- การเรียงลำดับสิ่งต่างๆ

7. จำนวน ได้แก่

- การเปรียบเทียบจำนวน มากกว่า น้อยกว่า เท่ากัน
- การจับคู่หนึ่งต่อหนึ่ง
- การนับสิ่งต่างๆ โดยการท่องจำ

8. มิติสัมพันธ์ (พื้นที่/ระยะ) ได้แก่

- การต่อเข้าด้วยกัน และการแยกออก
- การบรรจุและการเทออก
- การจัด การเปลี่ยนรูปทรงของวัตถุ สิ่งต่างๆ
- การสังเกตสิ่งต่างๆ และสถานที่จากมุมมองที่ต่างๆ กัน
- การมีประสบการณ์และการอธิบายในเรื่องตำแหน่งของวัตถุที่สัมพันธ์กัน

เช่น บน ล่าง ฯลฯ

• การมีประสบการณ์และการอธิบายในเรื่องทิศทางการเคลื่อนที่ของวัตถุ และคน เช่น ออกจาก ข้างหน้า ห่างไกลจาก ฯลฯ

- การสื่อความหมายของมิติสัมพันธ์ด้วยภาพวาด ภาพถ่าย และรูปภาพ

9. เวลา ได้แก่

- การหยุดและการเริ่มต้นการกระทำ โดยใช้สัญญาณ
- การมีประสบการณ์และเปรียบเทียบเวลา เช่น ตอนเช้า ตอนเย็น
เมื่อวานนี้ พรุ่งนี้ ฯลฯ
- การสังเกตความเปลี่ยนแปลงของฤดู
- การมีประสบการณ์และการเรียงลำดับเหตุการณ์ต่าง ๆ

(2) เนื้อหาและแนวคิด เนื้อหาในส่วนนี้กำหนดเฉพาะหัวข้อไม่มีรายละเอียดให้ แต่มีแนวคิดในแต่ละหัวข้อ ทั้งนี้เพื่อประสงค์ให้ผู้สอนกำหนดรายละเอียดขึ้นเอง ให้สอดคล้องกับความต้องการ ความสนใจของเด็กได้โดยง่าย สามารถยืดหยุ่นเนื้อหา เหล่านี้ได้ โดยคำนึงถึงประสบการณ์และสิ่งแวดล้อมในชีวิตจริงของเด็ก ส่วนแนวคิด เป็นสิ่งที่ต้องการให้เกิดกับเด็กหลังจากที่จัดประสบการณ์หรือกิจกรรมให้เด็กปฏิบัติแล้ว ดังนั้นจึงไม่ต้องการให้นำเนื้อหาและแนวคิดไปให้เด็กท่องจำ หัวข้อเนื้อหาและแนวคิด มีดังนี้

1. ตัวเรา

- ฉันมีชื่อตั้งแต่เกิด ฉันมีเสียง รูปร่างหน้าตาไม่เหมือนใคร ฉันภูมิใจที่เป็นตัวฉันเอง คนอื่น ๆ ก็ภูมิใจในตัวเองเช่นกัน
- ฉันมีอวัยวะต่าง ๆ เช่น ตา หู จมูก ปาก ขา มือ ผม ผิวหนัง นิ้วมือ นิ้วเท้า
- ฉันรู้จักระวังรักษาอวัยวะต่าง ๆ ให้มีความปลอดภัย ไม่เป็นอันตรายและใช้การได้ดี
- ฉันรู้จักวิธีรักษาร่างกายให้สะอาดมีสุขภาพดีได้
- ฉันต้องรับประทานอาหาร ออกกำลังกาย และพักผ่อน เพื่อช่วยให้ฉันเจริญเติบโต
- ฉันล้างมือก่อนรับประทานอาหารหรือหลังจากเข้าห้องน้ำ
- ฉันต้องระวังรักษาปากและฟันให้สะอาด
- ฉันต้องออกกำลังกายและพักผ่อนเพื่อช่วยให้ฉันเจริญเติบโต ฉันจะมีน้ำหนักและส่วนสูงเพิ่มขึ้น
- ฉันสามารถทำงาน เล่นคนเดียว เล่นกับผู้อื่น และเรียนรู้กฎกติกาการเล่นต่าง ๆ ได้

- ฉันเรียนรู้ที่จะระมัดระวังรักษาความปลอดภัยของตนเองในขณะที่เล่นหรือทำกิจกรรมต่าง ๆ

- ฉันไม่เดินบนถนนโดยลำพัง
- ฉันไม่เล่นไม้ขีดไฟ มีด ปืน เพราะเป็นสิ่งอันตรายต่อชีวิต
- ฉันจะรับประทานยา เมื่อแพทย์ พ่อแม่ หรือครูให้
- ฉันสามารถเรียนรู้ได้ดีด้วยการลงมือกระทำ สำรวจ ใช้ความคิด ตาดู หูฟัง มือสัมผัส ลิ้นชิมรส และจมูกดมกลิ่น

- สิ่งที่คุณทำได้ทั้งง่ายและยาก คุณจะพยายามทำสิ่งต่าง ๆ ให้สำเร็จ และฉันจะทำสิ่งต่าง ๆ ได้มากกว่านี้ เมื่อฉันโตขึ้น

- ฉันสามารถเรียนรู้ที่จะทำสิ่งต่าง ๆ ด้วยตนเอง เช่น แต่งตัว อาบน้ำ แปรงฟัน รับประทานอาหาร ฯลฯ

- ฉันอาจรู้สึกดีใจ เสียใจ โกรธ เหนื่อย หรืออื่น ๆ แต่ฉันเรียนรู้ที่จะแสดงความรู้สึกในทางที่ดี

- เมื่อฉันแสดงความคิดหรือทำสิ่งต่าง ๆ ด้วยความคิดของตนเอง แสดงว่าฉันมีความคิดสร้างสรรค์ ความคิดและแนวคิดของฉันเป็นสิ่งสำคัญ แต่คนอื่นก็มีความคิดที่ดีเหมือนฉันเช่นกัน

- ฉันสามารถเรียนรู้กฎระเบียบต่าง ๆ และปฏิบัติตามได้
- ฉันสามารถเรียนรู้การมีมารยาทที่ดี สุภาพเรียบร้อย มีความเมตตา กรุณา รู้จักแบ่งปัน ฉันภูมิใจที่ฉันเป็นคนดี

- ฉันยินดีช่วยเหลืองานทั้งที่บ้านและโรงเรียน

- ฉันภูมิใจที่ฉันเป็นคนไทย

2. ครอบครัว

- บ้าน คือ สถานที่ที่คนในครอบครัวอาศัยอยู่ บ้านมีแบบต่าง ๆ กันเช่น บ้านไม้ ตึก บ้านในเรือ ฯลฯ บริเวณพื้นที่รอบบ้านมีมากมายต่างกันบางบ้านอาจจะปลูกต้นไม้ ดอกไม้

- บ้านอาจจะมี 1 ห้อง หรือหลายห้อง แต่ละห้องมีของใช้อำนวยความสะดวก
- ฉันอยู่กับครอบครัว ครอบครัวของฉัน คือ กลุ่มคนที่อาศัยอยู่ด้วยกัน ช่วยดูแลซึ่งกันและกัน ในครอบครัวมีพ่อ แม่ พี่ น้อง บางครอบครัวอาจมี ปู่ ย่า ตา ยาย ลุง ป้า น้า อา

40

- ทุกคนในครอบครัวของฉันเป็นบุคคลสำคัญและต้องช่วยกันทำงาน
 - พ่อของฉันเป็นผู้ชาย แม่ของฉันเป็นผู้หญิง เด็กผู้ชายเรียกลูกชาย เด็กผู้หญิงเรียกลูกสาว บางคนอาจจะมีพี่ชาย พี่สาว น้องชาย น้องสาว
 - ทุกคนในครอบครัวของฉันต้องการที่อยู่อาศัย อาหาร เสื้อผ้า ต้องการความรัก ความอบอุ่น
 - ครอบครัวของฉันมีการดำเนินชีวิตและความเชื่อมั่นของตนเอง
 - ในครอบครัวต้องการความรัก ความอบอุ่น และต้องช่วยเหลือดูแลซึ่งกันและกัน ถ้าในครอบครัวมีสัตว์เลี้ยงทุกคนต้องช่วยกันดูแล
 - ฉันอาศัยอยู่ในครอบครัวและทำกิจกรรมร่วมกัน
 - ทุกคนในครอบครัวของฉันเป็นบุคคลสำคัญและต้องช่วยกันทำงาน
 - ทุกคนในครอบครัวต้องช่วยกันดูแลรักษาสุขภาพ ความปลอดภัยและปฏิบัติตามกฎระเบียบที่ตกลงกันภายในบ้าน
 - ฉันจะต้องขออนุญาตใช้สิ่งของต่าง ๆ ที่ฉันมิได้เป็นเจ้าของ
 - ฉันต้องเคารพเชื่อฟังพ่อแม่และผู้ใหญ่ในบ้าน
 - ฉันต้องมีมารยาท รู้จักปฏิบัติตนให้ถูกต้องตามกาลเทศะ
 - ฉันมีเพื่อนบ้าน ฉันต้องไม่สร้างความเดือดร้อนให้แก่เพื่อนบ้าน และต้องช่วยเหลือซึ่งกันและกัน
3. โรงเรียนของฉัน
- โรงเรียนของฉันมีชื่อ ครูและเพื่อนก็มีชื่อ
 - ฉันไปโรงเรียน โรงเรียน คือ สถานที่ที่เด็ก ๆ มาทำกิจกรรมร่วมกัน และทำให้ได้เรียนรู้สิ่งต่าง ๆ มากมาย ในโรงเรียนของฉันมีครู นักเรียน คนงาน ภารโรง
 - ครูรักฉัน ครูดูแลเอาใจใส่และจัดกิจกรรมให้นักเรียนได้เล่น ได้เรียนรู้สิ่งต่าง ๆ
 - ฉันมีเพื่อนหลายคน ในแต่ละวันฉันเล่นและทำกิจกรรมต่าง ๆ ด้วยกันอย่างมีความสุข
 - ฉันรู้จักสถานที่ต่าง ๆ ในโรงเรียน ในโรงเรียนมีห้องเรียน ห้องน้ำ ห้องอาหาร สนามเด็กเล่น ฯลฯ
 - ทุกคนในโรงเรียนของฉันมีหน้าที่รับผิดชอบและช่วยเหลือซึ่งกันและกัน

- โรงเรียนของฉันมีคนอยู่ร่วมกันหลายคนจึงต้องมีกฎระเบียบที่ต้องปฏิบัติร่วมกัน
- ฉันและเพื่อนของฉันช่วยกันรักษาความสะอาดและรักษาทรัพย์สินสมบัติของโรงเรียน

4. บุคคลต่างๆ

- ฉันมีรูปร่าง มีความคิดเหมือนและต่างกับเพื่อน
- ร่างกายของฉันจะเปลี่ยนแปลงไปตามวัย ตั้งแต่เกิดจนกระทั่งตาย ทุก ๆ ปี ฉันจะมีวันครบรอบวันเกิดและจะมีอายุมากขึ้นทุกปี
- ฉันต้องการอาหาร ที่อยู่อาศัย เครื่องนุ่งห่ม และยารักษาโรค
- ฉันและเพื่อนๆ ทุกคนต้องการอาหารที่มีประโยชน์ ต้องมีเวลาเล่น ได้พักผ่อน ต้องการความรักความเอาใจใส่ และการยอมรับจากผู้ใหญ่
- ฉันและเพื่อนมีความสามารถ บางคนมีความสามารถพิเศษ ความสามารถของฉันและเพื่อนอาจเหมือนหรือต่างกันได้
- ฉันและเพื่อนมีความคิดและความรู้สึกที่อาจเหมือนกันหรือแตกต่างกันได้ ฉันต้องรับฟังความคิดเห็นและรับรู้ความรู้สึกของผู้อื่นด้วย
- คนในชุมชนที่ฉันอาศัยอยู่ มีอาชีพที่หลากหลาย เช่น แพทย์ ทหาร ตำรวจ ครู ช่างนา ช่างสวน พ่อค้า แม่ค้า นักแสดง ฯลฯ แต่ละอาชีพก็มีหน้าที่แตกต่างกันไป
- เมื่อนฉันเติบโตขึ้น ฉันสามารถเลือกประกอบอาชีพต่างๆ ได้ตามความสามารถและความถนัดของตนเอง
- ฉันและเพื่อนๆ นับถือศาสนาหรือมีความเชื่อที่เหมือนกันหรือแตกต่างกันได้ ศาสนาทุกศาสนาสอนให้ทุกคนเป็นคนดี

5. วันสำคัญ

- ครอบครัวของฉันมีวันสำคัญของตนเอง เช่น วันเกิด วันทำบุญบ้าน ฯลฯ
- ฉันเป็นคนไทยและคนไทยมีวันสำคัญของชาติ ศาสนา และพระมหากษัตริย์ มีวัฒนธรรม ขนบธรรมเนียมประเพณีหลายอย่าง
- วันสำคัญแต่ละวันจะมีการปฏิบัติกิจกรรมที่แตกต่างกันไป
- ในท้องถิ่นที่ฉันและเพื่อนๆ อาศัยอยู่ อาจมีวันสำคัญของตนเอง ซึ่งจะมีการปฏิบัติกิจกรรมที่แตกต่างกันไป

6. ธรรมชาติรอบตัว

- สิ่งต่าง ๆ ที่อยู่รอบตัวฉัน มีทั้งสิ่งมีชีวิตและไม่มีชีวิต
- ฉันเป็นสิ่งมีชีวิต สิ่งมีชีวิตทั้งคน พืช สัตว์ ต้องการอากาศ แสงแดด น้ำ และอาหาร เพื่อเจริญเติบโต
- รอบตัวฉันมีสิ่งไม่มีชีวิตอยู่ด้วย สิ่งไม่มีชีวิต เช่น น้ำ หิน ดิน ททราย ฯลฯ มีรูปร่าง สี ประโยชน์ และโทษต่างกัน
- ฉันและทุกคนรวมทั้งพืชและสัตว์สามารถปรับตัวให้เข้ากับลักษณะอากาศ อุณหภูมิ ฤดูกาลได้ และยังต้องพึ่งพาอาศัยซึ่งกันและกัน
- ลักษณะอากาศรอบ ๆ ตัวฉันแต่ละวันอาจเหมือนหรือแตกต่างกันได้
- ฉันเห็นเมฆบนท้องฟ้ามีรูปร่างต่าง ๆ บางครั้งฉันสามารถทายลักษณะอากาศได้จากเมฆบนท้องฟ้า
- เวลากลางวันเป็นช่วงเวลาที่ดวงอาทิตย์ขึ้นจนดวงอาทิตย์ตก คนส่วนใหญ่จะตื่นและทำงาน เล่นหรือไปโรงเรียนระหว่างเวลากลางวัน
- เวลากลางคืน เป็นช่วงเวลาที่ดวงอาทิตย์ตกจนดวงอาทิตย์ขึ้น ฉันและคนส่วนใหญ่จะนอนพักผ่อนตอนกลางคืน
- ประเทศไทยที่ฉันอาศัยอยู่มี 3 ฤดู ได้แก่ ฤดูร้อน ฤดูฝน ฤดูหนาว

7. การอนุรักษ์สิ่งแวดล้อม

- สิ่งแวดล้อมตามธรรมชาติรอบตัวฉัน เช่น ต้นไม้ สัตว์ น้ำ ดิน หิน ททราย อากาศ ฯลฯ เป็นสิ่งจำเป็นสำหรับชีวิต และจำเป็นต้องได้รับการอนุรักษ์
- ฉันสามารถช่วยกันอนุรักษ์สิ่งแวดล้อมได้โดยไม่ทำลายและบำรุงรักษาให้ดีขึ้นได้
- สิ่งแวดล้อมที่มนุษย์สร้างขึ้นที่อยู่รอบ ๆ ตัวฉัน เช่น บ้านอยู่อาศัย ถนน หนทาง สวนสาธารณะ สถานที่ต่าง ๆ ฯลฯ เป็นสิ่งที่ใช้ประโยชน์ร่วมกัน
- ฉันสามารถช่วยกันรักษาสาธารณสุขสมบัติและสิ่งแวดล้อมเหล่านี้ได้ โดยไม่ทำลายหรือทำให้ชำรุดเสียหาย

8. การคมนาคมและการสื่อสาร

- ฉันสามารถเดินทางจากที่หนึ่งไปยังที่หนึ่งได้ด้วยการเดินหรือใช้ยานพาหนะ
- พาหนะบางอย่างที่ฉันเห็นเคลื่อนที่ได้โดยการใช้เครื่องยนต์ ลม ไฟฟ้า หรือคน เป็นผู้ทำให้เคลื่อนที่

- เมื่อฉันจะเดินทางหรือขนส่ง ฉันตัดสินใจว่าจะไปทางใดและวิธีใด
 - พาหนะที่ใช้เดินทาง เช่น รถยนต์ รถเมล์ รถไฟ เครื่องบิน เรือ ฯลฯ ผู้ขับขี่จะต้องได้รับใบอนุญาตขับขี่และทำตามกฎจราจรเพื่อความปลอดภัยของทุกคน
 - ฉันสามารถเดินทางขนส่ง ได้ทั้งทางบก ทางอากาศ ทางน้ำ
 - ฉันต้องเดินบนทางเท้า ข้ามถนนตรงทางม้าลาย สะพานลอย หรือตรงที่มีสัญญาณไฟ เพื่อความปลอดภัย และต้องระมัดระวังเวลาข้าม
 - ฉันสามารถติดต่อสื่อสารกับบุคคลต่าง ๆ ได้หลายวิธี เช่น โดยการไปมาหาสู่ โทรศัพท์ โทรเลข จดหมาย ฯลฯ
 - ฉันสามารถทราบข่าวความเคลื่อนไหวต่าง ๆ รอบตัวด้วยการพูดคุย สนทนา ฟังวิทยุ ดูโทรทัศน์ และอ่านหนังสือ
 - ฉันใช้หนังสือเป็นสื่อในการถ่ายทอดความรู้ ความคิด ความรู้สึกไปยังผู้อ่านถ้าฉันชอบอ่านหนังสือ ฉันก็จะมีความรู้ความคิดมากขึ้น
9. สิ่งต่าง ๆ รอบตัว
- ฉันเห็นสีต่าง ๆ ด้วยตา แสงสว่างช่วยให้ฉันมองเห็นสี ถ้าฉันหลับตาหรือปิดตาจะเห็นเป็นสีดำ สีมีอยู่ทุกหนทุกแห่งที่ฉันสามารถเห็น ตามดอกไม้ เสื้อผ้า อาหาร รถยนต์ และอื่น ๆ
 - สีที่ฉันเห็นมีชื่อเรียกต่าง ๆ กัน เช่น แดง ส้ม เหลือง เขียว น้ำเงิน ม่วง ฯลฯ สีทำให้สิ่งที่อยู่รอบตัวฉันดูสดชื่น สวยงาม แต่สีบางสีอาจเป็นอันตรายต่อสายตาและความรู้สึก
 - สีบางสี เช่น สีเขียว สีเหลือง สีแดง เป็นสัญญาณจราจรเพื่อความปลอดภัย
 - สิ่งต่าง ๆ รอบตัวฉันส่วนใหญ่มีสี ยกเว้นกระจกใส พลาสติกใส น้ำบริสุทธิ์ อากาศบริสุทธิ์
 - ทุกคนต้องการอาหารและน้ำเพื่อมีชีวิตอยู่ อาหารที่มีประโยชน์จะช่วยให้ฉันมีสุขภาพแข็งแรง เจริญเติบโต สามารถทำงานและเล่นได้
 - อาหารที่ฉันรับประทานมีหลายชนิด มีสี สัน กลิ่น รสต่างกัน
 - ทุกคนควรรับประทานอาหารที่มีประโยชน์ต่อร่างกาย
 - ผัก ผลไม้ทุกชนิดที่ฉันรับประทานต้องล้างให้สะอาดก่อนรับประทานหรือประกอบอาหาร

- คนเราใช้เครื่องมือเครื่องใช้ต่างๆ ช่วยอำนวยความสะดวกในการทำงาน แต่ขณะเดียวกันต้องระมัดระวังในเวลาใช้เพราะอาจเกิดอันตรายและเกิดความเสียหายได้ ถ้าใช้ผิดวิธีหรือใช้ผิดประเภท

- เครื่องมือเครื่องใช้มีหลายชนิดและหลายประเภท เช่น เครื่องใช้ในการทำสวน การก่อสร้าง เครื่องใช้ภายในบ้าน ฯลฯ

- เครื่องมือเครื่องใช้ เมื่อใช้แล้วควรทำความสะอาดและเก็บเข้าที่ให้เรียบร้อย

- สิ่งต่างๆ รอบตัวฉันสามารถแบ่งเป็นประเภท ชนิด ตามขนาด สี รูปร่าง
- ฉันสามารถนับสิ่งต่างๆ ว่ามีจำนวนเท่าใด
- ฉันเปรียบเทียบสิ่งของต่างๆ ตามขนาด จำนวน น้ำหนัก
- ฉันสามารถจัดเรียงลำดับสิ่งของตามขนาด ตำแหน่ง ลักษณะที่ตั้งได้
- ฉันสามารถเพิ่มหรือลดสิ่งของออกจากจำนวนสิ่งของที่เราที่มีอยู่
- คนเราใช้ตัวเลขในชีวิตประจำวัน เช่น เงิน โทรศัพท์ บ้านเลขที่ ฯลฯ
- สิ่งๆ ที่ช่วยฉันในการวัดมีหลายอย่าง เช่น ไม้บรรทัด เชือก ถ้วยตวง ขอนตวง ฯลฯ บางอย่างฉันอาจใช้การคาดคะเนหรือกะประมาณได้

- ฉันใช้เงินซื้อสิ่งของ เช่น อาหาร เสื้อผ้า ฯลฯ
- ฉันใช้ “เวลา” พูดถึงสิ่งต่างๆ ที่เกิด เช่น เมื่อวานนี้ วันนี้ พรุ่งนี้ ตอนเช้า ตอนบ่าย ตอนเย็น ฯลฯ

กิจกรรมประจำวัน

การจัดประสบการณ์สำหรับเด็กอายุ 3 - 6 ปี จะไม่จัดเป็นรายวิชา แต่จัดในรูปของกิจกรรมบูรณาการผ่านการเล่น เพื่อให้เด็กได้รับประสบการณ์ตรง เกิดการเรียนรู้ได้พัฒนาทั้งร่างกาย อารมณ์ จิตใจ สังคม และสติปัญญา การเลือกกิจกรรมที่จะนำมาจัดในแต่ละวันจึงต้องให้ครอบคลุมสิ่งต่อไปนี้คือ

1. การพัฒนากล้ามเนื้อใหญ่ เพื่อให้เด็กได้พัฒนาความแข็งแรงของกล้ามเนื้อใหญ่ การเคลื่อนไหว และความคล่องแคล่ว ในการใช้อวัยวะต่างๆ จึงควรจัดกิจกรรมโดยให้เด็กได้เล่นอย่างอิสระกลางแจ้ง เล่นเครื่องเล่นสนาม เคลื่อนไหวร่างกายตามจังหวะดนตรี ฯลฯ

2. การพัฒนากล้ามเนื้อเล็ก เพื่อให้เด็กได้พัฒนาความแข็งแรงของกล้ามเนื้อเล็ก การประสานสัมพันธ์ระหว่างมือและตา จึงควรจัดกิจกรรมโดยให้เด็กได้เล่นเครื่องเล่นสัมผัส เล่นเกมต่อภาพ ฝึกช่วยตนเองในการแต่งกาย หยิบจับช้อนส้อม ใช้อุปกรณ์ศิลปะ เช่น สีเทียน กรรไกร พู่กัน ดินเหนียว ฯลฯ

3. การส่งเสริมความคิดสร้างสรรค์ เพื่อให้เด็กได้พัฒนาความคิดริเริ่มสร้างสรรค์ได้ถ่ายทอดอารมณ์ ความรู้สึก และเห็นความสวยงามของสิ่งต่างๆ รอบตัว อาจจัดกิจกรรมโดยใช้ศิลปะเป็นสื่อ ใช้การเคลื่อนไหวและจังหวะตามจินตนาการ ให้ประดิษฐ์สิ่งต่างๆ อย่างอิสระตามความคิดริเริ่มสร้างสรรค์ของเด็ก เล่นบทบาทสมมติในมุมเล่นต่างๆ เล่นน้ำ เล่นทราย เล่นบล็อก ฯลฯ

4. การพัฒนาการคิด เพื่อให้เด็กได้พัฒนาความคิดรวบยอด สังเกต จำแนก เปรียบเทียบ จัดหมวดหมู่ เรียงลำดับเหตุการณ์ แก้ปัญหา จึงควรจัดกิจกรรมให้เด็กได้สนทนาอภิปรายแลกเปลี่ยนความคิดเห็น เชิญวิทยากรมาพูดคุยกับเด็ก ค้นคว้าจากแหล่งข้อมูลต่างๆ ทดลอง ทักษะศึกษา ประกอบอาหาร หรือจัดให้เด็กได้เล่นเกมการศึกษาที่เหมาะสมกับวัยอย่างหลากหลาย ฝึกการแก้ปัญหาในชีวิตประจำวันและในการทำกิจกรรมทั้งที่เป็นกลุ่มย่อย กลุ่มใหญ่ หรือรายบุคคล

5. การส่งเสริมให้เด็กได้เลือกและตัดสินใจ เพื่อให้เด็กได้มีโอกาสตัดสินใจเลือกเล่นหรือทำกิจกรรมอย่างเสรีตามความสนใจ และความต้องการของตนเอง จึงควรจัดกิจกรรมให้เด็กได้เล่นตามมุมเล่น หรือมุมประสบการณ์ หรือศูนย์การเรียนรู้ต่างๆ ทั้งภายในภายนอกห้องเรียน

6. การส่งเสริมลักษณะนิสัยและทักษะการใช้ชีวิตประจำวัน เพื่อให้เด็กมีนิสัยที่ดี แสดงออกอย่างเหมาะสมและอยู่ร่วมกับผู้อื่นได้อย่างมีความสุข ช่วยเหลือตนเองได้ในกิจวัตรประจำวัน มีนิสัยรักการทำงาน รู้จักระมัดระวังความปลอดภัยของตนเองและผู้อื่นจึงควรจัดกิจกรรมที่ช่วยให้เด็กได้ปฏิบัติกิจวัตรประจำวันอย่างสม่ำเสมอ เช่น การรับประทานอาหาร การพักผ่อนนอนหลับ การขับถ่าย การทำความสะอาดร่างกาย การเล่นและการทำงานร่วมกับผู้อื่น การปฏิบัติตามกฎกติกาข้อตกลงของส่วนรวม การเก็บของเข้าที่เมื่อเล่นหรือทำงานเสร็จ ฯลฯ

การจัดตารางกิจกรรมประจำวัน

กิจกรรมสำหรับเด็กอายุ 3-6 ปี สามารถนำมาจัดลงในตารางกิจกรรมประจำวันได้หลายรูปแบบ เป็นการช่วยให้ทั้งครูและเด็กทราบว่าแต่ละวันจะทำกิจกรรมอะไร เมื่อใด และอย่างไร โดยมีหลักการจัดดังนี้

1. กำหนดระยะเวลาในการจัดกิจกรรมให้เหมาะสมกับวัยของเด็กในแต่ละวัน
2. จัดกิจกรรมทั้งในและนอกห้องเรียนในอัตราส่วนที่เหมาะสม
3. กิจกรรมที่ต้องใช้ความคิด ทั้งในกลุ่มเล็กและกลุ่มใหญ่ ไม่ควรใช้เวลาเกินกว่า 20 นาที
4. กิจกรรมที่เด็กมีอิสระเลือกเล่นเสรี เช่น การเล่นตามมุม การเล่นกลางแจ้ง เด็กมักจะสนุกสนานเพลิดเพลินไม่เบื่อหน่ายง่าย อาจใช้เวลาประมาณ 40-60 นาที
5. กิจกรรมควรมีความสมดุลระหว่างกิจกรรมที่ใช้กล้ามเนื้อใหญ่และกล้ามเนื้อเล็ก กิจกรรมที่เป็นรายบุคคล กลุ่มเล็ก กลุ่มใหญ่ กิจกรรมที่เด็กเป็นผู้ริเริ่ม และบุคลากรเป็นผู้ริเริ่ม และกิจกรรมที่สงบกับเคลื่อนไหว จัดให้ครบทุกประเภท กิจกรรมที่ต้องออกกำลังกายควรจัดสลับกับกิจกรรมที่ไม่ต้องออกกำลังมากนัก เพื่อเด็กจะได้ไม่เหนื่อยมากเกินไป

การประเมินพัฒนาการ

การประเมินเด็กอายุ 3-6 ปี เป็นการประเมินพัฒนาการทางด้านร่างกาย อารมณ์ จิตใจ สังคม และสติปัญญาของเด็ก โดยถือเป็นกระบวนการต่อเนื่องและเป็นส่วนหนึ่งของกิจกรรมปกติที่จัดให้เด็กในแต่ละวัน ทั้งนี้ให้มุ่งนำข้อมูลการประเมินมาพิจารณาปรับปรุงวางแผนการจัดกิจกรรม เพื่อส่งเสริมให้เด็กแต่ละคนได้พัฒนาอย่างเต็มตามศักยภาพ เนื่องจากเด็กแต่ละคนมีพัฒนาการเร็วช้าต่างกัน และสามารถพัฒนาไปตามจุดมุ่งหมายได้ ถ้าเด็กได้รับประสบการณ์เสริมสร้างอย่างเพียงพอและเหมาะสม

การประเมินพัฒนาการควรยึดหลักดังนี้ คือ

1. ต้องประเมินพัฒนาการของเด็กครบทุกด้าน
2. ประเมินเป็นรายบุคคลอย่างสม่ำเสมอต่อเนื่องตลอดปี
3. สภาพการประเมินต้องมีลักษณะเช่นเดียวกับการปฏิบัติกิจกรรมประจำวันของเด็ก โดยจัดการประเมินให้เป็นส่วนหนึ่งของกิจกรรมปกติตามตารางกิจกรรมประจำวัน

4. จัดทำการประเมินอย่างเป็นระบบ มีการวางแผน การเลือกใช้เครื่องมือและ การจัดบันทึกไว้เป็นหลักฐาน

5. ไม่ใช้การประเมินด้วยแบบทดสอบ เพราะไม่เหมาะสมกับวัยและระดับพัฒนา การของเด็กอายุ 3-6 ปี การประเมินเด็กควรจะขึ้นอยู่กับแหล่งข้อมูลหลายๆ ด้านมิใช่ ขึ้นอยู่กับคะแนนสอบ

สำหรับวิธีการประเมินที่เหมาะสมและควรใช้กับเด็กอายุ 3-6 ปี ได้แก่ การสังเกต การสนทนา การสัมภาษณ์ การรวบรวมผลงานหรือชิ้นงานที่แสดงออกถึงการทำงาน อย่างเต็มความสามารถในพัฒนาการแต่ละด้านของเด็กเป็นรายบุคคล ทั้งนี้อาจมีการ รวบรวมข้อมูลเกี่ยวกับตัวเด็กโดยการจัดทำเป็นแฟ้มรายบุคคล

<【資料2】 仏暦 2540（1997）年就学前教育カリキュラム全体の要旨>

(<http://www.dcid.go.th/cdc/current/preschool.html> を基に筆者が整理した)

仏暦 2540（1997）年就学前教育カリキュラム

仏暦 2535（1992）年国家教育計画において、就学前教育段階における政策は、「就学前教育は保育を中心とし、身体、精神、知性、感情、性格、および社会面の発達を促す教育であり、次の段階における教育を受けるためであるとされている。この段階の教育は幼児学級（Chan Deklek）、幼稚園（Anubaan Suksaa）または、さまざまな種類の幼児発達センター（Soonpatanaadek）で実施するものとし、これは各地域および対象集団の状況によるものとする。」と明記している。これによって、関係する各省庁および学術局はこの国家教育計画の政策に対応し、以下のように実施している。

1993 年に文部省は、就学前教育が各部署の準備状況によって各々で実施されている現状を見直し、学術局に対し、子どもおよび地域の状況に応じて内容を変更でき、すべての種類の子どもおよびすべての部署に使用可能な「就学前教育段階における経験（Prasobkarn）実施ガイドライン」を作成するよう指示した。学術局はパイロット校で実験的に使用し、その内容を改善して、ガイドラインとして 1996 年に公布した。

1997 年に文部省は就学前教育の実施は同一基準をもつカリキュラムとして公布する必要があるとみたため、学術局はセミナーを行い、「就学前教育段階における経験（Prasobkarn）実施ガイドライン」を改善し、「仏暦 2540（1997）年就学前教育カリキュラム」として公布した。このカリキュラムは 1998 年度より、子どもおよび地域の状況に応じて内容を変更し、幼稚園およびさまざまな種類の幼児発達センターに使用させた。

このカリキュラムはタイではじめての就学前教育カリキュラムである。これまでは就学前教育段階の教育実施ガイドラインがあり、それをカリキュラムではなく、「経験（Prasobkarn）実施ガイドライン」と呼んだ。これは、使用することを義務づけないとの意味があるが、カリキュラムとして公布したものは全国共通の基準で実施しなければならない。

カリキュラムの重要な内容は 3 つに分けられる。

- 第 1 部 誕生～1 歳の子どものためのカリキュラム
- 第 2 部 1 歳～3 歳の子どものためのカリキュラム
- 第 3 部 3 歳～6 歳の子どものためのカリキュラム

3 部より成るカリキュラムの理念とその構成は以下の通りである。

1. カリキュラムの理念

仏暦 2540（1997）年就学前教育カリキュラムにおいて、就学前教育は年齢、個人差に適し

たものとし、愛情、温もり、感情、精神、社会および知性を基盤として、誕生から6歳までの子どもの保育および教育であり、これは家庭、教育機関およびコミュニティの協力を得て、子どもが幸せに学習できるようにする。

2. カリキュラムの構成

1. 原理 規定された理念に則り、身体、感情、精神、社会および知性の面での発達のための保育を原理とする。
2. 目標 就学前教育段階における教育基準であり、望ましい資質および年齢に適した資質を規定する。
3. 経験実施ガイドライン 経験および活動を実施する上で重要なガイドラインを規定し、遊びを通じた統合活動を使用した、子ども中心（Child-Centered）の原理に基づく。
4. 内容 経験および活動に使用する内容は2つに分けられる。1つ目は重要な経験の部分。2つ目は内容および概念の部分。
5. 発達の評価 継続した過程で、日常的活動の一部である。子どもが各人の潜在能力を最大限に、すべての面で十分かつ正しく発達するよう活動または経験の評価に使用する。

各レベルのカリキュラムの重要な内容

誕生～1歳の子どものためのカリキュラム	1歳～3歳の子どものためのカリキュラム	3歳～6歳の子どものためのカリキュラム
<p>原 理</p> <p>保育および安全に生きられるように保護し、年齢に適した身体、感情、精神、社会および知性の面での発達をもたらす。</p>	<p>原 理</p> <p>身体、感情、精神、社会および知性のすべての面で十分かつ潜在能力を最大限に発達をもたらすよう、保育および経験を実施する。</p>	<p>原 理</p> <p>年齢および個人差異に適した遊び活動を通して、身体、感情、精神、社会および知性のすべての面で発達をもたらすよう、保育および教育を実施する。これは家庭、教育機関およびコミュニティの協力を得るものとする。</p>
<p>目 標</p> <p>望ましい資質および年齢に適した資質を以下のように身につける。</p>	<p>目 標</p> <p>望ましい資質および年齢に適した資質を以下のように身につける。</p>	<p>目 標</p> <p>望ましい資質および年齢に適した資質を以下のように身につける。</p>
<p>望ましい資質</p> <p>基準に達した身体の成長。幸せ、明るさ、年齢に適した理解および意味の伝達。</p>	<p>望ましい資質</p> <p>健全な身体、年齢に適した成長。精神的に健全であり、幸せ、自立でき、他人と遊び、共生できる。年齢</p>	<p>望ましい資質</p> <p>よい健康状態で、年齢に適した成長。筋肉をうまく使用でき、スムーズである。明るさ、幸せ、道</p>

	に適した言語の使用、身のまわりのものに関心をもつ。	徳的、規則正しい、責任感を持ち、自立でき、社会のよき一員、自然環境を愛し、問題を解決でき、年齢に適した言語使用、想像力をもつ。
年齢に適した資質 身体、感情、精神、社会および知性の面で年齢に適した発達。	年齢に適した資質 身体および感情の面で年齢に適した発達。	年齢に適した資質 身体および感情の面で年齢に適した発達。
保育 食事、睡眠、休憩、運動のほか、子どもの発達を促進するような活動。例えば、目の使い方の練習、動きの練習、聞く練習、休憩の練習、触る練習、さまざまな部分の筋肉の関連性、他人とのコミュニケーション、および新しいスキルの練習。	保育 子どもの適切かつ質のある発達を促進する重要な要素は以下の通りである。 年齢、活動および経験に適した学習環境をおもしろく整備する。健康、安全、栄養の面で配慮する。関係者が子どもに面倒、愛情、温もりを与える。	保育 学習者の年齢および学習期間 3歳～6歳の年齢は約1～3年学習する。
活動の実施 子どもの発達を配慮し、能力に応じて適切に実施し、子どもの各面での発達変化に対応する。	活動および経験 子どもの発達および学習を配慮して、学習およびスキルをもたらすための日常生活の練習。5つのセンスを使用練習する活動。	経験の実施ガイドライン 温かい雰囲気の中で、年齢、関心、ニーズ、個人差異に適した子ども中心（Child-Centered）の活動を実施する。遊びを通じた統合活動。子ども同士、子どもと大人との関係づくり。これは環境、地域の文化に応じて実施し、親、保護者、コミュニティが子どもを発達させるために参加させる。
発達の評価 子どもの行動および発達を観察し、子ども一人ひとりのすべての面での発達を最大限に促進するために活動を改善する	発達の評価 行動の観察、子どもと保護者の面接、データの記録、定期的な評価をする。これを子ども一人ひとりのすべての面での発達を最大限に促進するために活動の改善に使用する。	発達の評価 活動を実施している間の子ども一人ひとりの行動観察、子どもの進歩および体重、身長、健康状態を含む子どもの成長に関するデータをまとめ、目標を達成させ子どもの発達を促進するために活動の改善に使用する。

【資料 3】就学前教育の時間割

①タイ文部省国家初等教育委員会事務局, 『就学前教育段階における経験実施計画 幼児学級 第 1 冊』, 1991 年。

Office of the National Primary Education Commission, Ministry of Education, *Phaenkarnchad Prasobkarn Radabkorn Prathopsuksaa Chandeklek Lem 1*, 1991

②タイ文部省学術局, 『仏暦 2540 (1997) 年就学前教育カリキュラム (3 歳から 6 歳児用) ・ ハンドブック』, 2001 年。

Department of Curriculum and Instruction, Ministry of Education, *Khumuu Laksut Kornprathomsuksaa Phutasakararat 2540 (Aayu 3-6 Pii)*, 2001

< 【資料 3】①の本文 >

仏暦 2540 (1997) 年就学前教育カリキュラムが適用されるまで事実上のカリキュラムとして広く用いられた。

๓

คำชี้แจง การใช้แผนการจัดประสบการณ์ชั้นเด็กเล็ก

แผนการจัดประสบการณ์ชุดนี้ เป็นแนวทางสำหรับครูที่จะจัดกิจกรรมเพื่อเตรียมความพร้อมให้แก่เด็ก ซึ่งจะกล่าวถึงรายละเอียดของสิ่งต่อไปนี้

๑. ตารางกิจกรรมประจำวัน

๐๘.๓๐-๐๘.๔๕ น. - รับเด็กเป็นรายบุคคลตรวจสอบภาพ บันทึกคำพูดเด็ก พาเด็กไปห้องน้ำ

๐๘.๔๕-๐๙.๐๐ น. - เคารพธงชาติและสวดมนต์

๐๙.๐๐-๐๙.๑๐ น. - สนทนา ข้าว และเหตุการณ์

๐๙.๑๐-๐๙.๓๐ น. - การเคลื่อนไหวและจังหวะ

๐๙.๓๐-๑๐.๓๐ น. - กิจกรรมสร้างสรรค์และเล่นตามมุม

๑๐.๓๐-๑๐.๔๐ น. - พัก (รับประทานอาหารว่าง)

๑๐.๔๐-๑๑.๐๐ น. - กิจกรรมในวงกลม

๑๑.๐๐-๑๑.๓๐ น. - เล่นกลางแจ้ง

๑๑.๓๐-๑๒.๓๐ น. - พักรับประทานอาหาร

๑๒.๓๐-๑๔.๐๐ น. - นอนพักผ่อน

๑๔.๐๐-๑๔.๒๐ น. - เก็บที่นอน ล้างหน้า

๑๔.๒๐-๑๔.๓๐ น. - พัก (รับประทานอาหารว่าง)

๑๔.๓๐-๑๔.๔๕ น. - เกมการศึกษา

๑๔.๔๕-๑๕.๐๐ น. - สรุป

หมายเหตุ - หากมีเหตุการณ์อื่นใดที่เด็กสนใจเกิดขึ้น ครูอาจนำมาสอนได้ทันที หรือหากครูประสงค์จะพาเด็กไปศึกษาออกสถานที่ที่อาจจัดกิจกรรมประจำในเวลานั้น แล้วพาเด็กไปศึกษาออกสถานที่ได้

๒. กิจกรรมที่ปรากฏในตารางกิจกรรมประจำวัน

กิจกรรมหลักมี ๖ กิจกรรม ซึ่งจะปรากฏให้เห็นในตารางกิจกรรมประจำวัน ได้แก่

๒.๑ การเคลื่อนไหวและจังหวะ

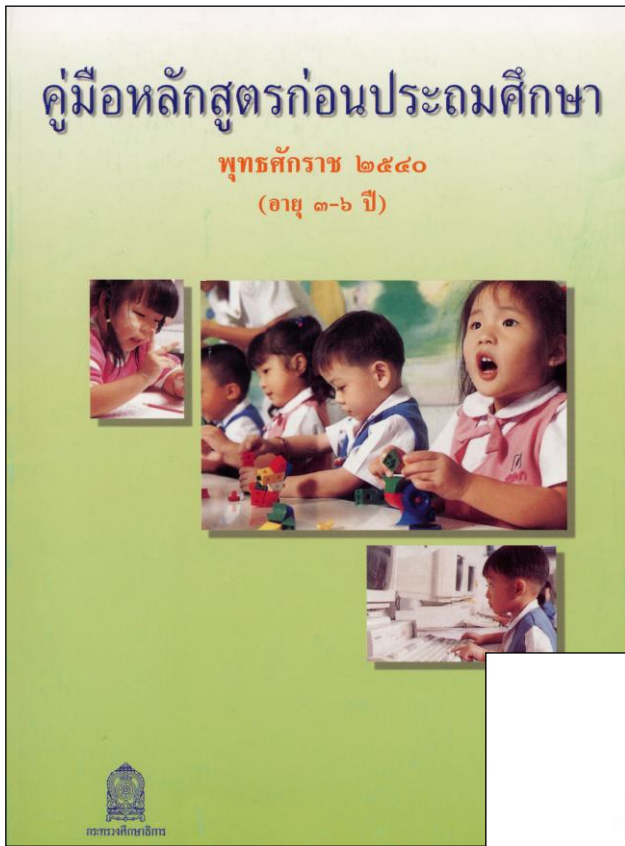
<【資料3】①の日本語訳>

- 08:30-08:45 子どもを引き受ける。健康のチェック。子どもの言葉を記録。
トイレへ連れて行く。
- 08:45-09:00 国旗掲揚、お祈り。
- 09:00-09:10 会話、ニュース、出来事。
- 09:10-09:30 動きおよびリズム。
- 09:30-10:30 創造的活動および各コーナーでの遊び。
- 10:30-10:40 休憩（おやつ）。
- 10:40-11:00 輪の活動。
- 11:00-11:30 外での遊び。
- 11:30-12:30 昼食。
- 12:30-14:00 昼寝。
- 14:00-14:20 寝具の片づけ、顔を洗う。
- 14:20-14:30 休憩（おやつ）。
- 14:30-14:45 教育的ゲーム。
- 14:45-15:00 まとめ。

※ 子どもがある出来事に関心を持つ場合、教師はそのことを教えてもよい。子どもを学校外見学に連れて行く場合、その時間帯の活動を中止することができる。

<【資料 3】②の本文>

カラー写真を多数盛り込んだ教師向けのハンドブック。



4. คำนี้ถึงการปฏิบัติกิจวัตรประจำวัน เพื่อปูพื้นฐานให้เด็กได้พัฒนาลักษณะนิสัยและทักษะในการใช้ชีวิตประจำวัน

รูปแบบการจัดกิจกรรมประจำวัน

การจัดตารางกิจกรรมประจำวันสามารถจัดได้หลายรูปแบบ ทั้งนี้ขึ้นอยู่กับความเหมาะสมในการนำไปใช้ของแต่ละหน่วยงานและสภาพชุมชน ดังตัวอย่างตารางกิจกรรมประจำวันต่อไปนี้

ตัวอย่างที่ 1 ตารางกิจกรรมประจำวันแบบที่ 1

08.00 - 08.30	รับเด็ก
08.30 - 08.45	เคารพธงชาติ
08.45 - 09.00	ตรวจสอบสุขภาพ ไปห้องน้ำ
09.00 - 09.20	กิจกรรมเคลื่อนไหวและจังหวะ
09.20 - 10.20	กิจกรรมสร้างสรรค์และกิจกรรมเสรี
10.20 - 10.30	พัก (ของว่างเช้า)
10.30 - 10.45	กิจกรรมเสริมประสบการณ์
10.45 - 11.30	กิจกรรมกลางแจ้ง
11.30 - 12.00	พัก (รับประทานอาหารกลางวัน)
12.00 - 14.00	นอนพักผ่อน
14.00 - 14.20	เก็บที่นอน ล้างหน้า
14.20 - 14.30	พัก (ของว่างบ่าย)
14.30 - 14.50	เกมการศึกษา
14.50 - 15.00	เตรียมตัวกลับบ้าน

ตัวอย่างที่ 2 ตารางกิจกรรมประจำวันแบบที่ 2

08.00 - 08.30	รับเด็ก
08.30 - 08.45	เคารพธงชาติ สวดมนต์
08.45 - 09.00	ตรวจสอบสุขภาพ ไปห้องน้ำ
09.00 - 09.20	กิจกรรมกลุ่มใหญ่
09.20 - 10.20	กิจกรรมสร้างสรรค์และกิจกรรมเสรี
10.20 - 10.30	พัก (ดื่มนม ของว่างเช้า)

<【資料3】②解説と日本語訳>

表紙には、「数の操作」、「ブロックを使った創造的活動」、「コンピュータ教育」の写真が配置されており就学前教育に求められる質のトレンドをうかがうことができる。

一方、4頁左下の写真は、「教師に対する礼儀作法（ワイと称されるお辞儀）」の写真が、右下には「ゴミを自分できちんと捨てる」写真が掲載されており、礼儀やしつけを重視している。

時間割については、仏暦 2540（1997）年就学前教育カリキュラムでは3つのパターンが提示されており、現場の状況に応じた柔軟な対応が可能となっている。

時間割パターン1

- 08:00-08:30 子どもを引き受ける。
- 08:30-08:45 国旗掲揚
- 08:45-09:00 健康のチェック。トイレへ連れて行く。
- 09:00-09:20 動きおよびリズムの活動
- 09:20-10:20 創造的活動および自由活動
- 10:20-10:30 休憩（おやつ）
- 10:30-10:45 経験促進活動
- 10:45-11:30 外での活動
- 11:30-12:00 昼食
- 12:00-14:00 昼寝
- 14:00-14:20 寝具の片づけ、顔を洗う。
- 14:20-14:30 休憩（おやつ）
- 14:30-14:50 教育的ゲーム
- 14:50-15:00 帰る準備

時間割パターン2

- 08:00-08:30 子どもを引き受ける。
- 08:30-08:45 国旗掲揚、お祈り
- 08:45-09:00 健康のチェック。トイレへ連れて行く。
- 09:00-09:20 大きいグループでの活動
- 09:20-10:20 創造的活動および自由活動
- 10:20-10:30 休憩（牛乳とおやつ）
- 10:30-11:30 外での活動
- 11:30-12:00 昼食
- 12:00-14:00 昼寝
- 14:00-14:20 寝具の片づけ、顔を洗う。
- 14:20-14:30 休憩（おやつ）

- 14:30-14:50 教育的ゲーム（月水金）
動きおよびリズムの活動（火木）
14:50-15:00 帰る準備

時間割パターン 3

- 08:30-09:00 子どもを引き受ける。自由活動
09:00-09:30 動きおよびリズムの活動
09:30-10:30 創造的芸術活動および各コーナーでの遊び
10:30-10:40 休憩（おやつ）
10:40-11:20 外での活動
11:20-11:30 休憩（手および足を洗う。）
11:30-11:50 輪での活動
11:50-13:00 昼食
13:00-15:00 昼寝
15:00-15:10 寝具の片づけ、顔を洗う。
15:10-15:30 休憩（おやつ）
15:30-15:50 教育的ゲーム
15:50-16:00 帰る準備

参考文献・資料

- ・村田 翼夫「タイの幼児教育」阿部洋編 『世界の幼児教育 1ーアジア』, 日本らいぶらり, 1983年, pp. 263-290。
- ・野津 隆志「タイの幼児教育と文化化の構造ー研究枠組み（課題, 視点および方式）の検討」『教育制度研究』25号, 教育制度研究会, pp. 27-38。

マレーシアの就学前教育の概要および関連資料

手嶋 将博

（専修大学）

mtejima@mcn.ne.jp

I. マレーシアにおける教育制度と就学前教育の概要

1. 教育制度の概要

複合民族国家であるマレーシアは、総人口 2,327 万人（2000 年 7 月現在）、ブミプトラ（Bumiputera: 土地の子）と呼ばれるマレー系及び原住民（65%）、華人系（26%）、インド系（7%）その他の民族（9%）といった住民から構成されている。

1957 年にイギリスから独立した後、1960 年に『教育再検討委員会報告』（通称“ラーマン・タリブ報告”）が出され、翌 1961 年にはその勧告内容を基にして、現行教育制度の骨格となる教育法（Education Act）が定められた。これにより 6 年制の初等教育は無償とされ、この段階にはマレー語を教授用語とする「国民学校（national school）」と、華語またはタミル語を教授用語とする「国民型学校（national type school）」が、共に政府立学校として並存することになった（初等教育段階在籍者の比率は、1997 年 7 月現在で、マレー語学校－75.8%、華語学校－20.7%、タミル語学校－3.4%）。しかし前期 3 年制、後期 2 年制の中等教育段階においては、マレー語か英語を教授用語とする学校にのみ公費補助が与えられ、それ以外の言語を教授用語に使用する学校は、私立学校として、国家の学校制度の枠外に置かれることになった。英語系の国民学校や中等・中等後の政府補助立学校も 1970 年～1982 年までの間に姿を消し、現在、これらの学校ではすべて、国語である“マレーシア語(Bahasa Malaysia)”によって教授がなされ、中等学校以降の入学・修了資格試験やあらゆる公的資格試験も、すべてこのマレーシア語によって実施されている。華語やタミル語の国民型学校に在籍していた児童が政府補助立の中等学校に進学する場合には、マレーシア語習得のために原則的として 1 年間の「移行学級（remove class）」を経ることが義務づけられている（マレー語の読み書き能力試験によってこのクラスが免除される場合もある）。なお、華人系の私立中等学校は「華文独立中学」と呼ばれており、華人系コミュニティや企業からの資金提供を受けて、1997 年現在、マレーシア国内に 60 校存在している。かつては、こうした私立学校の修了資格は就業年数の違い（国民学校は大学予備課程『Form VI』の 2 年間を含めて 6－3－2－2 制、華文独立中学は 6－3－3）などから国内では認可されず、卒業生の多くは台湾、アメリカ、日本などに留学していたが、1996 年教育法（Education Act, 1996）の改正により、現在では「高等学校修了資格試験（STP/HSC）を受験し、国内の大学へ進学することも可能になっている。

2. 就学前教育の概要

(1) 就学前教育の国民教育制度への導入

マレーシアでは 2003 年 2 月現在、義務教育は制度化されていないが、就学前教育、初等教育、中等教育および高等教育からなる教育制度を採用している（図 1）。

図 1：マレーシアの公教育制度図

		学 年	年 齢 ①	年 齢 ②				
高等 教育 段階	大学院		6	25	24			
	↓ ディプロマ・コース	歯 医 学 部	5	24	23			
			4	23	22			
			3	22	21			
			2	21	20			
			1	20	19			
中等 教育 段階	ポリテクニクス ／カレッジ	教員養成 カレッジ	大学予備課程 (Form VI)		VI	19	18	
	上級中等学校 →	工業科	職業科	普通科 (文科・理科)		V	17	16
				IV	16	15		
	下級中等学校 (※これより上の段階は全課程マレー語)				III	15	14	
					II	14	13	
					I	13	12	
	↑	マレー語移行学級		↑	↑	R	12	↑
初等 教育 段階	(国民型学校)	(国民型学校)	(国民学校)		6	11	11	
	↑飛び級	↑飛び級	↑飛び級		5	10	10	
	タミル語学校	中国語学校	マレー語学校		4	9	9	
					3	8	8	
					2	7	7	
					1	6	6	
幼稚園 (就学前教育)					5	5		
					4	4		

*備考：年齢①…移行学級に行く場合。／年齢②…移行学級に行かない場合。なお、「飛び級」を得た場合は、それ以降の学年で年齢が 1 歳ずつ下がる。

(Ministry of Education Malaysia, *Education Structure and School System*, 1998 を参考に手嶋が作成)

こうした教育制度の下、マレーシアにおける就学前教育は、第 7 次マレーシア計画（1996～2000）下における 1996 年教育法（Education Act, 1996）にて、初めて国民教育制度として組み込まれた。

それ以前も幼稚園や託児所といった就学前教育・保育機関は存在していたが、その大部分は小学校に附設された就学前クラス、あるいは、私立の民間セクターによる私立の幼稚園・保育園であり、主に 4～5 歳児を中心に受入れを行っていた。

例えば、1992 年の段階ではマレーシア国内で 1,422 の私立幼稚園に 146,974 名の幼児が在籍しており、これは当時幼稚園に在籍していた全幼児の 41%であった⁽¹⁾。こうした幼稚園は、教育省の提供する「就学前教育ガイドライン（Guidelines on Pre-school Curriculum）」に基づき、マレー系、華人系、インド系といった民族別、あるいはイスラーム系、カトリック系等といった宗教別等に大別され、それぞれ独自のカリキュラムによって就学前教育を行っていたが、国民教育制度としては確立されてはいなかった。

しかし、1970 年代から 20 年あまりにわたる経済成長は、女性の教育・雇用機会の増大をもたらした。例えば、「従業員」として分類された女性たちの割合は 1970 年の 38.9%から、1990 年には 62.9%まで上昇し、さらに第 6 次マレーシア計画（1991～1995）期にはこの傾向はますます顕著になり、マレーシアの全労働力に対する女性の比率は、1970～1990 年までが 31→35%と 4%の伸びだったのに対し、わずか 3 年後の 1993 年には一気に 47%まで上昇（12%増）している。このような経済成長に伴う女性の社会進出の結果、都市部を中心に、共働きや核家族化が進行し、マレーシア政府も就学前の子どもたちの教育・保育に関するこれまでの政策を見直さざるをえない状況となった。エバンスは、当時のマレーシアの就学前教育について、「公共サービスが断片的で、幼い子どもたちの全体的な開発を支援する包括的な政策に欠ける」と指摘している。（Evans, 1995）⁽²⁾

こうした状況から、第 7 次マレーシア計画開始の 1996 年に公布された教育法において、「就学前教育（Pre-School Education）」に関する明確な記述が記される運びとなった。わずか 7 項目という少ない記述であるが、①幼稚園設置・運営・管理に関する本教育法の権限、②同じく大臣の権限、③幼稚園のカリキュラム・ガイドラインについて、④幼稚園における言語教育、⑤幼稚園教育に関する規定の作成と実施、⑥本教育法の記述が保育園（Child Care Centres）には適用されないこと、⑦幼稚園はナショナル・カリキュラムの適用外であること、等が明記されている⁽³⁾。

なお、この法規においては「就学前教育」について「幼稚園（Kindergarten）」と規定しており、また、本教育法の記述が保育園（Child Care Centre）には適用されないと明記されているので、マレーシアにおいて一般に就学前教育機関といえば「幼稚園」を指しているといえよう。保育園に関しては別に「保育園法（Childcare Centre Act）」が 1986 年に施行されている。

（2）就学前教育の形態

まず運営母体であるが、幼稚園はさまざまな政府機関、NGO のような非政府組織、ならび

に民間セクターによって全国に設立されている。私立幼稚園のような民間セクターは都市部で活発に設置されているのに対し、教育省を含め、国民統合・社会開発省（Ministry of National Unity and Social Development）、地方開発省（Ministry of Rural Development/MORD）などの公共機関は、都市部と農村部両方の子どもに教育機会を提供している。

国民統合・社会開発省傘下のコミュニティ開発課（KEMAS）、は1972年に設立された部門である。本来は、村レベルにおいて主に栄養と健康のような家政学を含めての家族開発に焦点を合わせ、家計収入を補うための裁縫や手工芸、あるいは成人識字プログラム等、地方コミュニティにおける基礎的技術の訓練プログラムを組織する部署であるが、教育省が幼稚園の登録・認可及びカリキュラム・ガイドラインの設定などの監督権を担当するのに対し、ここでは、主として地方の4～6歳の子どもたちに、就学前のプログラムとしてコミュニティの幼稚園・保育園を設置し、学校教育の予備的段階としての教育機会を提供している。また、就学前教育環境の改善、幼稚園教諭の教員養成・研修の指導も行っている⁽⁴⁾。

また、日本もNGOやODAなどを通して支援を行っている。1980年から国際協力事業団（JICA）の派遣した青年海外協力隊（JOCV）とシニア隊員によってマレーシアの就学前教育の支援が行われてきた。1994年からJICAがシニアボランティアを派遣して受け継がれている。マレーシアにおける就学前教育の支援の一環として、クアラルンプール郊外ラワンにあるカンポン・マラユ・バトゥ・16（Rawang Kampung Melayu Batu 16）に、マレーシアのモデルとなる幼稚園を建築する計画があり、このプロジェクトに日本政府から約35万RMが贈呈されるなどの援助が行われた。

（3）幼稚園のカリキュラム

次に、幼稚園のカリキュラムであるが、幼稚園はすべて教育省に登録を行い、同省の定めるカリキュラム・ガイドラインに従うことになっている。1999年1月から、すべての幼稚園が、就学前教育向上のために教育省が定めるこのガイドラインに従うことを義務づけられており、ここではa. 社会的技能、b. 知的技能、c. 身体的技能、d. 精神的技能、e. 審美的価値（創造力と評価）といった（公民教育、イスラーム教育、マレー語、英語、体育、社会・情緒育成、知覚育成および創造的・美的能力育成の9つの学習要素を含む）、5つの学習経験の提供を義務づけている。しかし、どのような教育言語や授業アプローチを用いるかという問題については、幼稚園が自由に決められるなど、ある程度柔軟性が与えられている。

カリキュラム・ガイドラインは、それぞれの学習経験を別個ではなく、統合された形で会得することを要求する。また、各教科について1週間あたりの最低授業時間も定められている。

例えば、マレー語を教育言語としない幼稚園ではマレー語を2時間、マレー語を教育言語とする幼稚園では英語を2時間、という具合である。さらに、イスラーム教育（イスラーム教徒＝ムスリムの幼児向け）および道徳教育（非ムスリムの幼児向け）の授業を少なくとも週2時間行わなければならないことを定めている⁽⁵⁾。マレーシアの幼稚園では、小学校就学後を見越した予備的学習段階という位置づけが一般的であり、幼稚園の教室の中に入ると、アラビア文

字で書かれた動物や乗り物、数字の札などが部屋中に張られている。また、IT 関連の教育施策の一環でコンピューターを置いている幼稚園も一気に多くなった。中には、園の方針にもよるが、年数回のテストを行い各家庭には通知表配布、ひいてはアラビア語まで勉強するといった、もはや学校そのものという幼稚園・保育園もある。

また、教育方法としてはモンテッソーリ法を導入している幼稚園が多いが、中にはセランゴール州シャー・アラムにある Nuh's Ark 幼稚園のように、しつけや精神的な教育原理の部分はイスラームに則りつつ、方法論としてのモンテッソーリ法を併せて用いるという「イスラーム的モンテッソーリ法」を掲げる園も見られる。

（4）就学前教育の拡大と問題点

第 6 次マレーシア計画(1990～1995 年)では、政府による国民教育制度強化の努力は主として、あらゆる教育レベルの公立校の受入れ能力を拡充することに重点を置いていた。1995 年までに、教育省や国民統合・社会開発省などの公共セクターは就学前教育の学級数全体の 81.6%を占め、農村部を中心に、25 万 6,000 人以上の子どもに教育を提供していたという。

第 7 次マレーシア計画(1996～2000 年)においても、開発予算総額の 15.4%に当たる 100 億 9,800 万 RM が教育および訓練に割り当てられている。就学前教育は、5～6 歳児の 65%以上の受入れを目標としており、全国の登録幼稚園は 10,381 所、児童数は約 44 万 6,300 人となっている⁽⁶⁾。なお、2000 年の就学率は対象年齢幼児の 63.7%で、政府は 2007 年までに全ての幼児に就学前教育を提供することを目指しているが、2002 年 1 月には、「マレーシアの 4 割の子どもが就学前教育を受けていない」「5～6 歳の子どものうち約 20 万人が幼稚園に行っていない」(Strait Times 紙)という指摘がなされている⁽⁷⁾。2002 年の段階で地方開発省が管理する約 8,000 の幼稚園(4～6 歳児)・保育園(1～3 歳児)には 224,000 名の園児がいるが、教員数は約 7,780 名、補助教員が約 1,280 名で、平均すると 1 つの園に正規の教員が 1 名に満たない。補助教員をいれても 1 園に平均 1.13 名、1 園あたりの児童数は 30 名弱、つまり、1 クラスしかない園が大部分を占めているのである。したがって、幼稚園では 1 人の先生が 4～6 歳児全部をみているのが現状となっているといわれる⁽⁸⁾。現在マレーシアは 1992 年から 2006 年まで毎年 1,500 ずつのクラスを増やし、2007 年には 1,600 クラスが増加、さらに、それに合わせて幼稚園教諭も養成中であるという政策を立てているが、幼稚園就学の完全実施にはまだ乗り越えるべき課題が残っているといえよう

II マレーシアの就学前教育に関する各種資料

【資料 1】 ユネスコ (UNESCO) 「Education For All 2000 Assessment Country Report」における就学前教育の実態報告 (マレーシア編)⁽⁹⁾

<原文>

Malaysia has a good policy for support of pre-schools.

The provision for the establishment of pre-schools is enacted in the Education Act 1996. Pre-school programmes are undertaken by a number of ministries and agencies, including the private and voluntary sectors. Curriculum guidelines of the MOE serve as the base for pre-school education. Nevertheless, the agencies running the pre-schools are free to choose the medium of instruction to be used in their establishments.

The main strategy in ensuring high participation rate in public pre-school is that the government, through various programmes, provides meals and other support facilities and services such as per capita grant allocation, pre-school activity packages, indoor and outdoor pre-school equipment and apparatus for pre-school education.

Pre-school teachers are trained by their own agencies and establishments using varied approaches and methodologies. To this end, the MOE has trained 178 trainers from the Community Development Division (KEMAS) of the National Unity Department. These trainers in turn train other teachers. The government through its agencies also provide trained teachers, teaching-learning materials, and funds to facilitate running of the public pre-schools.

The pre-school is a non-formal and flexible programme for young children aged 4 through 5 + α years. The programme runs for duration of one to two years. These centres are mostly privately-run and are highly concentrated in the urban areas catering for children from high and middle-income families. The fees charged by these pre-schools vary and are largely determined by overhead costs and market forces. Pre-school classes conducted by the MOE and other government agencies enable under-privileged children in the urban and rural areas access to pre-school education for free or at a minimal charge. Priority for admission to these classes is given to those who could not afford to attend privately-run pre-schools.

Pre-school education aims at providing a firm foundation for formal education. All pre-school centres have to abide by the curriculum guidelines set by the MOE. The curriculum which is in line with the NPE enables pre-school children to acquire basic communication, social and other positive skills in preparation for primary schooling. Specifically, the aim of pre-school education is to develop children's skills in the following aspects:

- a. Social skills,
- b. Intellectual skills,
- c. Physical skills,
- d. Spiritual skills,
- e. Aesthetic values (creativity and Appreciation).

The social skill components focus on children's interaction with the environment and the people in

their surroundings, development of positive self-concept, discipline, social responsibilities, and positive attitudes towards learning. The intellectual skill components emphasise physical environment, the concepts of space, numbers, alphabets, and prerequisites for writing, reading and language competencies. The physical skill components focus on the physical activities that involve coordination of the various parts of the body such as the head, hand, leg eye and fingers. The spiritual skill components emphasise the inculcation of noble values and belief in God. The aesthetical aspects on the other hand, train the children to express themselves through their hand-made creations, drawings, music and movements.

<要旨>

マレーシアは良い就学前教育（幼稚園）の支援政策を有している。幼稚園設立のための条項は1996年教育法において制定され、幼稚園の教育プログラムは、私立および民間団体等の部門を含み、多くの省庁が関係している。教育省（MOE）のガイドラインを基準として、幼稚園の運営母体は教育方法を独自に選ぶことができる。

公立幼稚園において高い就学率を保証する戦略として、政府は種々のプログラムを通して、給食や地方交付金、屋内外の園内設備の設置といったサービスを提供している。

幼稚園教諭はそれぞれの機関でさまざまなアプローチ、方法論によって訓練される。このため教育省は国民統合・社会開発省（Ministry of National Unity and Social Development）のコミュニティ開発課（KEMAS）から178人のトレーナーを訓練し、彼らは順番に他の教諭を訓練することになっている。また、政府機関を通して同じく訓練された教諭、公立幼稚園の学習教材を容易に調達する資金を供給する。

幼稚園は4～5 + α 歳の幼児を対象とし、1～2年間行われるノンフォーマルで柔軟なプログラムである。

高・中所得家庭の子どもを対象とした私立の幼稚園は都市部に集中しているため、教育省や他の政府機関の運営する幼稚園は、私立の幼稚園等に入園できなかった都市や地方の恵まれない子どもたちが、無償あるいは最小限の学費で就学前教育を受けることを可能にしている。

幼稚園は正規の学校教育に確固たる基礎を提供することを目指している。

すべての幼稚園は教育省によって設定された教育カリキュラム・ガイドラインに従う。このカリキュラムでは特に、以下の面で子どもたちの技能を身につけさせることを目標とする。

- a. 社会的技能・・・身のまわりの環境や人々と子どもたちの相互作用、積極的な自己概念の発達、しつけ、社会的責任、学習に対する積極的態度を養う。
- b. 知的技能・・・物理的環境、空間の概念、数字、アルファベット、記述、読書、言語能力を強調する。
- c. 身体的技能・・・頭、手、足、目と指のような体の各部分の調整に関わる身体活動。
- d. 精神的技能・・・高貴な価値と神への信仰を説くことの強調。
- e. 審美的価値（創造力と評価）・・・工作、図画、音楽と動作を通して子どもたちの表現力を

訓練する。

【資料 2】 ユネスコ報告書「The EFA(Education for All) 2000 Assessment: Country Reports :
MALAYSIA EDUCATION FOR ALL」⁽¹⁰⁾

<本文> (就学前教育以外の箇所は割愛)

INTRODUCTION

In a multi-ethnic and multi-cultural country like Malaysia, national unity is an overriding goal in the formulation of socio-economic policies. The nations' ideology, Ruku Negara (RN) proclaimed in 1969 forms the basis for the consolidation of national unity. Since the proclamation, it has provided the direction for all political, economic, social and cultural policies and constitutes an important milestone in the development of education in Malaysia. Development in education was further grounded through the National Philosophy of Education (NPE), established in 1988 and the policy statement of the National Development Plan (NDP) in 1991.

The essence of the NPE is to develop the potential of individuals in a holistic and integrated manner, so as to produce citizens who are intellectually, spiritually, emotionally and physically balanced and harmonious based on a firm belief in and devotion to God. The NPE is regarded as a statement of vision for the Ministry of Education (MOE) in the pursuit of educational excellence. The NDP on the other hand forms a basis in the development of education vis-a-vis the nation's goal to become an industrialised country by the year 2020.

The government's commitment towards education is contained in the Federal Constitution and the Education Act of 1996. It is realised through the provision of free education to every child of school-going age, for a period of eleven years, in the country.

The Education Structure

Formal education is provided at four levels – primary, lower secondary, upper secondary and post secondary. The age of admission to the first year of primary education is six years old. Promotion from grade to grade is automatic. Continuous school-based assessment is administered at all grades and at all levels. However, at the end of each level, students sit for common public examinations. Successful completion of secondary education can lead to a number of opportunities for further study and training at post-secondary and tertiary levels, both in the academic and professional fields provided by universities, colleges and other educational training institutions.

PART I Descriptive Section

1. EFA GOALS AND TARGETS (1990 - 2000)

1.1 Education for all (EFA) programmes in Malaysia are not carried out selectively nor in isolation but rather in tandem with other educational development programmes that have been synchronised with efforts to mould a national identity, and to achieve unity in a multi-ethnic society as well as developing human resources essential for the next century. The implementation of the Sixth Malaysia Plan (6MP) (1991-1995), and Seventh Malaysia Plan (7MP) (1996-2000) saw the undertaking of programmes focused on expanding capacity and increasing access to all levels of education, strengthening the delivery system and improving the quality of education. The goals and targets of these programmes that are of concern to EFA are reported under six dimensions below:

Expansion of Early Childhood Care and Development Activities

1.2 Early childhood development (ECD) programmes are instrumental in preparing the nation's young to participate in nation building. In Malaysia there are two types of institutions that cater to this need; the childcare centre and pre-schools. The childcare centre is defined as any premise where four children or more from a household is received to be looked after for a fee. The centre admits children below four years of age. This centre is categorised into i) Home Based Centre and ii) Institutional Centre. The former receives less than 10 children, while the latter receives more than 10 children. These centres offer childcare services ranging from half-day to full day basis. The objectives of the childcare centre are as follows: -

- Assisting working parents so that their children get good care.
- Enhancement of standard of living of the family.
- Provide opportunities for people who love children to work in the childcare centres.
- Encouraging involvement of the society in the caring and nursing of the children.

1.3 The pre-school, is a non-formal and flexible programme for young children aged 4+ through 5+ years. The programme runs for duration of one to two years. These centres are mostly privately-run and are highly concentrated in the urban areas catering for children from high and middle-income families. The fees charged by these pre-schools vary and are largely determined by overhead costs and market forces. Pre-school classes conducted by the MOE and other government agencies enable under-privileged children in the urban and rural areas access to pre-school education for free or at a minimal charge. Priority for admission to these classes is given to those who could not afford to attend privately-run pre-schools.

1.4 Pre-school education aims at providing a firm foundation for formal education. All pre-school centres have to abide by the curriculum guidelines set by the MOE. The curriculum which is in line with the NPE enables pre-school children to acquire basic communication, social and other positive skills in preparation for primary schooling. Specifically, the aim of pre-school education is to develop

children's skills in the following aspects:

- Social skills,
- Intellectual skills,
- Physical skills,
- Spiritual skills,
- Aesthetic values (Creativity and Appreciation).

1.5 For each aspect, the specific objectives are clearly stated. The social skill components focus on children's interaction with the environment and the people in their surroundings, development of positive self-concept, discipline, social responsibilities, and positive attitudes towards learning.

1.6 The intellectual skill components emphasise physical environment, the concepts of space, numbers, alphabets, and prerequisites for writing, reading and language competencies. The physical skill components focus on the physical activities that involve co-ordination of the various parts of the body such as the head, hand, leg, eye and fingers.

1.7 The spiritual skill components emphasise the inculcation of noble values and believe in God. The aesthetical aspects on the other hand, train the children to express themselves through their hand-made creations, drawings, music and movements.

(中略)

2. EFA STRATEGY AND/OR PLAN OF ACTION

2.1 The EFA National Plan of Action for the country was prepared in 1991. This was possible through meetings and discussions among several ministries and agencies. The Plan of Action was spelt out in the form of projects and activities under the purview of various ministries and agencies. All programmes and activities for EFA, conducted by these various ministries and agencies impose no restrictions based on gender, ethnicity or socio-economic status.

2.2 The government, through the MOE, other ministries and agencies gives adequate publicity to the importance of formal and non-formal education through the mass media and other government information dissemination networks. This strategy has succeeded in encouraging parents to admit their children into educational institution and for adults to continuously pursue knowledge and upgrade their skills and competencies for a better living condition. More structured programmes undertaken are as reported below:

Early Childhood Care and Development

2.3 The guidelines for the setting up of childcare centres is outlined in the guidebook on rules and regulations of setting up childcare centres produced jointly by the Department of Social Welfare, the Health Department and the Local Authority. These agencies are authorised to approve the licensing of such centres. The Childcare Centre Act was implemented in the state of Selangor and Federal Territory in the year 1985 and eventually, throughout the country in 1986.

2.4 The Department of Labour registers and monitors the childcare centres in the plantation sector. The management provides this service free for the children of the workers. The provision for childcare centres in the plantations areas is mandated in the Standard Act Minimum Housing and Workers Facilitation 1990.

2.5 The provision for the establishment of pre-schools is enacted in the Education Act 1996. Pre-school programmes are undertaken by a number of ministries and agencies, including the private and voluntary sectors. Curriculum guidelines of the MOE serve as the base for pre-school education. Nevertheless, the agencies running the pre-schools are free to choose the medium of instruction to be used in their establishments.

2.6 The main strategy in ensuring high participation rate in public pre-school is that the government, through various programmes, provides meals and other support facilities and services such as per capita grant allocation, pre-school activity packages, indoor and outdoor pre-school equipment and apparatus for pre-school education.

2.7 Pre-school teachers are trained by their own agencies and establishments using varied approaches and methodologies. To this end, the MOE has trained 178 trainers from the Community Development Division (KEMAS) of the National Unity Department. These trainers in turn train other teachers. The government through its agencies also provide trained teachers, teaching-learning materials, and funds to facilitate running of the public pre-schools.

（中略）

3. EFA DECISION-MAKING AND MANAGEMENT

3.1 In 1987, Malaysia established its National Co-ordination Committee for the Asia-Pacific Programme of Education for All (APPEAL). The task of the committee was to co-ordinate the implementation of programmes that would meet the goals of achieving universal primary education, eradicating illiteracy, and providing continuing education. To this effect, the Committee meets biannually to discuss progress of projects and activities undertaken during each administrative year.

3.2 The Committee lead by the MOE comprises the following ministries and agencies:

Ministry of Rural Development (MORD)

Ministry of National Unity and Community Development

Ministry of Youth and Sports (MOYS)

Ministry of Information (MOI)

Ministry of Entrepreneurial Development (MED)

Ministry of Human Resources (MOHR)

Universiti Malaya (UM)

Universiti Putra Malaysia (UPM)

3.3 EFA programmes initiated through the committee are incorporated into the administrative functions of these ministries and agencies. Each ministry and agency has its own technical working group that forms a mechanism for co-ordinating and monitoring programmes at the national, state and district levels, using its own modalities and indicators. The main programmes that are undertaken by the various ministries and agencies are as follows:

- Pre-school education

Ministry of Education (MOE)

Ministry of Rural Development (KEMAS)

Ministry of National Unity and Community Development (National Unity Department)

Associations, private agencies and religious bodies

(中略)

3.4 The policies and plans for EFA are set based on the NDP, the Outline Perspective Plan (OPP), and the five year plan, approved by the Cabinet, and Parliament of Malaysia; the nation's highest decision making body.

4. COOPERATION IN EFA

4.1 The MOE plays a dominant role in the education enterprise in providing education and training to meet development and manpower needs of the country. In doing so, there is close co-operation with other governmental agencies, private enterprises, non-governmental organisation, community-based organisation, religious institutions and industries. These agencies carry out parallel programmes to supplement the MOE's efforts.

4.2 An example of such co-operation is in strengthening the early childhood education programme to ensure young children have access to quality childhood development programmes. The government is working closely with private institutions and NGOs to bridge gaps between various agencies organising child care centres and kindergartens. This is important because each establishment has its own style of

management, organisation, mode of operation, training, and so forth.

4.3 A National Committee was set up to co-ordinate matters concerning early childhood education including the curriculum, the training and the development of the overall programme. In addition, sub-committees with the same role and function have also been set up at state levels. The effort of the committee has resulted in the development of the Pre-school Curriculum Guidelines by MOE. All ECD centres currently use the guidelines. The curriculum guidelines contains the philosophy, long-and short term goals; objectives of the programme; identifying the different skills components to be imparted as well as the suggested list of books and other resources to help teachers of pre-school centres.

（中略）

5. INVESTMENT IN EFA SINCE 1990

5.1 In terms of new investments, primary schools have seen the introduction of science, living skills and music into their curriculum together with the greater emphasis on language teaching and the use of information technology in education.

5.2 The development of Multimedia Super Corridor (MSC) and the rapid increase in the use of information technology is creating a major challenge for the educational system. As the pioneer for making a world-class quality education centre a reality in Malaysia, the MOE has initiated the Smart School Programme and encouraged the use of multimedia and other materials in the teaching and learning process. As the children at the pre-school classes are feeders to the programmes, the government has given more allocation to improve the educational infrastructure e.g. the building of new schools, updating materials and resources for teaching and learning e.g. developing CD-ROMs, and in getting teachers to participate in childcare courses.

（中略）

Part II: Analytic Section

6. PROGRESS TOWARD GOALS AND TARGETS

Childcare Centres and Pre-schools

（中略）

6.4 As stated earlier in paragraph 1.1, there are two types of institutions that cater to ECD, i.e. the childcare centres which enrolls children below four years old and the pre-school which admits children between the ages of 4+ through 5+. However, for the purpose of this exercise, data drawn on enrolment into ECD programmes is only confined to the pre-school programmes available for 4+ and 5+ year old in the country. This is observed in the template on indicator 1 attached and presented in Figure 6.1a and Figure 6.1b. However, progress in ECD programmes for children below 4 years old can be concluded

from Table 6.1a.

6.5 Table 6.1a shows the increasing trend in participation of children and number of childcare centres registered with the various public agencies between 1990 and 1998. The high level of participation into childcare centres as observed over the period between 1990 through 1998, is attributed to the increasing awareness among parents towards the importance of acquiring early childhood development. As more parents become increasingly affluent, the need to equip their children with skills to cope with the future also increases. This demand triggers off the overwhelming establishment of childcare centres.

6.6 The ECD programmes for 4+ through 5+ year old children of pre-schools can be observed in Table 6.1b. The largest proportion of pre-school centres is through the Community Development Division (KEMAS) of the Ministry of National Unity and Social Development (61.8 per cent) and the MOE (10.3 per cent). The private sector provides 18.4 per cent of the demand.

(中略)

Figure 6.1a provides a comprehensive picture towards the level of participation in pre-school programmes from 1991 through 1997 conducted by government agencies. The fluctuating trend observed over the seven-year period can be explained as follows.

From 1991 through 1994, data collected from the various agencies conducting such programmes was unstable. A more efficient system of data collection applied resulted to a more stable data observed from 1995. In 1995, there was a steady increase in the gross enrolment ratio (GER). It is important to point out that percentage of enrolment in pre-school programmes as displayed in Figure 6.1a has been derived from enrolment in pre-school centres registered with the various public agencies only. It shows clearly the progress that has been made since 1991 towards achieving the goal of providing basic education for all children. The steady increase in GER trend sustained, Malaysia is expected to achieve a 100 per cent GER in two or three years time.

An issue that UNESCO gives particular attention to EFA programmes is gender participation. In Malaysia it should be noted that gender is no longer an issue where admission to any educational development programme is concerned, ECD programme being one.

Figure 6.1b details the level of participation in pre-school programme in Malaysia by gender. The figure shows that enrolment in pre-school programme is high among females from 1991 through 1997. There is no gender discrimination in terms of admission into such programme as in other educational development programmes provided by the MOE.

Interestingly though, the figure indicates admission of females into pre-school programmes surpasses slightly that of males. However, the difference in percentage between both genders is minimal. This trend presumably can be traced to the incomplete set of data to encompass the whole scenario of pre-school programme.

（中略）

At present there is no absolute data to indicate the percentage of new entrants to primary grade 1 who have attended some form of organised early childhood development programme as required by EFA Year 2000 Assessment. Presented in Figure 6.2a and Figure 6.2b and the attached template for indicator 2 is readily available data on pre-schools that was compiled between 1992 through 1998. Data from the – ‘National Survey on Primary One Students Who Have Experienced Pre-school Education’ conducted in 1997 by the EPRD of the MOE is also presented in support of the analysis of reporting indicator 2.

Enrolment of new entrants into grade 1 with some form of ECD is derived from the number of children between the ages of 4+ and 5+ that were enrolled in pre-schools between 1992 through 1998. As such, it is not unusual that analysis of new entrants into grade 1 with some form of ECD at the state level sometimes show more than 100 per cent of new entrants to grade 1. The situation could also arise from the mobility of families migrating from one province (state) to another.

6.14 Observed in the Figure 6.2a is a high percentage of new entrants to grade 1 who have attended some form of organised early childhood development programme during at least one year (or one enrolment period). Percentage of new entrants with ECD experience has been at 80 per cent and above for the period between 1992 through 1998. A ‘National Survey on Primary One Student Who Have Experienced Pre-school Education’ conducted by the MOE in 1997 also shows that a high percentage (87.7 per cent) of the students have attended some form of early childhood education.

6.15 There is no significant difference in gender with regards to new entrants to grade 1. It is to be emphasised that there is no gender discrimination in providing opportunities for education. The breakdown by gender is observed in Figure 6.2b

6.16 The high percentage of new entrants to grade 1 with some form of organised learning activities is a testimony to the fact that parents are increasingly aware of the importance of early exposure towards education in the formative years of their children. It is widely recognised that any form of organised programme to prepare young children for formal education is a positive start in their future development. An impact study conducted by the MOE with the co-operation of UNICEF in 1997 supports this. The study revealed that primary school students who attended pre-school do perform better than their peers although these gains may not sustain in some cases.

（中略）

7. EFFECTIVENESS OF THE EFA STRATEGY, PLAN AND PROGRAMS

7.1 Throughout the period between 1990 through 2000, EFA programmes have been formulated based on the thrust of increasing accessibility and improving quality of education at all levels. The

accompanying indicators have pointed out effectiveness of the programmes planned and implemented. Although faced with financial constraints, objectives of the programmes were realised by exercising cost-effective measures and prioritising projects without compromising on accessibility and equity.

7.2 The growth of early childhood development programmes in Malaysia is increasingly significant as the enrolment for the childcare centres and the pre-school programmes are increasing every year. Close monitoring and enforcement by the MOE have succeeded in increasing awareness and confidence among parents that ECD is important in the formative years of their children.

(中略)

8. MAIN PROBLEMS ENCOUNTERED AND ANTICIPATED

(中略)

9. PUBLIC AWARENESS, POLITICAL WILL AND NATIONAL CAPACITIES

(中略)

9.3 A standardised pre-school curriculum known as "Peraturan-peraturan Pendidikan (Kurikulum Prasekolah 1997)" was gazetted on the 31 December 1997. On 27 November 1998 the MOE issued a circular on the usage of the Pre-school Curriculum Guidelines a guideline prepared by the CDC.

9.4 The reforms, among others, also provides for students to start primary education at the age of six and the compulsory registration of pre-schools which were formerly not governed by the regulations of MOE. In addition, emphasis is given to technical education together with greater government assistance for Islamic schools.

(中略)

10. GENERAL ASSESSMENT OF THE PROGRESS

10.1 Since its independence, Malaysia has achieved much in education. The country can boast of an official literacy rate of 93 per cent. Student enrolment in primary schools is higher than 90 per cent of which around 92 per cent go on to secondary schools. Tremendous changes and development have taken place in education. A national system has evolved from a fragmented and diversified system of schooling. There is also a manifold increase in enrolment at all levels.

10.2 At the pre-school education level, the curriculum, facilities and teacher training in the public and private sectors were required to conform with the standards stipulated in the Education Act 1996. The number of children enrolled in pre-school centres increased from 253,675 in 1995 to 281,397 in 1998.

(中略)

PART III

11. POLICY DIRECTIONS FOR THE FUTURE

Early Childhood Care and Development

（中略）

11.4 With respect to ECD, the various ministries and agencies involved will continue to work closely together and to step up co-operation and collaboration. Among the efforts undertaken are i) structuring of the pre-school programmes, ii) developing evaluation mechanisms, iii) producing guidelines for the teachers and helping teachers to provide children with varied experiences, and iv) planning campaigns that will draw increased enrolment into childcare centres and pre-schools.

11.5 With the setting up of the various ECD centres, there is a need for close monitoring and regulating so as to ensure quality of such programmes is not compromised. Further to that, there will be a need to enhance co-ordination and co-operation among the agencies involved in such programmes to ensure continued progress for the benefit of young children. There is also further need for ECD programmes to be formulated to keep abreast with the current advent of IT and global developments taking place.

11.6 KEMAS will continue its community development programmes that have been planned and this includes in-service training for pre-school teachers. This is important so as to upgrade the knowledge and skills in early childhood education of these teachers.

11.7 Future plans for pre-school education includes its expansion to cover at least 65 per cent of children in the 4+ through 5+ age group by the year 2000. The quality of pre-school education will further be enhanced with the implementation of the curriculum guidelines. Consequently, the end of the 7MP period will see an increase in the number of trained teachers from 12,140 in 1998 to 15,340 in 2000.

（中略）

Conclusion

11.24 Programmes related to EFA in Malaysia will be continuously revised and expanded to improve the quality for long term investment of human resource development. Priority will continue to be placed on increasing the accessibility to education and training to enhance income generation capabilities as well as to improve the quality of life of Malaysians. Apart from expanding education and training facilities, financial assistance will also be provided to enable the low-income group to have greater access to education and training. The expansion of education and training opportunities will also make Malaysia a regional educational hub.

<EFA 2000 ASSESSMENT COMMITTEE>

Advisory Board:

Dr. Haji Azmi Zakaria (Director, Educational Planning and Research Division, Ministry of Education)

Dr. Wan Chik Rahmah Wan Din (Deputy Director, Planning, EPRD)

Dr. Haji Abdul Halim Ahmad (Principal Assistant Director, Macro Planning)

National EFA Coordinator: Ms Sahara Ahmad (EPRD)

Technical Coordinator: Ms Zaljiah Abu Chik (EPRD)

Data Contributors:

Data Unit, EPRD: Mr. Hj. Mokhtar Sarbaini, Mr. Ahmad Kamel Abdul Rahman

Schools Division: Mr. Ahmad Zahari Mohamad (Curriculum Development Centre),
Dr. Sharifah Nor Puteh, Mr. Zainusham Yusuf

Examinations Syndicate: Ms. Marlin Abdul Karim, Mr. Khidir Zakaria

Finance Division: Mr. Rajagopalan Pillay

Technical Education Department: Dr. Wan Azlinda Wan Mohamed

Department of Statistics: Ms. Esah Hussin, Ms. Hajah Azizah Nordin

Technical Support: Mr. Azwan Abdul Aziz (EPRD), Mr. Mohd Burhan Ibrahim (EPRD)

Working Group I: Early Childhood Development

Dr. Sharifah Nor Puteh, Mr. Zainusham Yusuf, Ms. Norhayati Mokhtar

Working Group II: Primary Education:

Mr. Ahmad Zahari Mohamad, Mr. Zainusham Yusuf,

Mr. Rajagopalan Pillay

Working Group III: Learning Achievement and Outcomes:

Mr. Rosli Ghazali, Ms. Marlin Abd. Karim, Mr. Khidhir Zakaria

Working Group IV: Adult Literacy:

Ms. Hajah Azizah Nordin, Ms. Esah Hussin, Mr. Rosham Abdul Shukor

Working Group V: Training in Essential Skills and Education for Better Living:

Dr. Wan Azlinda Wan Mohamed, Mr. Mohd Sahar Darusman,

Ms Fauzih Ayob, Ms Samsuri Yaacob

<要旨>

多民族国家マレーシアにおける「万人のための教育」プログラムは、「国家教育哲学」に表されたような国民意識の涵養と同時に、第6次、7次のマレーシア計画に代表される全ての教育レベルでのアクセスの拡大に焦点を当てた。その中で就学前教育は国家発展を担うマレーシアの子どもたちの教育への準備に役立つ。

マレーシアには就学前の教育機関として、保育園と幼稚園があり、保育園は4歳未満、幼稚園は4歳以上6歳以下の子どもたちを受け入れている。保育園は i) Home Based Centre と ii) Institutional Centre に大別され、前者は多くて10人程度、後者は10人以上の子どもの世話をす

る。これらは半日から全日までの保育サービスを提供する。その目的は、働いている親の支援、生活水準の向上、保育園で働く人員の供給、保育を通しての子どもたちの社会との関わり合い、である。

幼稚園は 4～5 + α 歳の幼児を対象とし、1～2 年間行われるノンフォーマルで柔軟なプログラムである。高・中所得家庭の子どもを対象とした私立の幼稚園は都市部に集中しているため、教育省や他の政府機関の運営する幼稚園は、私立の幼稚園等に入園できなかった都市や地方の恵まれない子たちが、無償あるいは最小限の学費で就学前教育を受けることを可能にしている。幼稚園は正規の学校教育に確固たる基礎を提供することを目指している。すべての幼稚園は教育省によって設定された教育カリキュラム・ガイドラインに従う。このカリキュラムでは特に、a. 社会的技能、b. 知的技能、c. 身体的技能、d. 精神的技能、e. 審美的価値（創造力と評価）の育成を目的とする。すなわち、国家教育哲学と一致しているカリキュラムは小学校就学前に基本的なコミュニケーションや社会生活の基礎的な知識や技能を獲得することである。

保育園は 1986 年の「Childcare Centre Act」に基づき、社会福祉・保健省と労働省、地方自治体が認可、監督している。一方、幼稚園は、1996 年の「Education Act 1996」にて正式に国民教育制度に組み込まれ、教育省が認可を行う。

この教育省を中心として、他の政府機関、私企業、NGO、地域密着の組織、宗教団体と産業界とは密接な協力関係がある。国民統合・社会開発省や地方開発省等の政府機関は教育省を補うプログラムを並行して実施している。また NGO やその他の組織との連携も重要である。幼稚園設置者の最も大きい割合は国民統合・社会開発省の 61.8%、KEMAS を通した教育省の 10.3% などであり、私企業は 18.4% を提供している。保育園・幼稚園のプログラムは毎年増加している。種々の 就学前教育機関を設立することで、このようなプログラムの質を保証するようにモニタリングや制御を行う必要がある。またそれに関係して、幼い子供たちの利益のために継続的な進歩を保証するこのようなプログラムに関わる政府機関の間での調整と協力体制の強化、IT とグローバルな開発についても、並行して保持するべき必要があるだろう。また幼稚園教諭の知識と技能の向上と数的な増加も重要である。

結論として、マレーシアにおける「万人のための教育」と関係が深いプログラムは、持続的に修正されて、長期の人材開発の持続と質を改善するためにますます拡大されるであろう。

【資料 3】幼稚園教育カリキュラムの概観：私立幼稚園のカリキュラム事例 (Tadika Sri Mawar 幼稚園／クアラルンプール) ⁽¹¹⁾

<学園案内：本文>

Tadika Sri Mawar opened in January 1985 at its first premise at Jalan Ungu (old Shell quarters) near Dewan Suarah. The school is owned and operated by Miri Educational Centre Sdn Bhd and is registered with the Malaysian Ministry of Education.

All teaching staff are also approved and registered with the Ministry of Education.

The school follows the preschool curriculum set out by the Ministry of Education. Instruction in Level 1 is in English and Bahasa Malaysia introduced in Level 2 and 3.

The kindergarten offers three years or levels of preschool education for children. The guideline / curriculum for the three years or level of preschool educating are as follows. (see Guidelines)

<学園案内：全訳>

Tadika Sri Mawar は Dewan Suarah の近郊、Jalan Ungu にその最初の校舎が 1985 年 1 月に開かれます。学校は Miri 教育センター株式会社 によって所有、経営されて、マレーシア教育省に登録されています。すべての教授スタッフも承認されて、教育省に登録されます。

学園は教育省によって設置された幼稚園カリキュラムに従います。

1 年次（レベル 1）での指導は英語で行います。そしてマレーシア語は 2・3 年次（レベル 2・3）で導入しました。

幼稚園は子供たちに 3 年の幼稚園教育のレベルを提供します。幼稚園が教育することの 3 年間のガイドライン、(各レベルの) カリキュラムの内容は次の通りです。(ガイドライン参照)。

<カリキュラム・ガイドライン本文>

GUIDE LINES FOR LEVEL 1	GUIDE LINES FOR LEVEL 2	GUIDE LINES FOR LEVEL 3
1. Social Development	1. Social Development	1. Social Development
2. Responsibilities	2. Responsibilities	2. Responsibilities
3. Language	3. English / Bahasa Malaysia	3. English / Bahasa Malaysia
4. Chinese	(Oral)	A) Oral
5. Mathematics	4. Phonics, Vocabulary and	B) Phonics and Language
6. Daily Activities	Language	C) Writing
7. Creative Work	5. Writing	D) Spelling
8. Motor Skills	6. Reading	E) Reading
9. Computer Studies	7. Activities / Creative Work	4. Motor Skills
10. Moral Education	8. Motor Skills	5. Mathematics
11. Agama	9. Mathematics	A) Review number concept
	10. Computer Studies	1 – 20
	11. Chinese	B) Oral work in counting
	12. Moral Education	C) Language of Numbers
	13. Agama	D) Time
		E) Measuring
		F) Fractions
		G) Simple Graphs
		6. Creative Work / Activities
		7. Computer Studies

		8. Chinese 9. Moral Education 10. Agama
--	--	---

GUIDE LINES FOR LEVEL 1 (Those who will turn 4 years - during the year)

General Aims: To provide an environment for guided play to develop language, expression and understanding in English.

1. SOCIAL DEVELOPMENT

- a. Become part of a group, a social person
- b. Being aware of others' needs
- c. Exercise self control during play
- d. Learn to follow directions from teacher
- e. Learn to share
- f. Learn general courtesy "Thank You", "Please", "Pardon Me", etc.

2. RESPONSIBILITIES

- a. Tidy classroom, shelves, library
- b. Crayons, pencils put away
- c. Toys returned to correct places
- d. To help one another
- e. Put book, bag, drink, and snack in the appropriate place and tidy up after snack time.

3. LANGUAGE

- a. Follow simple instructions in English
e.g. Put the book away. Do the puzzle
- b. Learn to say simple greetings
e.g. "Good Morning, Mrs Smith" "Goodbye"
- c. Learn names of part of the body, articles of clothing, objects in the classroom, action words
e.g. This is a ball. Where is your nose? Can you run? Clap your hands.
- d. Learn colours. Red, yellow, blue, green, brown, white, orange, black, purple
- e. Learn songs in English
- f. Learn to say the alphabet
- g. Learn phonics - consonants first then vowels
- h. Introducing themselves e.g. My name is
I am Years old., I live in Miri., My father name is

- i. Show and tell
- j. Story telling - showing pictures, colours etc.
- k. Free conversation
- l. Flash card games.

4. CHINESE (3 x 30 Minutes per week)

- a. Oral, reading and singing
 - 1. Listening to stories
 - 2. Follow simple instructions
 - 3. Answer questions according to pictures
 - 4. Read nursery rhymes
 - 5. Learn simple strokes
 - 6. Sing songs.
- b. Written Work - Trace dotted lines, matching and colouring.

5. MATHEMATICS

- a. Learn to count 1 - 10
- b. Learn comparisons big / little, long / short, light / heavy, clean / dirty, wet / dry

6. DAILY ACTIVITIES

- a. Singing (Pronunciation of song line by line)
- b. Jigsaw puzzles
- c. Well planned book area so the children can browse
- d. Building with wooden blocks, duplo and other types of construction toys
- e. Sand play
- f. Play with dolls and toys at a specific time of day.
- g. Play dough
- h. Interest table "Nature items or other"
- i. Visits to places of interest
- j. Water play (occasionally)

7. CREATIVE WORK

- a. Some creative work everyday
- b. Printing, crayoning, etc.
- c. Cutting out with scissors
- d. Collage with tissue paper, coloured paper, junk materials, potato prints , pasting, fabric.

- e. Group activities (mural of frieze)
- f. Clay, plasticine , play dough
- g. Opportunities for imaginative play. (domestic situations , dressing up materials , playing store.)

8. MOTOR SKILLS

- a. Learn pencil control
- b. Learn left to right progression
- c. Learn to use scissors
- d. Learn to use P.E. apparatus
- e. Learn to throw and bounce a ball
- f. Large motor skills , jump, hop, run.

9. COMPUTER STUDIES (Second Term) 30 minutes per week.

10. MORAL EDUCATION (Second Semester) 4 x 30 minutes per week.

11. AGAMA (Second Semester for Muslim students) 4 x 30 minutes per week

- a. Jawi
- b. Moral

GUIDE LINES FOR LEVEL 2 (Those who will turn 5 years - during the year)

General Aims: To provide an environment to develop language, expression and understanding in English and Bahasa Malaysia.

1. SOCIAL DEVELOPMENT

- a. Become part of a group , a social person
- b. Become aware of others needs
- c. Exercise self-control playing
- d. Learns to follow directions from a teacher
- e. Follows school rules
- f. Learns to share.

2. RESPONSIBILITIES

- a. Picks up papers and other things dropped on floor and uses dustbin when necessary
- b. Pencils put away
- c. Toys returned to correct places
- d. To help one another
- e. Put book , bag, drink and snack in the appropriate place and tidy up after snack time.

- f. Bring reading files to school everyday.

3. ENGLISH / BAHASA MALAYU (ORAL)

Oral

- a. To follow more complicated directions
e.g. Go to the table and get the book.
Take the balls and give the other to Jonathan.
- b. To ask for specific objects.
e.g. Can I have the red pencil?
Do you have my book?
- c. To seek and give personal details.
e.g. What is your name? My name is Ali. / Do you like to swim? No. I don't.
How many boys are there in this class? / There are 10 boys in the class.
- d. Learn comparisons and review others learned in Level 1
Big / little , long / short, tall / short , fat / thin,
Down / up , shut / open , cold / hot , more / less,
Clean / dirty, top / bottom , thick / thin , empty / full, Pull / push, first / last , left / right ,
old / young, Day / night, near / far, heavy / light, over / under, Front / back, quiet / loud,
happy / sad, wide / narrow, Hard / soft, asleep / awake, sink / float, in the middle
e.g. Is the cat black? No, it isn't. That cat is bigger than this cat.
- e. Learn more action words.
e.g. Are you skipping? Yes I am.
Can you tie your shoes? Yes, I Can.
- f. Description of action. What must you do every morning?
e.g. I must brush my teeth every morning.
- g. To ask a simple question / and give a reply to a question.
e.g. Where is the yellow cap? It is on the table.
- h. Give simple directions.
e.g. Put the book on the table.
- i. Introduce the following language topics:
School supplies, times of day, introductions, places in the community, places in the school,
habitual actions, parts of the body, parts of the plants, parts of fish, clothing, members of family,
flowers, occupations, market, transportation, food, fruits, vegetables, playground and physical
education equipment, insects, animals as pets, toys and sea creatures.

4. PHONICS, VOCABULARY AND LANGUAGE

a. Learn the initial sounds of all the letters of alphabet and handwriting to follow the learning of these sounds and language exercises to back these up.

1. Colour picture beginning with "C"
2. Match to correct sound
3. Circle correct sound
4. Write the sound from selection
5. Making helpers using short vowels
e.g. a, e, I, o, u, -ba, ca, da, di, be, etc.
6. Using helpers and final sound to make words.
7. Double final sounds -ss, ll, ff.

b. Learn the sukukata

5. WRITING

a. To learn to write and recognise letters of the alphabet, follow kindergarten book (lower case letters)

6. READING

- a. Daily work on look and say, sentences and sound work.
- b. To hear the child read everyday and to back this up with homework with their word cards and reading each night
- c. Classroom. Work on days of week, months of year, names of colour and names of numerals 1-10
- d. Create an environment that will encourage the children to read
- e. Learn English rhymes
- f. Learn Bahasa Melayu Pantun

7. ACTIVITIES/CREATIVE WORK

- a. A well planned book area to encourage the children to browse
- b. Plenty of interesting materials, to encourage them to read
- c. Nature table or interest table
- d. Visits to interesting places
- e. Games, jigsaw puzzles, guided play with building toys, lego, wooden blocks, etc.
- f. Music - singing and rhythms in English and Bahasa Malaysia
- g. Occasional sand play
- h. Painting, etc
- i. Cutting and pasting
- j. Junk models - connected perhaps with project work.
- k. Tissue paper collage, coloured paper, pasting, potato print and fabric collage

- l. Murals. (group activity)
- m. Construction of toys and games
- n. Play with plasticine / playdough / or real clay.

8. MOTOR SKILLS

- a. Continue work on pencil control with pattern and alphabet
- b. Continue to practise using scissors and practise pasting
- c. Learn to use PE apparatus
- d. Throw, bounce and catch a ball
- e. Throw bean bags into a pail
- f. Skipping, jumping, running, hopping, stopping, balancing and landing.

9. MATHEMATICS

- a. Number concept 1- 20
- b. Correct number format
- c. Language of numbers
Heavy / light, more than / less than
Add and take away 1 set of + - =
- d. Practical work for shopping weighing, measuring and capacity.
 - i) Shopping - use of money recognize 1 sen, 5 sen, 10 sen, 20 sen, 50 sen, RM1.
 - ii) Estimating heavier than, lighter than, practical comparisons, simple recording.
 - iii) Geometric shapes - learn to recognize and name, circle, triangle, oval, rectangle, square and diamond.
 - iv) Introduce solid shapes.
 - v) Capacity:
 - a) Sand and water play
 - b) Suitable equipment leads to discoveries
 - c) Time-hour
- e. introduce fractions: $\frac{1}{2}$ and $\frac{1}{4}$
- f. Introduce simple addition and subtraction through 10
- g. Introduce cardinal numbers (1st - 10th)
- h. Measuring - long / short, longest/shortest, tall/short.

10. COMPUTER STUDIES (1 Hour per week)

11. CHINESE (3 x 30 minutes per week)

- a. Those activities taught in Level 1

- b. 1. Writing basic strokes (Chinese Handwriting)
All together 26 strokes
- 2. Single words and phrases
- 3. The aim is to understand and to speak

12. MORAL EDUCATION (4 x 30 minutes per week)

13. AGAMA (for Muslim Students - 4 x 30 minutes per week)

a. Jawi

b. Moral

GUIDELINES FOR LEVEL 3 (Those who will turn 6 years - during the year)

General Aim: To provide in English and Bahasa Malayu the environment to develop language, expression and understanding. To foster in each child interest in the world and people around him and a desire to find out and understand more.

1. SOCIAL DEVELOPMENT

- a. Works in a group situation
- b. Becomes aware of the needs of others
- c. Exercises self-control during play (good sportsmanship)
- d. Follows directions of teachers
- e. Follows school rules
- f. Learns to share

2. RESPONSIBILITIES

- a. Picks up papers and other things dropped on the floor and uses the dustbin when necessary.
- b. Classroom tidy, shelves, library
- c. Pencils, rulers and scissors put away
- d. Toys returned to correct places
- e. To help one another
- f. Brings reading files to school everyday
- g. Puts books, bag, drink and snack in the appropriate place and tidies up after snack time.
- h. Does homework and schoolwork assigned by the teachers.

3. ENGLISH / BAHASA MALAYSIA

A) ORAL

- a. To follow more complicated directions and also give directions to others

- b. To ask more complicated questions, state size, colour, and make comparisons
- c. To seek and give more complicated details of likes and dislike and other personal information.
- d. Review and study more about the language topics introduced in Level 2 and study some new topics. The topics are:-

School supplies, times of day, introductions, places in the community, places in the school, habitual actions parts of the body, parts of plants, parts of a fish, clothing, members of the family, flowers, occupations, transportation, food, fruit, vegetables, playground and physical education equipment, insects, animals as pets, tools, sea creatures, animals, type of days (windy, cloudy, etc), sports, hobbies, beach, buildings, parts of a house, toys, birds, furniture, animal parts, countries, musical instruments, appliances, home safety, road safety.

- e. Learn more action words (verbs) and descriptive words (adjectives and adverbs)
- f. In general to increase the children's vocabulary
- g. Group discussions, dramatics, skits, etc.

B) Phonics and Language

- a. Review initial phonic sounds and blends with helpers ending as, ll, ff.
- b. Learn double sounds
- c. Phonics training progresses with addition of diphthongs, silent (e), and more difficult combinations.
- d. Review of sukukata

C) Writing

- a. Review of lower case letters. The children will learn to copy from a book and from the blackboard. Capital letters will be used during the year.
- b. Some children should be able to write simple sentences or stories by the end of the year.

D) Spelling

Although spelling should not be allowed to inhibit them expressing themselves, accuracy in the spelling of familiar words should be encouraged. Starting first term there are spelling tests of 10 words per week in English. Bahasa Melayu and Chinese.

E) Reading

- a. Daily work on look and say, sentence and sound work.
- b. Hear the child read everyday and to back this up with homework of word cards and reading each night.
- c. The children progress through books listed in our reading schemes. Children are encouraged to read more widely from various supplementary readers and library books available.
- d. Revision of days of the week, months of year, names of colours and name of numerals (1 -10)
- e. Create an environment that will encourage children to read.
- f. Learn English rhymes.

- g. Learn Bahasa Melayu pantun.

4. MOTOR SKILLS

- a. Continue work on pencil control with patterns and writing the alphabets.
- b. Continue to practise using scissors and practise pasting.
- c. Learn more ways to use PE apparatus.
- d. Continue to practise throwing bean bags into a pail
- e. Continue to practise throwing, bouncing and catching a ball
- f. More practise on skipping, jumping, running, stopping and balancing.

5. MATHEMATICS

- A) Review number concept 1 - 20 (read, write and recognize)
- B) Oral Work in Counting
 - a. Learn to count to 100 for pleasure
 - b. Counting objects e.g. children, pencils, shoes, chair, etc.
 - c. Counting in 2s to 20. Count children, shoes, hands, eyes and feet in pairs.
 - d. Use a number line
 - e. Ordinals numbers 1st, 2nd, 3rd, etc. (Use date chart, children in line or things, Use calendar.)
 - f. Counting by 5s to 100. Initially using fingers, toes, hands, etc.
 - g. Counting by 10s to 100, using bundles of sticks, pencils, children's hands, patterns or number square.
 - h. Counting by 2s to 100.
- C) Language of Numbers
 - a. heavy / light, more than / less than, add and take away (subtraction) +, -, =
 - b. More practical work for shopping, weighing, measuring and capacity.
 - c. Shopping - use money recognize 1 sen, 5 sen, 10 sen, 20 sen, 50 sen, RM1.
 - d. Estimating heavier than / lighter than, practical comparisons and simple recording.
 - e. Geometric shapes - review circle, triangle, oval, rectangle, square, semi circle and diamond.
 - f. Review solid shapes - cubes, cuboids, spheres, and cones.
 - g. Comparisons tall, taller, tallest, etc., sizes of people and things.
- D) Time
 - a. Names of days of week.
 - b. Morning, afternoon, evening
 - c. Day, night
 - d. Today, yesterday, tomorrow
 - e. Clock hour, half hour, o'clock, bedtime, lunchtime, dinnertime, etc.

- f. Try to learn simple addition and subtraction facts to 10 by heart by the end of third term.
- g. Work on addition and subtraction facts to 20.
- E) Measuring - long / short, longest / shortest, Using hand spans, strides, measure with ribbons, meter stick, rulers, simple recording of information.
- F) Fractions - $1/2$, $1/4$, $3/4$, $1/3$, $2/3$
- G) Simple Graphs

6. CREATIVE WORK/ACTIVITIES

- a. Painting, cutting, etc.
- b. Cutting and pasting.
- c. Junk model - connected with project work.
- d. Tissue paper collage, coloured paper, potato prints and fabric collage.
- e. Murals (group activity)
- f. Construction of toys and games.
- g. Clay modeling and plasticine
- h. A well planned book area to encourage the children to browse.
- i. Plenty of interesting materials, to encourage them to read.
- j. Nature table or interest table
- k. Visits to interesting places.
- l. Games, jigsaw puzzles, guided play with building toys, lego, wooden blocks.
- m. Singing and rhythms in English and Bahasa Malaysia.
- n. Occasional sand play.

7. COMPUTER STUDIES (1 HOUR PER WEEK)

8. CHINESE - (3 x 30 minutes per week)

- a. Those activities taught in Level 1 & 2
- b. Match Primary 1 syllabus
- 1. Write and learn simple single words, phrases and simple sentences.
- 2. Spelling test once a week
- 3. Make simple sentences
- c. The aim is to learn the basic way of handwriting and usage of word learned.
- d. Individualized reading for Chinese.

9. MORAL EDUCATION (4 x 30 minutes per week)

10. AGAMA (For Muslim Students) 4 x 30 minutes per week

- a. Islamic History

- b. Quran Reading
- c. Jawi
- d. Bahasa Arab
- e. Moral

<要旨および雑感>

1年目（4歳児）は、英語による指導で、遊びや言語、表現と理解を発達させる環境を提供することを目的としている。

社会的発達（人間関係の構築等）、責任（しつけ、後片付け等）、言語（全て英語。日本の中学1年程度の内容まで含む）、中国語（週3×30分）、算数、一日の活動（積木、水遊び、砂遊び等）、創造的活動（絵、工作、音楽等）、手足を使う技能（鉛筆の使い方、道具の使い方等）、コンピューター学習（週1×30分）、道徳（2学期に週4回×30分）、宗教（ムスリムのみ2学期に週4回×30分）といった分野を扱う。

2年次（5歳児）はマレー語学習が開始され、英語、中国語を発展させる環境、英語での表現と理解が大きな目標とされる。社会的発達（人間関係・規則など）、責任、英語とマレー語（会話）。（日本の中学2年程度の内容まで含む。語彙はかなり多い）、韻と言語、記述、読書、中国語（週3×30分）、算数（数量や幾何、分数の概念も扱う）、一日の活動（積木、水遊び、砂遊び等）、創造的活動（絵、工作等）、動作技能、コンピューター学習（週1×30分）、道徳（週4回×30分）、宗教（ムスリムのみ週4回×30分）といった分野を扱う。

3年次（6歳児）は英語とマレー語での言語表現と理解を発展させる環境を提供し、子どもたちひとりひとりが、自分の周りの世界や人々やさらに多くのことに関心を持ち、理解したいと思う気持ちを涵養することを目標とする。社会的発達、責任（宿題含む）、言語（英語とマレー語（会話、グループ討論、演劇なども含む）、韻、語彙と言語、記述（手紙や物語を書く）、綴り、読書、中国語（週3×30分）、説明技能、算数（加減）、時間、測定、分数、簡単なグラフ、一日の活動、創造的活動、動作技能、コンピューター学習（週1回×1時間）、道徳（週4回×30分）、宗教（ムスリムのみ週4回×30分、イスラームの歴史、アラビア語等）といった分野を扱う。

概観すると、とにかく目に付くのはその教育内容の多さである。IT化への対応としてコンピューター学習を取り入れているのはまだ良いとして、英語は、会話中心とはいえ日本でいう中学2年レベルまでの学習内容を5歳までで終わらせ、さらに並行して中国語、2年次からはマレー語、ムスリムの子どもにはジャヴィやアラビア語まで習う。算数は既に加減計算と分数（日本では小学5年）の概念まで登場している。ここの幼稚園も、教育内容について教育省のカリキュラム・ガイドラインに準拠していることを明記しているのであるから、これでも標準的なものなのかもしれないし、十分に考えられて統合的になっているカリキュラムなのかもしれないが、これだけ多種多様でペースの速い学習に園児たちがどの程度ついて行けているのか、また、教員はいかにしてそれを指導しているのか、非常に興味深いところである。

また、言語教育や IT 教育については時間を割いているが、例えばグローバリゼーションに対する対応や、遊びの中に取り入れられているであろうサブカルチャー（例えば日本文化等）の影響がどのようになっているのか、といった部分もふまえて、今後も、近年になってようやく国民教育制度として加えられ、変革の時を迎えているマレーシアの就学戦教育の動向に大いに注目して行く必要があるだろう。

注

- (1) Educational Planning and Research Division, Ministry of Education, Malaysia, *Education in Malaysia*, p.71, 1992
- (2) Judith Evans, *Excerpted from the Coordinators' Notebook No. 17, Creating a Shared Vision: How Policy Affects Early Childhood Care and Development*, Early Childhood Counts: Programming Resources for Early Childhood Care and Development, 1995
(<http://www.ecdgroup.com/download/va1emxxs.pdf>)
- (3) *Lows Relating to Malaysian Education*, MDC Publishers Printers Sdn Bhd, pp.12-13,1998
- (4) Educational Planning and Research Division, Ministry of Education, Malaysia, *Education in Malaysia*, p.45, 1997
- (5) OVTA HP, <http://www.ovta.or.jp>
- (6) Ibid.
- (7) 「Strait Times Singapore」紙 2002 年 1 月 12 日記事。
- (8) 「日馬プレス」紙 2002 年 2 月 25 日記事。
- (9) UNESCO, *Education For All 2000 Assessment Country Report. Malaysia*. UNESCO PROAP, June 2000. (Early Childhood Education (ECE) Website 2002 UNESCO Asia & Pacific Regional Bureau for Education), 2002
(<http://www.unesco.org/bangkok/education/ece/practices/malaysia.htm>)
ユネスコ HP:<http://www2.unesco.org/>
- (10) Ibid. (http://www2.unesco.org/wef/countryreports/malaysia/rapport_1-3.html)
- (11) *Guideline, Tadika Sri Mawar HP*, 2003
(http://www.srimawar.edu.my/Tadika%20Miri/Intro_tsm.htm)

参考文献・資料

- ・太田 光洋 / 金田 正一 『アジアの就学前教育比較研究の視座と課題』 (Perspectives on Comparative Study of Asian Pre-school Education)
- ・太田 光洋 / 金田 正一 <資料> 『マレーシアの就学前教育に関する資料(I): Gsd 幼稚園』 (Materials A research note on Pre-school Education in MALAYSIA I: Gsd Kindergarten), 旭川大学女子短期大学部紀要 16 号 (1993/10)

シンガポールの就学前教育の概要および関連資料の解説

池田 充裕

（山梨県立女子短期大学）

ikedam@yamanashi-ken.ac.jp

I. 現地調査報告

1. シンガポールの社会状況と教育制度

（1）人口構成

シンガポールはほぼ赤道直下に位置した都市国家で、華人系（76.8%—以下も2000年度数値）、マレー系（13.9%）、インド系（7.9%）という3つの主要民族から構成されている。

華人系は、華語（北京語）や中国方言（福建語や潮州語など）を母語としており、仏教（53.6%）やキリスト教（16.5%）、道教（10.8%）を信仰する。マレー系はほぼ全員がマレー語を母語とするイスラーム教徒（99.6%）である。インド系はタミル語やマレー語、または英語を日常言語として用いており、宗教もヒンドゥー教（55.4%）やイスラーム（25.6%）、キリスト教（12.1%）と多彩である。

・コミュニティ開発省“Essential Parenting Tips”より…様々な民族の親子像や交流の様子

(2) 教育制度

各民族が用いる言語が異なることから、同国では1965年の独立前後から、学校教育においては、英語と各民族の母語を教授言語に用いた二言語(バイリンガル)教育に取り組んできた。現行の教育制度においては、小学4年終了時に能力判定試験(英語、母語、算数の三教科)を用いて、5・6年生を3つの能力別コースに振り分け、また中学校でも小学校卒業試験(上級コースは英語、母語、算数、理科の4教科。中・下位の2コースは理科を除く)の結果に基づいて、3つの能力別コースを用意している。振り分け(ストリーミング)システムは、学習者の能力や適性、学習進度に応じた教育内容を提供して、学習遅滞やドロップ・アウトを防ぎ、効果的な教育投資と稀少な人材の効率的な配分を図るために、1980年から導入されてきた。

このように早期の段階から、英語と母語の二言語の能力が求められ、振り分け試験が課せられるわけだから、同国の厳しい進学競争を勝ち抜いていくためにも、就学前のヘッドスタートは極めて重要となる。親や子どもの教育負担、心理的ストレスも、日本では考えられないほど重いものになってくる。



マレー語の学習



タミル語の学習

2. シンガポールの幼児教育・保育制度

(1) 担当官庁

同国の就学前教育機関は、「教育法 (Education Act)」の“学校”の定義に属する幼稚園 (kindergarten) と、「チャイルド・ケア・センター (Child Care Centres: CCC) 法」に定められた CCC に大別される。教育機関の前者は教育省 (Ministry of Education; MOE) が、社会福祉機関の后者はコミュニティ開発省 (Ministry of Community Development and Sports; MCDS) が所轄官庁となり、我が国の幼保二元制に類似した構造となっている。

幼稚園は3～5歳児に対して、3年間の教育プログラム (Nursery→K1→K2) を提供しており、1日の授業時間は2.5～4時間、ほとんどが週5日制で午前と午後の2部制を採っている。幼稚園はその運営母体から主に以下3つの組織に分類できる。

- ①人民行動党（PAP）コミュニティ基金（Community Foundation）幼稚園（PCF Kindergarten）・・・1960年代にPAPが国内各地に設けたPAP幼稚園を前身とする。1986年にPCFが設置され、これにともない幼稚園もPCF幼稚園となる。現在300園ほどが置かれ、国内全体の幼稚園の6割近くを占めている。
- ②私立幼稚園・・・宗教団体、社会・教育団体、民間会社などが経営。
- ③外国人のための幼稚園・・・教育省に登録されているのは現在19幼稚園。英語と第二言語（母語）の二言語教育が課せられている。

CCCは7歳以下の子どもたちを受け入れ、月～金は午前7時～午後7時、土曜は午前7時～午後2時に利用でき、全日制または半日制となっている。この他、コミュニティ開発評議会（Community Development Council; CDC）も、その設置に関しては財政支援などを行っている。これまでCCCは共稼ぎ夫婦の子どものみを受け入れていたが、今日は原則として全ての家庭の子どもを受け入れ、代わりに保護者の就労状態に応じて補助金に格差を付けるという方式に改められている。CCCは様々な組織が運営しているが、大規模なCCC提供機関としては以下2つが挙げられる。

- ①人民協会（People's Association; PA）CCC・・・PAは1960年に政府のコミュニティ開発機関として設けられ、現在はMCDS所管の法定組織となっている。国内108カ所に置かれたコミュニティ・センター／コミュニティ・クラブの運営している。これらのセンター／クラブ内、全国21ヶ所にCCCを開設している。
- ②全国労働組合評議会（National Trade Union Congress; NTUC）CCC・・・1977年にNTUC附設のCCCとして始まり、現在では35センター、3,000名以上の子どもを保育する国内最大のCCC組織となっている。

（2）教員養成・資格制度

2001年1月に、教育省とコミュニティ開発省は、就学前段階の教員の質的向上を図るために、「就学前教育資格評価・認定委員会」（Pre-School Qualification Accreditation Committee(PQAC)）を設置し、これまで統一されていなかった幼稚園とCCCの教員養成・資格制度を統合した。同委員会は、次頁図のように教育省とコミュニティ開発省の担当局長が共同議長を務め、両省庁の官僚や就学前教育機関の代表が参加する。また大学の教育関係研究者が同委員会アドバイザー委員を務めている。

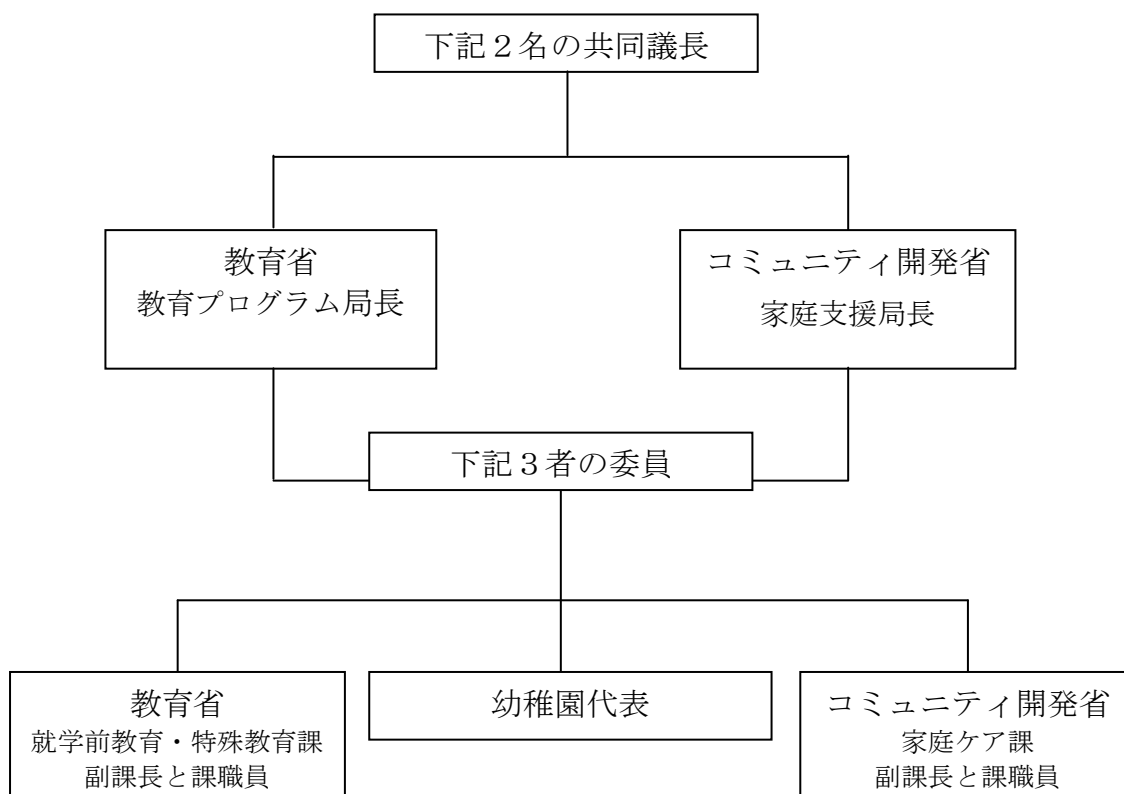
国内の教員資格や養成・研修プログラム、また海外の養成機関が発行する資格の評価・認定を行うことになっている。現在、同国で発行されている幼児教育・保育の教員資格は以下の通りである（→ [資料2] 参照）。

- ①就学前教育教員資格（Certificate in Pre-School Teaching; CPT）
- ②就学前教育教員ディプロマ（Diploma in Pre-School Education – Teaching; DPE-T）
- ③就学前教育管理職ディプロマ（Diploma in Pre-School Education – Leadership; DPE-L）

④就学前教育特修ディプロマ (Specialist Diploma in Pre-School Education –Teaching/Leadership; SDPE)

またこれにともなって、教員の資格要件も引き上げられ、例えば全ての施設について、2004年までに管理職、並びに少なくとも1名の教員はディプロマ相当以上の資格を有すること、また2007年までには教員の4名中1名はディプロマ相当以上の資格を要することが義務づけられるようになった。

PQACの構成



アドバイザー委員会:

- 国立教育学院・南洋理工大学基礎教育プログラム主任
- シンガポール国立大学助教授

事務局

- 教育省就学前教育課・コミュニティ開発省家庭支援局

3. シンガポールの幼児教育・保育の現状

筆者は、本年8月にシンガポール国内の幼稚園やCCC、教員養成機関のいくつかを訪問し、インタビュー調査を行ってきた。以下はその報告である。

（1）就学前教育機関－人民行動党（PAP）コミュニティ基金（PCF）教育センター

独立以来政権を担当している PAP（People's Action Party）は、1960 年代に民衆との意思疎通と社会開発のために、国内各地に廉価な幼稚園施設を設置してきた。これらの幼稚園は 1986 年に同党の非営利団体である PCF（PAP Community Foundation）に引き継がれたが、2002 年現在その数は 317 園、就園者数は 7 万 3 千人に達している。これは就学前教育段階の子どものうち、実に 75%が通っている計算であり、PCF 幼稚園は PAP の教育政策を国民に伝え、草の根レベルで支えている重要な機関となっている。

なお、教育省に登録されている各民族団体や宗教機関が設置した私立幼稚園は 123 園となっている。

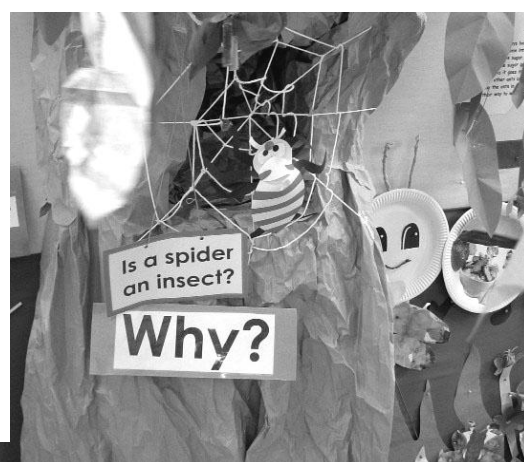
【教育内容】

PCF 幼稚園のカリキュラムには、英語と母語、算数のほか、絵画や工芸、音楽・ダンス、体育、自然・社会体験、訪問活動、コンピュータなど、様々な学習活動が組み入れられている。しかし私たち日本人にとってやはり注目されるのは、二言語教育の方法であろう。同国の幼稚園や CCC では、主として「統合シーケンス」（integrated sequence）に基づく教授法が用いられている。これは一つのコア・トピックやテーマを中心に、言語教育のみならず、算数や理科、音楽・ダンス、絵画などを含めた全ての教授内容を構造化して結びつけるという方法である。

例えば、「虫」というコア・トピックで組み立てられた教育プログラムの構造は、図に示すようなものだ。筆者はその「虫」トピックの学習活動を観察してきたが、音楽や身体表現の時間には、“1 little ♪ 2 little ♪ 3 little butterflies ♪” といった蝶の歌を歌いながら、蝶のように踊り、次は“butterfly”の部分を“cockroach”や“mosquito”に言い換えて、ゴキブリや蚊を真似て楽しく踊るといった活動を行っていた。教室には、教員が用意した“蝶の一生”のサイクル図や“質問の樹”（「クモは昆虫ですか？」といった質問カードとその解答が枝からぶら下がっている）などが展示され、子どもたちの虫の絵や工作もたくさん飾られていた。



職業のスピーチの授業



“質問の樹”

またある学年では、「仕事」というテーマで全てのカリキュラムが組み立てられていた。中国語の授業で“牙医”や“農人”と覚えた後、英語の授業で“dentist”や“farmer”を用いた文章を書き、その後の発表の授業では一人一人が「自分の将来になりたい職業」というテーマで英語のスピーチを行っていた。

つまり、日常生活に密着したトピックやテーマをコアに据えて、全ての教科内容をそれに関連づけて、一日の活動と教室空間全体を用いて、英語と母語の関連語句のシャワーを浴びせるという手法である。これらのトピックは週ごとに替わっていくが、これに合わせて「虫」「職業」といったタイトルの付いた教材やワークブックも、週ごとに用意されていた。教員用に作成された教授マニュアルも1年分ともなれば1m近くに及び、週ごとの解説内容も極めて精緻なものであった。他国にもあまり例のない、40年近くにわたって積み上げられてきた二言語教育の歴史の重みとそのエッセンスが、これらの活動や教材・マニュアルの中に凝縮されているように感じられた。

[異民族間の相互理解のための教育]

各民族の慣習や文化に関する相互理解学習についても、「統合シーケンス」の一部として、「お寺」「お祭り」といったテーマで採り入れられている。図のように英語や各母語の教材内で、各民族の寺院や行事内容に関する例文が挙げられているほか、実際に寺院施設を訪問したり、絵を描いたりといった様々な体験・創作活動によって構造化されている。

・各言語の教科書より…それぞれの教科書で、異なる民族の文化を紹介

・道徳の教科書・・・異なる言語教科で同じ内容を取り扱うことで、共通の価値観を育成

[コンピュータ教育]

IT 大国である同国では、ほとんどの幼稚園がコンピュータを利用した学習教材を導入している。小学校に入れば、1年生で MS-Word、2年生で e-mail、3年生で MS-Excel、4年生で MS-PowerPoint といった学習内容が待ちかまえている。さらに今般では、問題解決力や情報分析力といった資質・能力が重んじられてきていることから、インターネットや e-mail を利用した調査学習も様々な教科・場面で組み込まれている。就学前段階でマウスとキーボードの操作程度を習得しておかなければ、やはり小学校での授業に付いていくことは極めて困難であろう。



キーボードを叩くインドの女の子
と画面を指さす華人の女の子



算数の学習

(2) 保育機関—人民協会 (PA) CCC、全国労働組合評議会 (NTUC) CCC

CCC で保育事業を提供する代表的な機関としては、PA (People's Association) と NTUC (National Trades Union Congress) の二つが挙げられる。



人民協会 CCC のあるコミュニティ・センター

PA は、コミュニティ開発省所管の法定組織で、国内各地のコミュニティ・センターの運営に当たっている。その CCC は 1979 年に最初の園が開かれて、現在は 15 園となり、ほとんどがコミュニティ・センター内に置かれている。つまり同国の就学前教育施設としては、最も公的な機関と位置づけられるだろう。

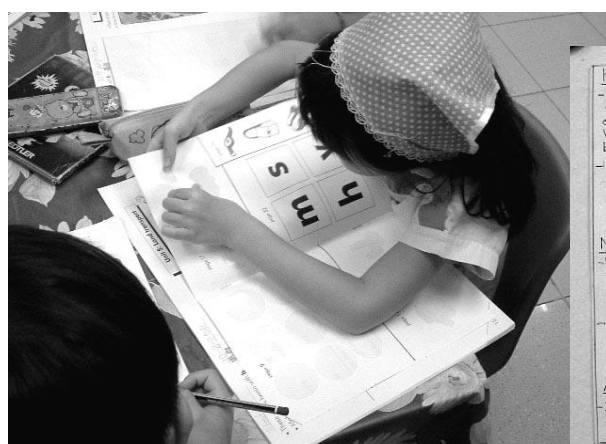
一方の NTUC は国内最大の労働組合であるとともに、CCC 保育事業を提供する最大の民間組織でもある。1977 年から設けられた NTUC の CCC は、組合員以外の子どもも広く受け入れており、現在は 35 園となっている。

CCC 保育事業を提供する最大の民間組織でもある。1977 年

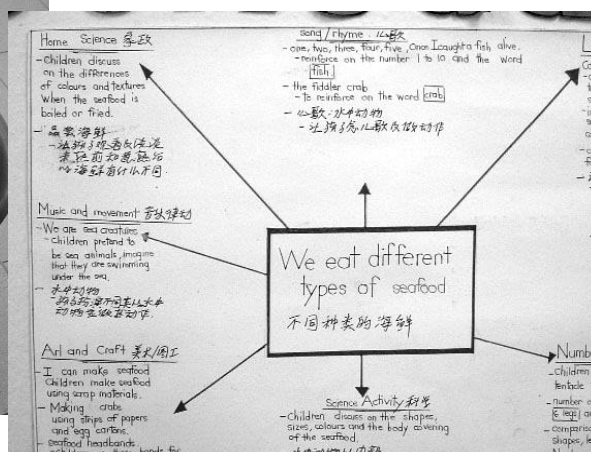
[保育・教育内容]

保育施設であるから、全日制プログラムでは、幼稚園とは異なって、お昼寝タイムやシャワー・タイム、朝・昼食、午後のおやつなどの時間などが設けられている。言語教育については、やはり幼稚園と同じく、統合シーケンス法が用いられている。

筆者が訪問した PA CCC では、「乗り物」をテーマに、華語で“火車”、英語で“car”と習った後、音楽・ゲームの時間には、“車はギョングン♪お船はホーホー♪自転車はリンリン♪”といった英語の歌を歌っていた。



英語の学習教材に取り組む



“シーフード”の統合シーケンス



ザリガニの観察



ザリガニの絵を描いて、英単語で説明

NTUC CCC は「海の生き物」を題材に、実物のザリガニやイカ、魚を観察して、全員で大判用紙に絵を描き、各部位を英語と華語で解説を付けていくというプログラムを行っていた。そして昼食には、これらシーフードの料理が出てくるという徹底ぶりであった。

なお、これら PA や NTUC の CCC が幼稚園と大きく異なっているのは、母語教育として華語しか取り扱っていないという点である。その理由は、イスラームを信仰するマレー系やインド系の場合、在園時間の長い CCC を敬遠して、短時間の幼稚園か、モスク内に設けられている保育施設に子どもを預けることによる。

だが、今回の調査で驚いたのは、それにも関わらず、CCC 内にインド系の子どもたちを見かけたことである。そこでインド系の子どもたちは、華語の授業に参加して、華人の子どもたちと華語で話したり、華語の歌を歌いながら踊ったりしていた。教員に尋ねたところ、「非イスラームのインド系の中には、タミル語よりも華語を習ったほうが有利であると考えて、CCC に子ども預ける保護者がいる」ということであった。政府は、母語・母文化維持の観点から、インド系に対してはタミル語を母語として選択して、学習するように奨励しているが、実のところ、インド亜大陸でも主要な経済言語はヒンドゥー語や英語なのであり、タミル語の経済的価値はあまり高くない。むしろ将来の国内外での経済活動を考えるなら、華語を使えるほうが有利であるとの見方が、インド系の中では広まっているようである。

（3）教員養成機関

今回筆者が調査で訪れた教員養成機関は以下の通りである。

- ・ニーアン・ポリテクニク（Ngee Ann Polytechnic; NP）就学前教育プログラム
- ・アジア地域幼児教育人材訓練センター（Regional Training and Resource Centre in Early Childhood Care and Education for Asia: RTRC Asia）
- ・東南アジア連合大学シンガポール養成校（Advent Links-South Asian Union College）

- ・シンガポール幼児教育教員協会（Association for Early Childhood Educators, Singapore: AECES）

これまで同国の就学前教育教員の養成課程は、職に就きながら受講する“パートタイム型”のものであったが、1999年にニース・ポリテクニク（NP）に初めて3年間の全日制養成課程が置かれた。NPのプログラムは、RTRCの教員や施設を利用した、両者協同の運営事業として行われている。このように就業前の養成ルートが開かれ、若手人材の育成と資格・待遇の引き上げによって、幼稚園教諭やCCC保育士を希望する男子学生も増えつつあるという。

なお、調査の様相については、<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/~youkyou/page022.html> にも紹介している。

*以上は、平成14（2002）年10月5日に、山梨県立女子短期大学で行われた県民コミュニティカレッジ（4頁参照）で、筆者が配布したレジュメ資料に加筆・修正を施したものである。

II. 資料紹介

【資料1】『幼い学習者の育て方—シンガポールの幼稚園カリキュラム・フレームワーク』

MOE, *Nurturing Early Learners: A Framework for a Kindergarten Curriculum in Singapore*, 2003

シンガポール教育省就学前教育課は2003年に、同国では初めてとなる幼児教育カリキュラムのフレームワークを刊行した。このフレームワークは、同国の幼稚園教育の目標を「生涯学習者（life-long learners）に向けての基礎作り」に定めており、積極的な学習態度やリスクに挑む意欲を身に付けさせるための原則や実践方法、活動の組み立て方や観察法などについて簡潔に述べている。[資料1]はその全訳である。

なお、英文オリジナル資料は、<http://www1.moe.edu.sg/preschooleducation/>にて入手できる。

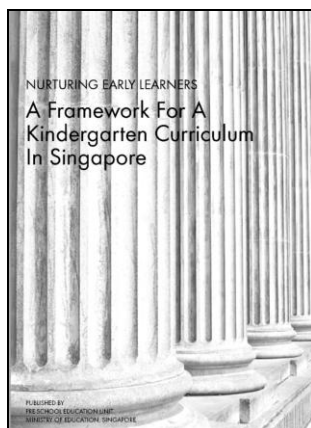
【資料2】「就学前教育の教員養成課程の評価・認定のためのガイドライン」

MOE-MCDS PQAC, *Accreditation Guideline for Pre-school Teachers Training Course (Revised October 2002)*, 2002

上述のPQACは2001年12月に初めての「評価・認定（accreditation）ガイドライン」を刊行した。今回提出した[資料2]は、2002年10月に改訂された就学前教育機関の評価・認定のための最新版ガイドライン（抜粋）である。就学前教育養成課程の目的、養成・研修ルート、CPT、DPE-T/L、SDPEの各資格・免許取得のための履修科目や時間数、養成機関の評価認定の方法が定められている。（SDPEの部分の履修表は紙面の都合により省略）

なお、英文オリジナル資料は、<http://www1.moe.edu.sg/preschooleducation/>にて入手できる。

[資料1]



幼い学習者の育て方

ーシンガポールの幼稚園カリキュラム・フレームワークー

シンガポール教育省・就学前教育課 発行

（池田充裕 全訳）

（以下、引用写真は同冊子より）

幼い子どもたちの教育とその発達に関わる全ての人たちに向けて書かれたこの本は、小学校での学校教育を近くに控えた子どもたちのための幼稚園教育の原則と期待される成果（desired outcomes）を解説している。

このカリキュラム・フレームワークは、効果的な生涯学習の基礎となる幼稚園教育の原則を示している。

国内外の研究成果に基づいたこのフレームワークは、子どもたちの成育と発達を手助けするために必要と考えられている、多様な学習経験を提示している。シンガポールの幼稚園教育の期待される成果で求められているその基礎は、子どもたちに自分自身と自分を取りまく世界の意味を理解させ、社会の責任あるメンバーとなるために役立つことだろう。

あなたが幼い子どもたちと活動する上で、この本が有用で役立ち、またそのことで一緒に楽しく、生涯学習者を育て、発達させることができるように期待する。

メッセージ

サルマン・シャムガラトナム
通産兼教育担当国務大臣

我々はすべて子どもたちが生気に満ちていることを知っている。我々は、愛情とケアと励ましによって、すべての子どもたちの生気に火を付ける義務を負っている。

幼児期はよく知られているように、園での生活を通して、大人と同じく個人の考え方や振る舞い方に大きな影響を与える。子どもたちが自発的な学習者になるかどうか、世界に自信を持って立ち向かっていけるかどうかは、幼児期の生活で良い刺激と指導、保育を受けるかどうか



かにかかっている。それゆえに、就学前教育にたずさわる者は重要な役割を負っている。

我々の目的は、子どもたちを全面的に発達させることである。明晰な思考力を育てたい。言語や芸術活動を通じて自分を豊かに表現できる能力、堅強な身体、また、他者に対して、その出自や背景にかかわらず、友情と敬意を示すことができるような態度を身に付けさせたい。

この幼稚園カリキュラム・フレームワークは、シンガポールの就学前教育の品質を高めるために私たちが考慮しなければならない主要な原則を明示している。シンガポール人の共同体が将来満足のいく生活を送るために、このフレームワークは幅広い教育的な努力の一部として欠かせない。

幼児期に好奇心を高め、学習に楽しんで取り組み、他人と容易に交流できる能力を身に付けさせることは、将来に向けた子どもたちのヘッドスタートとなる。全ての子どもたちにこのヘッドスタートを与えよう。

序文

ホー・ペン

教育省教育プログラム局 局長

教育省が設定した幼稚園カリキュラム・フレームワークは、シンガポールにとって画期を成すものである。これは質の高い幼稚園教育に向けて、私たちの見解を説明するために考案されたものである。このフレームワークは法的な拘束力は有していないが、幼稚園在園期の子どもたちの適切な学習活動の種類や方法、そして等しく重要である幼児期の子どもたちへの教授活動の在り方について示している。

このフレームワークで示された諸原則は、幼年期の段階での最も良い実践例から導き出されたものだ。それらは幼児期の教育をしっかりとしたものにするために、良く受け入れられてきた見解である。これらの原則は幼い子どもたちにとって最も適した教え方・学び方を導き、次の学習段階を作るためのしっかりとした基礎を保証するだろう。

もし学習が面白くて、楽しいものとして受け入れられるなら、それは子どもたちの生涯学習の旅立ちに役立つであろう。

フレームワークを開発する過程で、私たちは幼児教育専門家の専門的知見やこの領域での実践者の知恵を参照した。これらの方々のご支援に感謝する。また、外部コンサルタントとしてご参加いただいたゴールドスミス・カレッジのジーバ・ブレッキン研究員のご尽力にも感謝申し上げたい。

このカリキュラム・フレームワークがシンガポールの幼児教育分野に、多くの有用な手引きを提供してくれることを希望したい。

幼い子どもたちの学び方 (How Young Children Learn)

幼い子どもたちとはどのような存在か? (What are young children like?)

幼年期は、それ以降の発達と学習に関して決定的な影響を持っている。質の高い幼児期の体験が、子どもたちの将来の到達度を高めることが分かっている。幼い子どもたちは生まれつき活発な学習者である。

彼らは「観察」「調査」「想像」「発見」「調査」「情報収集」「知識の共有」といった能力を持

っている。

これらの幼児期の学習体験は、大人が学習への積極的な態度を促すような高度な相互作用を行うことで、さらに高めることができる。楽しく、強圧的ではない環境で、遊びと構造化された学習を通して、これは達成される。

幼稚園教育とは一体何か？ (What is kindergarten education all about?)

幼稚園教育の役割は、子どもたちを生涯学習の旅立ちに向けて準備することだ。そのような認識の下、しっかりとしたスタートを用意するために、子どもの全面発達を支援し、促進することが幼稚園教育の主な目的となる。

幼い子どもたちが学習旅行に入っていけるように、豊かな経験や機会を提供し、彼らの自然発生的で生来の多様な反応を育て、また受容していくことが求められる。

子どもたちが各自の技能と世界の知識を拡げて、より精巧で複雑なやり方で、学び、行動し、理解できるようになるためには、その過程での大人と友達の支援が極めて重要となる。

幼児期の教育が小学校の学校教育のための準備段階であるということは、何かしら認知されてきた。しかしそれは単に次の段階のためだけの準備なのではない。幼児期の教育はそれ自体が非常に重要なものである。幼稚園の時期から学習を加速させようと、子どもたちに簡略化された小学校カリキュラムを提供して混乱させてはならない。

幼稚園教育は、学習への愛情を促すことがその目的である。学習を楽しいもの、また挑戦的なものとして捉える子どもは、生涯学習旅行へのヘッドスタートを備え、私たちの世界の多くの側面を探究し、発見するさまざまな機会を享受することだろう。

シンガポールの幼稚園教育の目的 (Aims of Kindergarten Education in Singapore)

私たちは、幼稚園時代に子どもたちが世界を観察し、調査し、発見することを楽しんで行うように期待する。思考する国家と生涯にわたる学習者 (a thinking nation and life-long learners) を発展させていくために、考えて学び、学び考えるような子どもたちを、私たちは育てていかなければならない。

何も無いところで思考力は発達しない。言語と思考は非常に密接に関連しているから、思考力を発展させるためには、言語能力を発達させる必要がある。それゆえに幼稚園カリキュラムには言語技能に関する強固な基礎作りが求められる。

教育プログラムが完全であるためには、価値を強調しなければならない。人は孤立した存在ではない。子どもたちは他人との相互作用を学び、自分と他人それぞれの感情と欲求について気づかなければならない。子どもたちは新しい学習体験に取り組む中で、自信と心地よさを感じるようにならないといけない。

生涯学習が成功するために、幼児には個人的で社会的な技能を身につける機会が与えられなければならない。

これらの目的は、小学校教育へとつながる下記の「幼稚園教育の期待される成果」に反映されている。

<就学前教育の期待される成果> (The Desired Outcomes of Pre-School Education)

幼稚園の教育が終わるまでに、子どもたちは下の項目を身に付けなければならない。

-
- ・何が正しく、何が間違っているのかを知る
(Know what is right and what is wrong)
 - ・他人と共有し、交替で活動することを進んで行う
(Be willing to share and take turns with others)
 - ・他人との関係作りができる
(Be able to relate to others)
 - ・好奇心を持ち、探求することができる
(Be curious and able to explore)
 - ・理解しながら、聞き、話しをすることができる
(Be able to listen and speak with understanding)
 - ・自分に対して充実感や幸福感を感じる
(Be comfortable and happy with themselves)
 - ・身体の協調と健康的な生活習慣を身に付ける
(Have developed physical co-ordination and healthy habits)
 - ・家族、友人、教師、幼稚園を愛する
(Love their families, friends, teachers and school)
-

このフレームワークの目的は、下記のような子どもたちの性質と技能を開発できるカリキュラムを作成するために、その指針を親と教師に示すことにある：



- ・健全な道徳的・社会的価値
(Sound moral and social values)
- ・他者と一緒に労働し、遊ぶための良い習慣 (Good habits of working and playing with others)
- ・肯定的な自己概念と自信 (Positive self-concept and confidence)
- ・周囲の物事に対する強い好奇心
(A strong sense of curiosity about things and objects around them)
- ・英語と母語で効果的にコミュニケーションできる能力
(An ability to communicate effectively in English and a mother tongue language)
- ・身体をコントロールして、操作する技能
(Physical control and manipulative skills)
- ・健康的なライフスタイルに対する積極的な態度
(Positive attitudes towards a healthy lifestyle)
- ・家族への肯定的な価値観や強力な共同体の絆
(Positive family values and strong community ties)

諸原則 (Principles)

これらの諸原則は幼児期の段階の実践例から、良質で効果的であると導き出され、明らかになっているものである。質の高い幼稚園カリキュラムに不可欠な特徴は以下である：

- ・ 発達と学習への全面的なアプローチ（A holistic approach to development and learning）
- ・ 学習の統合（Integrated learning）
- ・ 子どもたちは活発な学習者（Children as active learners）
- ・ 大人たちは学習に関心を持ったサポーター（Adults as interested supporters in learning）
- ・ 双方向的な学習（Interactive learning）
- ・ 学習を媒介する遊び（Play as a medium for learning）

原則1：全面的な発達と学習（Holistic development and learning）

発達と学習への全面的なアプローチ（A holistic approach to development and learning）

子どもの発達のあらゆる面が認識され、価値あるものと見なされるべきだ。私たち一人ひとりの学習方法は、それぞれの嗜好と能力によって異なっている。これらはそれぞれの個人の可能性を最大限に引き出すために、識別される必要がある。

どの段階においても、子どもたちの学習は、知識、技能、性質と感情に焦点を合わせなくてはならない。子どもたちは自分の様々な知力を発達させながら、探究や実験のための機会を与えられるべきだ。

学習経験に関する6つの重大な領域がこの目的のために認識されている：

- ・ 美的感覚と創造的な表現（aesthetics and creative expression）
- ・ 環境の認知（environmental awareness）
- ・ 言語と識字能力（language and literacy）
- ・ 運動技能の発達（motor skills development）
- ・ 数量的思考能力（numeracy）
- ・ 自己と社会の認識（self and social awareness）

美的感覚と創造的な表現（Aesthetics and Creative Expression）

この年齢の子どもたちは自発的に、また元気いっぱい自分自身の考えと感情を表現する。したがって私たちは、ダンスや音楽、芸術といった様々なメディアを通して、子どもたちが発明し、遊び、探求し、自分の考えと感情を洗練していくために、彼らに自由に自分を表現していく機会を提供すべきである。

環境の認知（Environmental Awareness）

活動の焦点は、子どもたちが自然の世界と人工の世界の両方を含めて自分自身の環境に対して知識と理解を深めていく点に充てられるべきである。これは歴史的、地理的、科学的な学習の基礎を早期に提供するだろう。子どもたちは、最初は直近



の環境を認識し、観察し、その見方を表現するが、やがてそれは徐々により広いシンガポールの環境や世界へと広がっていくだろう。

言語と識字能力 (*Language and literacy*)

言語は子どもたちの思考と学習の発達において決定的な役割を演ずる。言語学習に対する肯定的な気持ちを育てるためには、子どもたちがロール・プレイや歌、韻文、読書といった有意義な言語の芸術活動に触れることが不可欠だ。話をし、聞き、読み、書く中で、これらの活動は子どもたちの双方向型の技能を促進するだろう。

子どもたちはまた豊かな言語環境に置かれなければならない。そして英語で自分の欲求や思考、感情を表現するための必要なコミュニケーション技能を獲得できるように、毎日正しい状況で英語の使用を促進するような活動に専念する必要があるだろう。

運動技能の発達 (*Motor Skills Development*)

運動技能の発達は自然に発達するプロセスであるが、就学前教育はそれを当然のこととして、軽んじてはならない。実際、子どもたちが自分のことを自分でやるための日常活動（例 歯磨き）や、他の領域の技能（例 文字書きやお絵描き）を修得する上で、全身の筋肉を発達させ、敏捷さを磨くことは非常に重要である。

それゆえに、子どもたちの身体的な欲求を認識し、制限なく動き回れるような時間と空間を提供することが重要なのであり、そのことで子どもたちはバランス感覚や身体の協調性、空間や方向の認知を自然に発達させることができる。また子どもたちが自らの限界について学び、リスクに挑む自信を得るためには、安全な環境を提供することも同じく重要である。

数量的思考能力 (*Numeracy*)

数量的思考を伸ばすことは毎日の経験の不可欠な部分だ。手先や写真、シンボルなどの使用を通して、子どもたちは分類され、数えられ、共有され、表象された物事のグループ間の関係に気付く。ゆえに活動は、手を使った体験や、位置や数に関する言葉や形の名前などに関する適切な言語の習得と使用に焦点を合わせるべきである。



自己と社会の認知 (*Self and Social Awareness*)

就学前段階は、子どもたちが自分を取り巻く世界と関係し、「自己」の感覚を形成していく重要な時期である。これをするために、彼らは、自分たちが住んでいる社会を支配している価値や規則を学び、社会的・道徳的に受け入れられる行為を発達させなければならない。彼らは他者の欲求に敏感であるように学び、働く時や遊ぶ時に、有意義な関係を作り上げるために必要な社会的な技能を発達させなければならない。彼らは、成功と失敗にうまく対処する方法や、恐れや不安に立ち向かって、それを克服する方法を学ばなければならない。これらの社会的な学習体験は、子どもたちの長期的な精神衛生のため、また社会でうまく立ち回って、後に学習成果をうまく発揮するために、極めて重要である。

私たちの最優先の関心事は、充実した生活を得るために、自身の野心を追い求めながらも、思いやり、礼儀正しさ、丁寧さ、同情心を備え、他人と効果的に協力することができるような個人を養成することである。

原則2：学習の統合（Integrated learning）

学習の統合（Integrated learning）

幼い子どもたちは自身に対して起きた全てのことから学ぶのであって、その学習を教科に分けることはない。したがってその学習経験は全体として統合されるべきである。これらの学際的な活動は、教授と学習のプロセスにおいて、知識と技能は分離しているのではなく、どのようにつながっているのかを子どもたちに理解させる上で役立つ。

意味を持つ文脈の中で、子どもたちは観察、探求、検証、直接経験から物事を発見する。一つの領域の学習経験は、他の領域の学習経験へ自然に導かれるべきである。

原則3：活動的な学習（Active learning）

子どもたちは活発な学習者（Children as active learners）

学習は子どもたちが活発に関わり、彼らにとって有意義な課題に熱心に取り組んでいる時に最も効果的である。これらの活動は子どもたちの好奇心や欲求、興味に基づくべきである。レッスンは事実教授をもって、子どもたちの心をより満たすべきである。基本的な技術は子どもたちの環境に対する感覚を形成し、思考力、観察力、コミュニケーション能力を鍛えるために教えられていくだろうが、強調されるべきはワークシートを埋めて、反復練習をするよりも、自分自身の考えを知り、理解し、形成するプロセスである。

子どもたちが観察し、問い直し、検証し、直接経験から学んでいけるような十分な機会が提供されるべきである。家や学校の両方でこれらの学習経験を促進している大人は次のポイントを心に留めておくべきだ：

- ・乱雑さを許容する：探求、実験、ユニークな制作物の創作といったプロセスは、時には乱雑となり、活発な学習の活動の一部となる。
- ・子どもたちに安全な環境を保証する：滑りやすい床や鋭利なものといった障害物に気を付け、子どもたちが裸の火にさらされないように確認しよう。
- ・失敗を許容する：子どもたちが何か新しいことを試みることに恐れを感じないようにすべきである。たとえ彼らが何かをしている時に、ミスを犯し、失敗に遭遇したとしても、彼らはもう一度試みるよう励まされるべきで、その努力は称賛されるべきである。



原則4：学習の補助（Supporting learning）

大人たちは学習に関心を持ったサポーター（Adults as interested supporters in learning）

子どもたちは、知識、技能、理解と信頼をサポートし、拡大する経験、いかなる不利益をも克服できるように手助けされる経験を持つべきである。

発育をサポートする活動を計画している大人はまず、子どもたちが何を知り、することがで

きるかを考え、その上で学習経験を作り上げる。これをするために、大人は子どもたちの欲求と能力をしっかりと観察する必要がある。大人は、子どもたちがその活動が難しすぎて、フラストレーションを感じていないかどうか認識しなければならない。

その目標は子どもたちが、活動に取り組むことで、満足感と独立心を得ることにある。それが達成された時にのみ、子どもたちは学習の中で、リスクを負ったことに心地よさを感じることでだろう。その後、大人は次の挑戦や次の段階の課題へと子どもを導くことができる。

サポートは実践と理解を通して、自信を強化するために行なわれるべきだ。子どもたちに対する期待と要求は全ての領域にわたる発達レベルを勘案し、現実的であるべきだ。その目的は、学習への肯定的な態度と失敗を恐れないリスクへの心構えを奨励することにある。最も効果的な学習者は自分のミスからの学ぶことが可能な人たちである。

原則 5 : 交流を通じた学習 (Learning through interactions)

双方向的な学習 (Interactive learning)

グループへの参加は、子どもたちや大人に対する個別学習の組み立て方の柱となるものだ。愛情に満ちた肯定的な環境の中で、子どもたちと成人との間に広く有意義な相互作用がある時、子どもたちはより一層探求的な行為とより良い対等関係を示す。この原則は以下の点を示唆している。

- ・子どもたちの話：全ての子どもたちには、自分の体験を話し、考えと意見を表明し、遊んでいる時に起きた問題をいかにして解決したかを説明するための十分な機会が与えられるべきである。子どもたちは相互作用と対話の中で熱中し、関わり合うべきである。
- ・大人の話：大人は正しい言葉の使用の役割モデルを務め、子どもたちが自分の考えを表現するように励むことを称賛し、支援を行うべきである。最も良い教師は子どもたちに耳をかたむけて、彼らと会話の機会を持つ。彼らは子どもたちに耳をかたむけて、話をするのに時間をかける。彼らは子どもたちが言うことを高く評価する。
- ・グループ力学：子どもたちはペアやグループで働き、大人や友達と話をする多くの機会を持つべきだ。子どもを中心としたレッスンは、子どもたちが質問し、その考えを展開していくことをその特徴とする。設定は子どもたちに自分自身への肯定的な感覚を身につけることができるように経験とサポートを提供するべきである。
- ・言語に満ちた環境：子どもたちはまた教材や環境と相互作用する。付随的な生涯学習の多くは、子どもたちと本や壁面との相互作用から生じる。そのように様々な読み物教材は、子どもたちが簡単に手の届く範囲に置かれて、アクセスできるようにすべきである。



原則 6 : 遊びを通じた学習 (Learning through play)

学習を媒介する遊び (Play as a medium for learning)

遊びは子どもたちの学習にとって極めて重要である。遊びは、子どもたちに調査し、発見し、

リスクを負い、ミスを犯し、失敗にうまく対処するように仕向けるための乗り物のようなものである。遊びは、子どもたちを組織し、決定させ、選択させ、練習し、我慢し、感情を表現することを可能にさせる。

子どもたちに自然発生的で、想像力豊かな遊びを奨励することは重要であるが、言語を豊かに用いた構造化された遊びの機会も提供されるべきだ。

これは以下の項目を発達させ、伸長させることに役立つだろう。



- ・創造力 (creativity)
- ・口述と聴覚の技能 (oral and aural skills)
- ・数量的思考力に結びつく言語や早期の環境認知 (language associated with numeracy and early environmental awareness)
- ・個人的・社会的な技能 (personal and social skills)

したがって大人は、子どもたちの仕事として遊びを高く評価し、学習のプロセスの一部として遊びへ導き、促すべきである。

原則から実践へ (Putting Principles into Practice)

適切な諸原則は良質の実践例に基づいている。家や学校で行われる良い実践例は次の特徴を持っている：

- ・子どもから始める (They start from the child.)
- ・学習への肯定的な雰囲気が作られている (There is a positive learning climate.)
- ・細かく行きとどいた学習環境が用意されている (The learning environment is thoughtfully prepared.)
- ・活動が目的を持って計画され、構造化されている (The activities are purposefully planned and structured.)
- ・リソースが慎重に選択されて、設計されている。 (The resources are carefully chosen and designed.)
- ・子どもたちの発達が観察・把握されている。 (Children's development is observed and monitored.)

実践1：子どもから始める (Starting from the child)

子どもから始める (Starting from the child)

幼い子どもたちと共に活動しているすべての大人の出発点は子どもたち（能力、関心、性質）を知ることである。このプロセスの一部が注意深く子どもたちを観察することである。これは下記のために重要である：

- ・有意義な活動を計画する (planning meaningful activities)
- ・活動のレベルを定める (pitching the level of the activities)
- ・次の段階に向けて子どもをサポートする (supporting the



child to the next level)

- ・ 学習への耐性と潜在能力、問題点と困難な点を認識する
(identifying learning strengths and potential, problems and difficulties)

技術や考えを習得する速さが子どもによって異なっているということを心に留めておくことが重要だ。それゆえ、子どもたちが各自の能力を超えたレベルで活動するように駆り立てられたり、また他人と比較されたりすべきではない。

子どもたちは教師と親から確信を得ようとする。大人の期待感—特に親の期待感—は、子どもたちの課題への意欲をかき立てたり、学習への熱情をしぼませたりする。だから大人は自身の期待感を適切に定めて、壊れやすく、かけがえのない子どもの自尊心を守ってあげなければならない。

問題を早く認識することは、将来子どもたちが大きな障壁を克服するために役立つだろう。早く認識すれば、親、教師、子どもたちは問題に効果的に対処できるようになる。

子どもが問題を持っているかどうかを最も適切に認識できる立場にあるのは、親と教師である。子どもたちが学習困難に遭遇しているかどうかを見つけたす方法の一つは、しっかりと彼らを観察することだ。子どもが他の子どもたちと一緒に発達していない時には気を付けたほうが良い。できるだけたくさんの指導を行い、長時間にわたって子どもを観察・把握しよう。もし問題が持続するなら、専門家の手助けを求めよう。

早い段階で手が差し伸べられれば、子どもが持っているどのような問題でも解決することはより容易となる。そのために親が可能な限り早く専門家の手助けを求めるように奨励されるべきだ。

実践 2 : 学習への肯定的な雰囲気を作る (Fostering a positive learning climate)

学習への肯定的な雰囲気を作る (Fostering a positive learning climate)

有意義な学習は、実験や探求へと子どもたちを誘って、彼らが分からないことを知ろうと励む時にしか生まれまいだろう。

大人はすべての子どもたちが守られて、安全で、必要な存在と感じられるようにすべきである。子どもたちが答えを必死に探すように問いかけ、リスクに挑むことを厭わないように奨励すべきである。また子どもたちが自分の行動と選択に対して責任を取り始めるように働きかけていくべきである。

親と教師は子どもたちが自信と安心感を得るような相互尊重の雰囲気と一緒に活動すべきである。

暖かく、親密な家庭の雰囲気は最適な学習へと導く最善の環境である。食事の時に毎日会話をし、話題を共有する時間を設けることは、学習に対する肯定的な性格を強化する。

実践 3 : 学習環境を整える (Preparing the learning environment)

学習環境を整える (Preparing the learning environment)

部屋の物理的な配置は、その場所で行われる活動に影響を与える。それは探求と実験を導くこともできるし、あるいは反対に創造力を抑制し、想像力を限定することもできる。

そのように、教室の配置は教授と学習に大きな影響力を持っている。物理的なレイアウトは、そこで行われようとしている学習活動に影響を与える。例えば、教室の前に教員が座るように

机と椅子を配置すれば、おそらく教師中心型で座学的な活動となり、子どもたちは受動的で、指示待ちになるだろう。

しかしながら、教師が自由に動き回って、子どもたちと一緒により積極的な相互作用ができるように配置すれば、学習活動は活動的になっていくだろう。

子どもたちは、自分の時間に自分のペースで、自由に一人で、探求し、試行錯誤するための十分な機会と励ましを必要とする。これは部屋の周りに配置された学習センターでできるだろう。これらのセンターのために設計された活動は、探求、実験、協力、意思決定を奨励すべきである。最後にできた成果よりも、活動的で社会的な学習プロセスの方が、計画を立てる際のものであるべきだ。

学習センター（Learning centres）の種類

- ・ 演劇（Dramatic Play）
- ・ ミニチュア世界（Miniature World）
- ・ 芸術・工芸（Art & Crafts）
- ・ 言語（Language）
- ・ ブロック遊び（Blocks）
- ・ 水遊び（Water Play）
- ・ 砂遊び（Sand Play）
- ・ 発見（Discovery）
- ・ 図書館（Library）
- ・ テーブル玩具（Table Toys）
- ・ コンピュータ（Computer）
- ・ 数量的思考能力（Numeracy）



子どもたちの活動を掲示する（Displaying children's work）

教室でなされる多くの学習には様々な側面がある。例えば、子どもたちが自分たちで創作したお話を何度も読む時に、読み方の技能が発達する。子どもたちは自分たちの成果物が掲示された時に、その成果に誇りを持ち、高く評価されたことを認識する。このことから、教室や園の周囲に子どもたちの創作物が一定期間中、掲示されることは、好ましいことである。

実践4：学習活動を計画し、構造化する（Planning and structuring learning activities）

活動の計画（Planning activities）

大人は、活動の目的や、子どもの関わり合いが維持されるようなやり方を明示しなければならない。もし、活動の期待される成果が不明確であるなら、学習は最適化されないかもしれない。それゆえに、一度に多くをカバーしようとするよりも、それぞれの活動の目的は、ただ1つあるいは2つだけ設定しておくほうが賢明である。

大人は、子どもの学習と発達の全ての局面一個人的、社会的、感情的、身体的、または知的側面—が、相互に関係し、相互依存的事であることを理解しなければならない。そしてこのことは計画の全てに反映されるべきである。

それゆえに、活動は豊かで刺激的な体験を提供すべきである。大人が下記のような準備をすれば、学習はうまく立ち上がるだろう。

- ・ 適切で、想像力を引き出し、やる気を起こさせ、楽しく、挑戦的な体験を計画する。

- ・技能と知識を教えるための毎日の行事と日常的な活動から生じる様々な学習機会を効果的に用いる。
- ・活動の目的を理解して、子どもたちを指導する。
- ・豊かで、明確で、文法的に正しい言葉を使う。何が話され、大人がどのようにそれを用いるかということは、新しい語彙を紹介して、子どもたちの思考言語を発達させる方法ために重要である。
- ・子どもたちの学習態度に肯定的な影響を与えるようなやり方で、子どもと関わり、サポートする。
- ・子どもたちの成長をいかに手助けするかということを計画するために、子どもの次の学習ステップを考える。

学習プロセスが効果的であるような活動を行うために、大人は次のことを理解するように留意しなければならない：

- ・幼い子どもたちが学ぶ方法
- ・子どもたちの関心、欲求、能力
- ・学習の性質と教授プロセス
- ・期待される成果

計画された活動は、子どもたちを次のように奨励することで、その参加を促していくべきである：

- ・お互いに学ぶ
- ・動きと五感全てを通して学ぶ。
- ・考えや関心事を深く思索する時間を持つ。
- ・自信を持った学習者になるために、安心感を持つ。
- ・異なった方法、異なったペースで学ぶ。
- ・学習へとつなげる。
- ・言語の発達と使用を促進する想像性豊かな遊びを創って、取り組む。



実践5：リソースを準備する (Setting up resources)

教材を選択し、デザインする (Choosing and designing materials)

最も良いリソースや教材とは以下のようなものである：

- ・日常の活動で簡単に、すぐに手に入るもの。
- ・制約が少なく、子どもたちがやりたいと思うような創造力を引き出すもの。
- ・刺激的なもの。
- ・多種多様な幅広いメディア。
- ・幼い子どもたちにとって魅力的で、彼らの興味を維持できるもの。

この観点からして、子どもたちが一人で、自由に、自身を表現することができるように、白い紙や筆記用具（鉛筆、クレヨン、木炭スティック、絵の具など）がすぐに使えるように用意しておくことが良いだろう。

教材を飾っておくことも、子どもたちの学習へのアクセスを促すための一つの方法である。

コンピュータ、テレビ、デジタルカメラといった技術は、今日のシンガポール人の生活のすべての局面において重要な役割を演じている。幼い子どもたちがこれらの技術を用いることは潜在的な利益があるかもしれないが、技術は、集団活動や学習、創造性を促すような非常に価値の高い幼児の活動に取って代わるものではなく、あくまでも補助的なものにすぎない。大人はこれらの特殊な技術を用いることが年齢、個人、文化の面で適切であるかどうか、またプログラムの内容に適切であるかどうか、判断する必要がある。

教材が指導を導くのではないということに留意しておくことは重要だ。教材は学習をサポートする。ワークシートや紙は指導の目標ではなく、教えた内容を強固にするためのものである。

実践6：子どもたちを観察する（Observing children）

子どもの発達を観察し、把握する（Observing and monitoring children's development）

子どもを教えるための唯一の方法は、彼・彼女をよく知ることだ。子どもたちをよく知ることでのみ、私たちは子どもの反応に適切に対応することができる。



子どもの成長を観察し、記録しておくことは、プログラムを計画し評価する上で大切である。もし大人が子どもたちの発達上の欲求を満たそうとするなら、日頃からその記録や観察内容を参照する必要があるだろう。

子どもたちの成長と発達を観察することは、例えば、線描、絵画、スケッチ、文字書き、記号創り、コンピュータで作成した作品といったポートフォリオの内容でも可能である。

このようなやり方で個人の記録を書きとめ、記録すれば、子どもたちの成長の程度を親に知らせることができる。

教師と親の間の強いパートナーシップがそれぞれの子どもの発達の中に貴重な洞察をもたらすことができる。

教師と親がそれぞれの子どもの到達内容と関心事を共有すれば、子どもは自分がかげがえのない存在であると感じ、自信を持つことができるようになるだろう。

学習の優先順位を認識し、個々の子どもたちの適切な学習経験を計画するために、教師は家庭と園内の両方での観察を用いることができる。親と教師が自身の期待にその観察内容を一致させることもできる。このようにして、私たちは子どもたちに自身の十分な潜在能力を認識させ、熟達した生涯学習者へと引き上げることができる。

家庭と学校のパートナーシップ（Home-School Partnership）

家族の関わり方（Family involvement）

すべての子どもが社会的存在である。子どもたちは、親や教師が自分の成長を共有し、その発達のために計画を立ててくれていると分かった時、自分が共同体や家族にとってかけがえのない存在であるということを理解する。このことは子どもたちに学習へのやる気を起こさせ、

その一生を通じた自身の目標と野心を抱かせるように励ますことだろう。

常に子どもの成長について学校と情報を交換し、子どもの発達に関わっている家族では、子どもたちは充足感を持つだろう。

家族は子どもたちの一生に最も重要な影響を与える。誠実、尊敬、自身の行動に対する責任といった価値観は、子どもの最初の役割モデルとなる親によって教え込まれる。

これらの価値観を達成すれば、私たちの子どもたちは後の生活で、良い市民と社会の有為なメンバーになるだろう。そのためにも親が子どもと一緒に物事をし、その人生や周囲の物事や家族の歴史、最近の出来事、趣味、最近の学校での出来事などについて話す時間を設けることが役立つだろう。

親の役割は重要であるから、学校は常に家族を迎え入れ、学校が子どもの全面的な発達を手助けするための強力なパートナーであることを認識してもらえるように努めなければならない。学校はニュースレターや討論会、例会などを通して、子どもの学習について親と意見交換を行うように用意しておくべきである。

結語

幼稚園の時代は、子どもたちが生涯学習の旅行を始めるきっかけとなる重要な時期である。それゆえに、私たちは子どもたちの教育のために自身の目標を心に留めておくことが大切である。

教育への準備がなされているとは、以下のような子どもたちのことである。

- ・楽しい学習者：自分の身に訪れた出来事に楽しみを見いだすことができる。
- ・好奇心を持った学習者：自分たちが生きている世界のことを知ろうと、積極的かつ自発的に質問をする。
- ・親切的な学習者：謙虚に他人から学んで、他者と共有しようと努める。



平成 14・15 (2002・2003) 年度 科学研究費補助金 (基盤研究(C)(1)) 課題番号 14510321

タイ・マレーシア・シンガポールにおける
就学前教育の実態に関する実証的比較研究

— 民族性・国際性の育成と国際化への対応を中心として —

中間報告書 (資料分析集)

発行日 平成 15 (2003) 年 3 月 31 日
編集・発行 研究代表者 池田 充裕
〒400-0035 山梨県甲府市飯田 5-11-1
TEL (代表) 055-224-5261 / FAX (代表) 055-228-6819
印刷 横河グラフィックアーツ株式会社 甲府営業所
